

# ①『田中親友夜学校日誌』

## 解題

本資料は、明治時代末から大正時代初めにかけて京都府愛宕郡田中村の被差別部落にあった田中親友夜学校の歴史を記したものである。筆者は同夜学校教師の上田静一で、日誌と題されているように、上田が多忙な日々のなかで綴ったものである。資料は三冊からなり、いずれも縦二三・五cm、横一六cmの和紙の野紙が使用されている。記事はペン字と毛筆で記されているが、後半になるにつれてペン字が増加している。表紙は白地の和紙に表題が記され（上田静一資料目録「参照」、和綴じされている）。

資料の時期は、一九〇九（明治四二年）四月から一九一六（大正五年）年一二月にわたる。田中のこの夜学校の開設は〇六年一月だが、この『日誌』が始まるのは、夜学校が軌道に乗り、〇九年一月に夜学校校舎新築計画が決定した後の、明治四二年度新学期開始と同時に書かれ始めたものといえる（ただし、別資料である「田中親友夜学校沿革史」には、四二年度以前の夜学校記録が記されているので、四二年度以前の『日誌』もあったのかもしれない）。三冊目の最後は、上田が本務校である田中尋常小学校訓導を退職するまでである。上田は同小学校の夜学担当であったから、同時に親友夜学校教師も退

職となる。北海道移住のための退職であった。

つまり、これら三冊の『日誌』は、当初は単に夜学校と称せられていた夜学が、新築された校舎に移ることが決まり、その名も親友夜学校となっていく時期から、上田が、夜学校を離れて北海道に向かうまでの夜学校の盛衰を克明に記したものである。

初期の『日誌』には、一九〇〇（明治三三年）年の第三次小学校令前後から一層顕著となっていた中央・地方行政による就学率向上のための諸施策の風も受けて、それまで試みながら頓挫してきた部落の人びとの教育への願いが、上田という青年教師を得て出発した夜学校が発展していく様が記されている。その叙述は、初めて教育の機会を得た子どもたちの明るい姿を伝えると同時に、義務教育ならば当然普通のことである状態が、格別の感動と嬉しさに溢れているという、貧しい子どもたちの過酷な状況を図らずも記録している。

担当教員の遣り繰りを続けながら夜学校は進展していったのだが、やがて夜学校は財政と管理の問題に挟撃され、存続の危機を迎える。その模様を『日誌』は刻々と伝えている。夜学校の財政基盤は危うい頼母子講の利益であり、法的には、教育行政の一環としての位置を与えられているかのような夜学校への公的な補助は僅かである。しかも、その僅かな村費補助支給停止を武器に夜学校運営管理に介入してくる行政との軋轢。その過程を見ると、就学率の向上をめざす教育政策の内実や、教育を管理の対象とすることに手段をえらばない地方行政の実態が暴露されている。その詳細は、拙稿本文に

譲るが、この『日誌』は、一夜学校の校務記録を超えて、当時の教育状況を示す貴重な資料となっている。

また、この『日誌』は、教育だけでなく、当時の被差別部落の生々しい人間関係や生活実態を記している。夜学校の存続をのみ願う上田の直情と行動は、教育の場だけでなく、夜学校を支えてきた部落の人びとの日常生活の場でも、波風を起こしていく。そこで顕わになった人間模様は、生活史の資料としても価値のあるものだといえる。部落の人びとの生活に大きな影響を持った頼母子講の様子も含めて、この資料は明治時代末期の部落改善事業から融和・水平運動へ至る時代の具体的な生活状況と、人びとの考えと行動を把握する研究の一助となるであろう。

そしてなによりも、この資料は貧しい子どもたちの教育の機会を確保しようとした一青年の奮闘の軌跡を示して興味深い。上田が、夜学校に赴任したのは満二三歳、本『日誌』は、彼の二五歳から三二歳までの夜学校での活動記録である。二十世紀の初頭、元号が明治から大正へと変わる頃、京都の片隅で、日々の喜怒哀楽は勿論、他人への痛罵も隠すことなく綴ったこの青年教師の記録は、私たちを、彼が生きた時代へ誘ってくれよう。

なお、本資料は、「醇成青年会日誌」とともに、上田が一九三七年一月の『報恩記念碑建設趣旨書・田中親友夜学校沿革史』執筆の際に、原資料としたものであることが、その内容から確認できる。

(白石正明・元佐賀大学教員)

#### 【凡例】

- 原文の旧字・俗字は常用漢字とした。
- 判読不能または難読字は□とし、文字数分置いた。また抹消字で判読不能の場合は■とし、文字数だけ置いた。
- 訂正された文字は「」中にいれ、訂正した文字をその下に置いた。
- 欄外の記述は「」の中に入れ、当該日と思われる横に記した。
- 原文は一行罫紙を使用しているが、罫紙の枠などは無視した。
- 誤字・脱字などがあるが、特に正字の訂正はしていない。
- 月の変わりは、原文が一行あけていなくとも一行あけた。
- 原文の中で、一部に現在では差別のおよび不適切な表現があるが、歴史的資料としてそのままとした。

## 明治四十二年四月以降

### 日誌

田中村親友夜学校

子 宛

信

札

三官

福順  
王成  
李王

男児八景

泰山喬獄之身  
天空海潤之腹  
和風甘雨之色  
日照月臨之目  
施乾乾坤之手  
磐石砥柱之足  
臨深履薄之心  
玉潔氷清之骨

(呂新兵語録)

小人十二態 呂新兵語録

惡漢之態……………粗豪  
婦人之態……………柔懦  
兒女之態……………嬌雅  
市井之態……………貧鄙  
俗子之態……………庸陋  
蕩子之態……………儇佻  
倫優之態……………滑稽  
閥閼之態……………村野  
鄙人之態……………屈迫

婢子之態……………卑諂  
偵諜之態……………詭闇  
商売之態……………銜轡

明治四十二年四月五日

月日 曜日 晴雨 記事

生徒出席數  
男 女

四月五日 月 晴 明治四十二年第一學期本日ヨリ開始ス

|     |       |                        |    |    |
|-----|-------|------------------------|----|----|
| 〳六日 | 火 曇夜雨 | ナシ                     | 二五 | 一〇 |
| 〳七日 | 水 晴   | ナシ                     | 二七 | 九  |
| 〳八日 | 木 〳   | ナシ                     | 二五 | 一〇 |
| 〳九日 | 金 〳   | ナシ                     | 二九 | 九  |
| 〳十日 | 土 〳   | (九時半ヨリ雷鳴夕立アリ) 本日中山三乃雄氏 | 二八 | 一〇 |

主演アリ 其ノ大意 人生七十年

題目 命神 三十年間修業期 次十八年間

次十八年間大々の活動期 次十二年活動整理

期 次十年間保養天命ヲ待ツノ期終リ

本日本村自強会アリ放課後生徒一同參列ス

休日

四月十一日 日 晴天

〳十二日 月 晴

本日生徒廣崎政吉、松下清十郎算 二九 一一  
衛助教授ヲナス  
本日女生徒西山すて西村この之二名ニテ

|       |      |  |                    |       |      |  |               |
|-------|------|--|--------------------|-------|------|--|---------------|
| 〳十三日  | 火 晴  | 白木綿、綿ヲ買ヒ求メ之レヲ寄付シ手ツカラ<br>椅子修繕ヲナス<br>入学生男四名アリ          | 三七<br>九            | 〳二十九日 | 木 〳  | ナシ   | 「四七」三二<br>五   |
| 〳十四日  | 水 雨  | ナシ   | 二五<br>八            | 〳三十日  | 金 〳  | 本日同志社専門部学生湯浅氏外九<br>名參觀ニ来ラル内三名演説アリ<br>一、人ノ価値ハ方寸ノ内ニアリ<br>二、学問ト国力<br>三、道徳ノ基礎宗教ニアリ<br>本日時間割明土曜日二代フ     | 四七<br>七       |
| 〳十五日  | 木 晴  | 本日余自張会へ出席セル為生徒廣崎政吉                                   | 二四<br>八            |       |      |  |               |
| 〳十六日  | 金 晴  | 吉田仙二郎ヲ以テ代用授業ヲナサシム<br>本日廣崎政吉吉田ヲ以テ代用授業ヲナサシム            | 二六<br>九<br>三〇<br>八 | 五月一日  | 土 晴  | 本日塗板二枚新調出来タリ<br>本日田中校職員中山三乃雄氏助ケ教授セ<br>ラル<br>休ミ   | 三五<br>七       |
| 〳十七日  | 土 晴  | 本日ノ晰 日本魂 向上心   |                    | 〳二日   | 日 晴  | 本日青年生徒徴兵検査合格者三名<br>アリ 鍵田清三郎篠原谷造廣崎広吉  | 四四<br>七       |
| 〳十八日  | 日 晴  | 休日   |                    | 〳三日   | 月 晴  | 本日午後一時本府師範学校長鈴木光愛<br>氏夜学場參觀及ビ村内觀察ニ来ラル  |               |
| 〳十九日  | 月 大雨 | ナシ   | 一八<br>六            | 〳四日   | 火 晴  | 本日廣崎政吉助教授ヲナス<br>中山三乃雄氏助教授ヲナス<br>本日ヨリ当分中山三乃雄氏ヲ助ケ<br>教師トシテ授業ヲ依頼セリ<br>一、本日ヨリ甲乙組尋常六年組二階ニ上ゲ二階<br>ヲ教室トセリ | 四三<br>二二<br>九 |
| 〳二十日  | 火 晴  | ナシ   | 三四<br>五            |       |      |  |               |
| 〳二十一日 | 水 晴  | ナシ   | 四一<br>五            |       |      |  |               |
| 〳二十二日 | 木 晴  | 本日弁天夜店ノ為欠席生多シ<br>本日田中小学校木村弥一郎氏參觀ニ来ラル<br>吉田仙二郎助ケ教授ヲナス | 二三<br>五            | 〳五日   | 水 小雨 |  |               |
| 〳二十三日 | 金 晴  | ナシ   | 三八<br>七            | 〳六日   | 木 雨  |  |               |
| 〳二十四日 | 土 晴  | ナシ   | 三七<br>八            |       |      |  |               |
| 〳二十五日 | 日 晴  | 休日   |                    |       |      |  |               |
| 〳二十六日 | 月 晴  | 廣崎政吉助ケ教授ヲナス  | 三九<br>七            |       |      |  |               |
| 〳二十七日 | 火 晴  | 本日不正生徒一名アリ（尋常科一年組生<br>徒）此日ニ訓誡し猶親の宅ニ行キ注意ス             |                    | 〳七日   | 金 晴  | 本日同志社神学部学生出演セラル<br>一、伝記物 リヂア伝  | 四〇<br>七       |
| 〳二十八日 | 水 晴  | ナシ   | 四一<br>四            |       |      |  |               |

|       |   |   |                               |   |    |    |   |                       |
|-------|---|---|-------------------------------|---|----|----|---|-----------------------|
|       |   |   | 二、前金曜日続キ（道德ノ基礎）宗教一部           |   |    |    |   |                       |
|       |   |   | ノ原則 四字、敬愛信神                   |   |    |    |   |                       |
|       |   |   | 三、などがけより道德談ニ及ブ                |   |    |    |   |                       |
| 五月八日  |   |   | 土                             | 晴 | ナシ | 四三 | 八 | ナシ                    |
| 〳九日   | 日 | 〳 | 休ミ                            |   |    |    |   | 〳二十五日 火               |
| 〳十日   | 月 | 〳 | ナシ                            |   |    | 四〇 | 七 | ナシ                    |
| 〳十一日  | 火 | 〳 | ナシ                            |   |    | 三七 | 七 | 〳二十六日 水               |
| 〳十二日  | 水 | 〳 | ナシ                            |   |    | 三七 | 七 | ナシ                    |
| 〳十三日  | 木 | 〳 | ナシ                            |   |    | 三七 | 七 | 〳二十七日 木               |
| 〳十四日  | 金 | 〳 | 本日ハ祭日ノ前（夜店）及ビ弁天<br>夜店ノ為メ出席生少シ |   |    | 六  | 二 | ナシ                    |
| 〳十五日  | 土 | 〳 | 本日祭日ノ為メ休学ス                    |   |    |    |   | 〳二十八日 金               |
| 〳十六日  | 日 | 〳 | 休ミ                            |   |    |    |   | 〳二十九日 土               |
| 〳十七日  | 月 | 晴 | ナシ                            |   |    | 二〇 | 七 | 本日同志社学生出演             |
| 〳十八日  | 火 | 〳 | ナシ                            |   |    | 一九 | 七 | 一、神ノ説明 宇宙創造者          |
| 〳十九日  | 水 | 〳 | ナシ                            |   |    | 二一 | 六 | 神ノ心 万ヲ愛シ玉フいきたる神       |
| 〳二十日  | 木 | 〳 | ナシ                            |   |    | 三三 | 七 | 二、りぢあノ続キ女子ノ操          |
| 〳二十一日 | 金 | 〳 | 本日ヨリ生徒少キ為メ中山氏助教授ヲ断ル           |   |    |    |   | 休ミ                    |
| 〳二十二日 | 土 | 〳 | 同志社出演                         |   |    | 二〇 | 八 | ナシ                    |
|       |   |   | 一、前ノ続キ敬愛説明                    |   |    | 一九 | 七 | 〳三十日 日                |
|       |   |   | 二、信者りぢあノつゞき                   |   |    |    |   | 〳三十一日 月               |
| 〳二十三日 | 日 | 晴 | 休ミ                            |   |    |    |   | 六月一日 火                |
| 〳二十四日 | 月 | 〳 | ナシ                            |   |    | 二三 | 七 | 〳二日 水                 |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 〳三日 木                 |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 本日月明かナルヲ以テ夜中月ヲ踏       |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | ミテ聖護寺山ニ登ル八時半出発        |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 一、山上ニテ修身談ヲナス          |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 二、山上ニテ四面ノ風景ヲナガメツ、唱歌ヲ歌 |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | ハス                    |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 三、山上ニテ生徒ニ菓子ヲ与フ        |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 拾時半帰校ス                |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 本日清国浦中学校附属小学校主        |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 任 愈旨式子弟               |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 清国蘇洲半日学校教員            |
|       |   |   |                               |   |    |    |   | 胡寶李                   |

清国蘇洲城内護龍街（日本第三高留學生）

盛徳「館」銘ヲ通訳トシテ談話ス「（通訳

ヲナス）」

右初二氏は清国ヨリ日本小校視察ノ為メ

来リ我が夜学ヲ參觀セルナリ

生徒ノ清書二枚持ち帰レリ

本日同志社學生四名出演セラル

休ミ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

題目ヲ代ヘ」

吾人ノ心ノ光ニ付キテ話サル 一休上人ニ付キ

テ

大学生佐藤氏前ノ続キ動物ノ助ケ相

休ミ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

同志社學生中江氏出演一休上人ノ話

キリスト伝断リシ為題目ヲ代ヘラル

人ノ価値何処ニアルカ

大学生出演佐藤氏代理法律ノ一班

休ミ

ナシ

本日光明月ヲ踏ミテ加茂川堤ニ

散歩ス

男生徒駈ケクラブ

女生徒ノ優美ナル唱歌

何レモ楽シク散歩セリ

出発八時半帰校十時ナリキ

ナシ

|       |   |   |  |    |    |         |   |    |    |    |
|-------|---|---|--|----|----|---------|---|----|----|----|
| 七月一日  | 木 | 晴 | ナシ   | 二四 | 一一 | 七月一日    | 日 | 休ミ | 二五 | 九  |
| 七月二日  | 金 | 晴 | ナシ   | 二〇 | 八  | 七月二日    | 火 | ナシ | 二四 | 一〇 |
| 七月三日  | 土 | 晴 | 法科大学生出演セラル<br>宜敷非ハ男ラシクあやまるべし此レヲ<br>ごまかすハ不可ナリ | 二八 | 一〇 | 七月三日    | 水 | ナシ | 二七 | 一〇 |
| 七月四日  | 日 | 雨 | 休ミ   |    |    | 七月四日    | 木 | ナシ | 二八 | 一〇 |
| 七月五日  | 月 | 晴 | ナシ   | 三五 | 九  | 七月五日    | 金 | ナシ | 二八 | 九  |
| 七月六日  | 火 | 晴 | ナシ   | 三四 | 九  | 七月六日    | 土 | ナシ | 二六 | 八  |
| 七月七日  | 水 | 雨 | 本日女生徒西山すてヨリ上草履<br>二十足                        | 三五 | 九  | 七月七日    | 日 | 休ミ |    |    |
| 七月八日  | 木 | 晴 | 生徒ノ為寄附セラル                                    |    |    | 七月八日    | 月 | 晴  | 休  |    |
| 七月九日  | 金 | 晴 | 本日田中学校教員中山三乃雄氏ヨリ<br>書物十五冊図書館へ寄附セラル           | 三四 | 一〇 | 七月九日    | 火 | 休  |    |    |
| 七月十日  | 土 | 晴 | ナシ   | 二三 | 一〇 | 七月十日    | 水 | 休  |    |    |
| 七月十一日 | 日 | 晴 | 休ミ   | 三三 | 九  | 七月十一日   | 木 | 休  |    |    |
| 七月十二日 | 月 | 晴 | ナシ   | 二九 | 九  | 七月十二日   | 金 | 休  |    |    |
| 七月十三日 | 火 | 々 | ナシ   | 二七 | 九  | 七月十三日   | 土 | 休  |    |    |
| 七月十四日 | 水 | 雨 | ナシ   | 二八 | 九  | 七月十四日   | 日 | 休  |    |    |
| 七月十五日 | 木 | 晴 | ナシ   | 二九 | 一〇 | 七月十五日   | 月 | 休  |    |    |
| 七月十六日 | 金 | 々 | ナシ   | 二八 | 九  | 七月十六日   | 火 | 休  |    |    |
| 七月十七日 | 土 | 々 | ナシ   | 二六 | 八  | 七月十七日   | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月十八日   | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月十九日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十日   | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十一日  | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十二日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十三日  | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十四日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十五日  | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十六日  | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十七日  | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十八日  | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月二十九日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月三十日   | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 七月三十一日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月一日    | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二日    | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月三日    | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月四日    | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月五日    | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月六日    | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月七日    | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月八日    | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月九日    | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十日    | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十一日   | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十二日   | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十三日   | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十四日   | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十五日   | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十六日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十七日   | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十八日   | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月十九日   | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十日   | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十一日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十二日  | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十三日  | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十四日  | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十五日  | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十六日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十七日  | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十八日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月二十九日  | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月三十日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 八月三十一日  | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月一日    | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二日    | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月三日    | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月四日    | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月五日    | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月六日    | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月七日    | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月八日    | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月九日    | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十日    | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十一日   | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十二日   | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十三日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十四日   | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十五日   | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十六日   | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十七日   | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十八日   | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月十九日   | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十一日  | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十二日  | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十三日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十四日  | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十五日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十六日  | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十七日  | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十八日  | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月二十九日  | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 九月三十日   | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月一日    | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二日    | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月三日    | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月四日    | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月五日    | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月六日    | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月七日    | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月八日    | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月九日    | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十日    | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十一日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十二日   | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十三日   | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十四日   | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十五日   | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十六日   | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十七日   | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十八日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月十九日   | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十日   | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十一日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十二日  | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十三日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十四日  | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十五日  | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十六日  | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十七日  | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十八日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月二十九日  | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月三十日   | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十月三十一日  | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月一日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二日   | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月三日   | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月四日   | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月五日   | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月六日   | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月七日   | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月八日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月九日   | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十日   | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十一日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十二日  | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十三日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十四日  | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十五日  | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十六日  | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十七日  | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十八日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月十九日  | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十一日 | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十二日 | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十三日 | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十四日 | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十五日 | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十六日 | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十七日 | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十八日 | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月二十九日 | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十一月三十日  | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月一日   | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二日   | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月三日   | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月四日   | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月五日   | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月六日   | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月七日   | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月八日   | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月九日   | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十日   | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十一日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十二日  | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十三日  | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十四日  | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十五日  | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十六日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十七日  | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十八日  | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月十九日  | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十日  | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十一日 | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十二日 | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十三日 | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十四日 | 火 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十五日 | 水 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十六日 | 木 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十七日 | 金 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十八日 | 土 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月二十九日 | 日 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月三十日  | 月 | 休  |    |    |
|       |   |   |  |    |    | 十二月三十一日 | 火 | 休  |    |    |

八月一日 日 晴 本日朝六時生徒集合加茂川ヨリ 七二 一四

砂上ゲヲナス

女生徒ハ砂上ゲ外雜役ニ服ス

十一時半中食ニ帰ル二時集合午後五時終ル

講元ヨリ氷八貫目まくわ一ツ桃七ツ宛給

与セラル

立坪五坪ばかり運搬セリ

〳二日 月 晴 休学中

【附たり 大坂火災アリタリ】

〳三日 火 〳

〳四日 水 〳

〳五日 木 〳 本日五日校舎建設ニ着手ス

〳六日 金 〳

〳七日 土 〳

〳八日 日 〳

〳九日 月 〳

〳十日 火 〳 本日青年生徒發起大坂火災義捐金ヲ募集セリ

〳十一日 水 〳 休学中

〳十二日 木 〳

〳十三日 金 〳

〳十四日 土 〳 附たり（大地震アリ伊吹山附近陥落地震）

〳十五日 日 〳

〳十六日 月 〳

〳十七日 火 〳

〳十八日 水 〳 （附たり大坂火災爆發アリ）

〳十九日 木 晴 休ミ

〳二十日 金 〳

〳二十一日 土 〳

〳二十二日 日 〳

〳二十三日 月 〳

〳二十四日 火 〳

〳二十五日 水 〳

〳二十六日 木〔雨〕 〳 本日大坂火災義捐金七円四十銭寄送郵税九

〳二十七日 金〔雨〕 〳 休ミ

〳二十八日 土 晴

〳二十九日 日 晴

〳三十日 月 雨 本日校舎上棟式興行

〳三十一日 火 晴

九月一日 水 雨

〳二日 木 晴

〳三日 金 雨

〳四日 土 雨

〳五日 日 晴 本日青年生徒十二名ト教室大掃除ス

〳六日 月 晴 本日ヨリ第二学期授業開始ス

一五 〇



|       |       |  |        |      |  |       |
|-------|-------|--|--------|------|--|-------|
| 〓七日   | 火 晴   | 本日斎藤店ヨリ生徒学用品出売ヲ 三三 六<br>約シ売上高一割ヲ割「割」引もどしスル事ヲ<br>約ス<br>割戻し金ヲ積ミ立テ学校有用品ヲ買フ<br>予定  | 〓十七日   | 金 晴  | ナシ   | 三三 一九 |
| 〓八日   | 水 晴   | ナシ   | 〓十八日   | 土 大雨 | 本日男子青年会員集合会長ヲ<br>選挙ス当選者浅井清三郎氏<br>当選十六標 選挙人員三十名欠員二名 | 三〇 ×  |
| 〓九日   | 木 〓   | ナシ   | 〓十九日   | 日 大雨 | 休ミ   |       |
| 〓十日   | 金 〓   | 本日生徒廣崎政吉和田梅次郎「林」二九 六<br>代用教授ヲナサシメ自分ハ百万辺夜学ニ行ケリ<br>本日女生徒七名男生徒一名入学ス 二九 一四<br>入学生ニ注意ヲ与フ<br>一、欠席セザル事<br>二、一村女子ノ手本ヲ以テ自ラ任ズル事<br>三、生徒間党脈ヲ作ラザル事<br>四、男生徒ニ接近セザル事 | 〓二十日   | 月 晴  | 本日貯金日 他ハナシ生徒松下助ケ教授ヲナス                              | 三八 二四 |
| 九月十一日 | 土 晴   |  | 〓二十一日  | 火 晴  | 本日甲組生徒二軍人予備教育ヲ參觀せしむ                                | 三八 二二 |
| 〓十二日  | 日「晴」曇 | 休ミ   | 〓二十二日  | 水 晴  | ナシ   | 三〇 一〇 |
| 〓十三日  | 月 晴   | 兼テヨリ生徒各個貯ヲ奨励セシガ 三四 一二<br>本日ヨリ夜学場内ニ於テ早瀬郵便局ヨリ出張ヲ<br>願ヒ貯金せしムル事ニなせり沓銭切手ニ銭切手<br>ヲ台紙ニ張りつくるコト   | 〓二十三日  | 木 晴  | 本日貯金日  | 二五 一六 |
| 〓十四日  | 火 晴   | ナシ   | 九月二十四日 | 金 曇  | 本日秋季皇霊祭ニ付キ休ミ                                       | 三〇 一一 |
| 〓十五日  | 水 晴   | ナシ   | 〓二十五日  | 土 雨  | 本日学科唱歌君ガ代秋ノ初メ                                      | 二五 一五 |
| 〓十六日  | 木 晴   | 本日貯金日郵便局ヨリ貯金奨励ノ 三九 一七<br>為生徒各一人ニ就キ一銭切手（二   | 〓二十六日  | 日 雨  | 休ミ   |       |
|       |       |  | 〓二十七日  | 月 晴  | 記事ナシ   | 二五 一五 |
|       |       |  | 〓二十八日  | 火 晴  | ナシ   | 三一 一六 |
|       |       |  | 〓二十九日  | 水 雨  | ナシ   | 一八 一五 |
|       |       |  | 〓三十日   | 木 雨  | 貯金日  | 二一 一七 |
|       |       |  | 十月一日   | 金 晴  | ナシ   | 一八 一八 |
|       |       |  | 〓二日    | 土 晴  | 本日伊勢内宮遷宮日ニ就キ其ノ式ヲ行フ                                 |       |

二四

生徒一同君ガ代唱歌内官様ノ歴史我が「二二」

国家基礎神ノ心国民ノ心得ヲ話ス 「二五」

休ミ

ナシ

本日青年ヲ集メ青年中ヨリ青年会 二六

役員ヲ会長ヨリ指命セラル幹事四名

佐々木浅吉

篠原勇三郎

吉田寅吉

坂田捨吉

本日余学校事務ノ為生徒独習ヲサセタリ

監督鍵田清三郎吉田寅吉二名ニ托ス

ナシ

貯金日

生徒一同自強会ニ行ク

休ミ

本日ハ男生徒「中」校舎前地盛ヲナス

女生徒ハ西山すてニ托シ勉強ヲナサシム

本日モ男生徒ハ地盛ヲナス

女生徒ハ西山すてニ托シ勉強ヲナサシム

本日モ地盛

ナシ

ナシ

ナシ

命シ置ク同志社学生二名(中江氏外一名)

大学生一名出演セラル

中江氏 新島讓先生ノ話

大学生虎ノ話

ナシ休ミ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

ナシ

[illegible]

一、青年会員出金三錢の茶話会

一、役員一名五錢出金

一、二十九日送別会ノ事

役員出席者 寺田清四郎

浅井清三郎 早瀬円藏

小林勘三 吉田幸二郎

篠原重三郎 松下清三郎代清十郎

上田静一 佐々木浅吉

吉田寅吉 篠原勇三郎

坂田捨

二十三日 晴 火

新嘗祭ニテ休ミ

本日校門立て上リタリ

二十四日 晴 水

昼間雨風アリタリ

二十五日 晴 木

本日参観人二名アリ上田孝太郎氏上田正次郎氏

二十六日 晴 金

本日記事ナシ

二十七日 晴 土

「教師」都合ニヨリ休学ス（余の結婚式）上田

二十八日 晴 日

先生の結婚式挙行の為メ

二十九日 晴 月

休ミ

夜学生徒鎌田清三郎篠原谷造

入営の為送別会を開く後茶話

会を開く

生徒一般の送別

三年兵二ハ二円の饯別

三月兵二ハ二円

〃

筆百本教師妻君■■ヨリ受ク

茶話会

饯別費青年一人五錢出金

役員 一人二十五錢

茶話会費青年一人三錢

役員 一人五錢

十時會終る

教室整頓、授業一時間

記事ナシ

席順整頓、記事ナシ

記事ナシ

青幼年生徒談話会

本日愛宕郡青年会総会を開かる

農林学校ニアリたり我が夜学

生西山ステ賞を受く又西山ステ

会場ニ於テ演説をなせり

前日の賞与を夜学生ニ披露す

記事ナシ

明日自強会ノ会員招集を極力ナス

七〇 一九

ベキコトラ青年生徒ニ依頼ス

本日ハ自強会ノ為メ生徒一同北ノ

八一 二五

寺ニ行く

〃

青年生徒ハ会員招集ニ巡ル他生徒寺

二行く

演説要項

一、開光寺住職 耶蘇教ノ此ノ村ニ入ラザ

ルコトヲ述ブ、真宗ノ俗体門心体門ヲ

説ク

【開光寺「職」住職ノ我量のせまきを感じたり今釈迦とキリスを

二人此の席ニ出席して同住職の話を聞かせば兩人何ぞ言ふなら  
ん又兩人会見せば互ニ東西布教の謝意を述ぶるならん】

一、本願寺伝道師俗体門心体門ヲ

又説ク

一、郡長、勤儉貯蓄の話をさる

一、鐘紡滝川氏標準人物トナルモノ

ヲ選び之レヲ傲ふ事

十日 晴 金 本日ハ初めノ時間ヲサキテ前日ノ 七八 二二

演説ヲ批評注意ス

十一日 晴 土 青年談話会及ビ唱歌 冬之歌 八一 二二

十二日 晴 日 休ミ

十三日 曇 月 放課後青年生徒冬休ミ中の事ニ 六四 一九

就き何か談じ居れり

十四日 晴 火 記事ナシ 六八 一九

十五日 雨降 水 本日ストーブ入ル 六二 一九

十六日 曇 云キマジリ 木 記事ナシ 自強会ノ事ニ付議事アリ

十七日 晴 金 記事ナシ 五七 二二

十七日 晴 金 記事ナシ 七二 二二

十八日 土 本日談話会ニ於テ丙組生徒山内友 八〇 二七

次郎ノ前非悔アリ生徒の前ニ立て

謝罪セリ(勝負事の罪)

十九日 晴 日 休日 七六 二〇

二十日 晴 月 記事ナシ

二十一日 晴 火 記事ナシ

二十二日 晴 水 記事なし

二十三日 晴 木 本日の掃除をなせり

二十四日 晴 金 終業式をなす教員二名の訓話及びビヨロン三曲

夜学生清水平吉青年夜学部へ

四十八銭寄附せり(拾ひもの)

二十五日 晴 土 本日ヨリ休業

二十六日 曇 日 記事ナシ

二十七日 晴 月 本日小使室出来上リタリ

二十八日 晴 火 〃(余河内へ帰国ス)

二十九日 晴 水 〃

三十日 雨 木 〃

三十一日 晴 金 〃

【上田先生冬休み中本国河内へ帰郷「中」

明治四十三年一月一日

午前中生徒談話会

午後新年祝賀式 小林先生ノ指

揮ニヨル其ノ後男子遊戯水雷艇

八八 二七

及ビ茶話会

一月二日 晴 午后雪日

男生徒東西別相撲及ビ水雷艇夜

間男女談話会及ビかるた会

一月三日 晴 月

男生徒ベースボール及び団体運物

園行き夜間かるた

一月四日 晴 火

かるた会

一月五日 晴 午前雨水

かるた会 (余婦京す)

一月六日 晴 木

先生宅ニテ談話会及び音楽

一月七日 晴 金

先生宅ニテ談話をなす

本日校庭ニ築き山出来きて上りたり

一月八日 曇 土

記事ナシ

一月九日 午前雨 午後晴 日

一月十日 晴 月

本日开始式ヲナス

一月十一日 雨 火

本日ヨリ女子裁縫ヲ瀬戸かめ氏二代

一月十二日 晴 水

用依頼ス、女生徒甲乙二組本日甲組

一月十三日 晴 木

本日ヨリ校舎落成式ノ歌ヲ練習ス

一月十四日 晴 金

記事ナシ 六八 二二

一月十五日 晴 土

本日落成式ニ就きての準備ヲ言ヒ渡ス

一月十六日 曇 日

唱歌打あはせ

一月十七日 晴 月

式場準備

一月十八日 晴 月

午前中ヨリ青年男女生徒集合

一月十九日 晴 月

式場準備、午后二時校舎落成式

一月二十日 晴 月

挙行ス 来賓和田府視学兼田郡

長前署長 (庵谷) 郡視学

田中村議員府会議員 近村々長 小学校長 式

君が代 式辞 決算報告 (浅井清三郎)

来賓祝辞・担任教員 (上田静二) 答辞

生徒答辞松下清十郎「式終」落成の歌終ル

生徒祝まんじうヲ与フ来賓ニ

菓子箱ヲ出ス

本日休学ス

本日式場ヲ片付ケ一時間授ヲナス

記事ナシ

記事ナシ

本日ハ明日自強会一週紀念ナル

ヲ以テ前落成式ト同様式場

準備ヲナス

本日本校ニ於て午後一時当校ニ於て自強

会一週紀念会開会

来賓者 府知事代理高崎事務官

府視学郡長近村校長村長名

督職……

夜学生西山すて賞与を受く (木綿縞一反)

外ニ村民鎌田民藏氏あり

本日ハ前日の式場片附け授業一時間

【本日よりスリーブ入ル】

一月二十五日 火 小雨 記事ナシ

|        |   |   |                    |          |     |      |     |   |                     |      |
|--------|---|---|--------------------|----------|-----|------|-----|---|---------------------|------|
| 二十六日   | 水 | 晴 | 記事ナシ甲生徒督促す         | 四六       | 一七  | 十一日  | 晴   | 金 | 紀元節之為休学ス            |      |
| 二十七日   | 木 | 晴 | 「記事ナシ」乙生徒督促ス       | 六五       | 二六  | 十二日  | 晴   | 土 | 記事ナシ                |      |
| 二十八日   | 金 | 晴 | 本日川島郡視学来らる甲組男女二    | 六五       | 三〇  | 十三日  | 晴   | 日 | 休ミ日                 |      |
|        |   |   | 向教育勅語戊申詔勅ニ付キテ      | 「六五」「三〇」 |     | 十四日  | 晴   | 月 | 記事ナシ                |      |
|        |   |   | 話サル                |          |     | 十五日  | 雪   | 火 | 記事ナシ                |      |
| 二十九日   | 土 | 晴 | 記事ナシ               | 七        | 「二」 | 一    | 十六日 | 晴 | 水                   | 記事ナシ |
| 一月三十日  | 日 |   |                    | 二九       |     | 十七日  | 晴   | 木 | 記事ナシ                |      |
| 一月三十一日 | 晴 | 月 | 記事ナシ、寒氣甚ダシ         |          |     | 十八日  | 晴   | 金 | 本日余は小学校用事ノ為メ欠勤ス     |      |
| 二月一日   | 晴 | 火 | 記事ナシ               |          |     | 十九日  | 晴   | 土 | 記事ナシ                |      |
| 二月二日   | 晴 | 水 | 「記事ナシ」本日ヨリ又貯金ヲ実行ス  |          |     | 二十日  | 晴   | 日 | 休ミ                  |      |
| 三日     | 晴 | 木 | 本日ヨリ又生徒散髪相互刈合ヒヲ実行ス |          |     | 二十一日 | 晴   | 月 | 記事ナシ                |      |
|        |   |   | 甲組生徒一人一度四錢ノ定メ      |          |     | 二十二日 | 晴   | 火 | 記事ナシ                |      |
|        |   |   | 乙組生徒一人一度三錢ノ定メ      |          |     | 二十三日 | 晴   | 水 | 本日早川伊三郎風呂風ニ於テ貯金     |      |
| 四日     | 晴 | 金 | 本日八年越しニ当ル故夜学休む     |          |     |      |     |   | 台紙十二錢張タルモノ失ヒタリ然ルニ父夜 |      |
| 五日     | 晴 | 土 | 本日内柳池校ヨリ墨、筆、鉛筆、鉛   |          |     |      |     |   | 学ニ来リ取り調べヲ追レリ        |      |
|        |   |   | 筆けづり十ヲ受く           |          |     | 二十四日 | 木   |   | 伊藤秀吉「台紙」外一名台紙金      |      |
|        |   |   | 散髪収入六錢アリたり         |          |     |      |     |   | 高引戻しを追レリ貯金ノ必要ヲ      |      |
| 六日     | 晴 | 日 | 休ミ                 |          |     |      |     |   | 説キ聞カセド聞カザルヲ以テ取替ヘ其   |      |
| 七日     | 晴 | 月 | 記事ナシ               |          |     |      |     |   | ノ金高ヲ渡セリ             |      |
| 八日     | 雨 | 火 | 本日世界地図ヲ甲組教室ニハル     |          |     | 二十五日 | 晴   | 金 | 早川伊三郎父又来リ貯金印紙       |      |
| 九日     | 晴 | 水 | 記事ナシ               |          |     |      |     |   | ヲ買ヒタル金高ハ先生ニ渡シタリ故    |      |
| 十日     | 晴 | 木 | 本日小学校ニ於テ各部落青年夜学生集  |          |     |      |     |   | ニ其の台紙手前ニ於テ失フモ其の金    |      |
|        |   |   | 合教育談話会アリシ為メ青年生徒小学校 |          |     |      |     |   | ハ先生受取りタルヲ以テ返シクレト追レリ |      |
|        |   |   | へ行く                |          |     |      |     |   | 余ハ物ノ取引売買ノ理ヲ説キ聞      |      |

カスモ悟ラズ前言ヲ言ヒ張ルヲ以テ

余ハ曰ク其ノ金ハ斷ジテ渡サヌ併シ

君ノ子ハ能ク學校ヘ來ルヲ以テ

其ノ褒賞トシテ（余ト小林氏ト六錢宛出シテ）

十二錢進呈スト

言ヒテ渡セリ 早川父頭ヲサゲテ

帰レリ

堀本宗三郎、益田宇三郎貯

金引戻シヲ迫レリ説諭ス

二十六日 曇 土

本日貯金ノ話ヲナス

散髪ジャキ一個ヲ買フ三十錢

二十七日 日 晴

二十八日 月 晴

本日余ノ不在中秋田県事務官補

氏夜学の事ニ就き諸事聞き

合せニ來ラレタリ

三月一日 火 晴

記事ナシ

二日 水 晴

記事ナシ

三日 木 晴

本日小林悦造氏（夜学教員）病氣ノ為

欠勤ス

四日 金 晴

記事ナシ

五日 土 晴

本日より土曜日ニは十四歳以下ノ

生徒ヲシテ休学セシムルコト、セリ十五

歳以上ノ男女ヲ以テ談話会ヲナスコト

トセリ

六日 日 曇小雪

休ミ

七日 月 曇小雪

記事ナシ

八「六七」日 火 曇小雪

記事ナシ

九「八」日 水 小雪

記事

十「八九」日 木 小雪

本日自彊会アルベキ筈ナリシ二十一日ニ

延期トナリシ故学科ヲ其の日ノ時間割

通りなせり 余頭痛ノ為早引セリ

十一「九」日 金 小雪

「記事ナシ」十五歳以上ノモノ自彊会ニ行ケリ

本日広田家ニ行キ貯金取りカヘ出シ置キタリ

十二日 土 晴

本日甲組第二組ノ書物ヲ取り寄セタリ

〔新説本（尋常小学六年用十一卷）〕

十三日 日 晴

休ミ

十四日 月 晴

本日小林教員用事ノ為欠勤セリ

十五日 火 晴

本日余目まいせしを以て「欠」早引セリ

十六日 水 晴

記事ナシ

十七日 木 晴

本日小林教員舌ヲ負傷セシヲ以テ

欠勤セリ 早川伊三郎父夜学ニ來

伊三郎散髪ノ為メ貯金十錢ヲ

出シニ來レリ貯金高計十錢ナレバ今出

スコトハ局ニテ承知セヌ故ト論セドモ

聞カズ遂ニ余取カヘ置キタリ又

伊三郎散髪無代ニテナシヤリタリ

（酒代ヲケズリニ來リタルナリ）



十八日 金 雨

本日小林教員欠勤  
佐々木治三郎代用ス

十九日 土 晴

談話相撲ヲナス

二十日 日 晴

休ミ

二十一日 月 晴

本日春季皇靈祭ノ為メ休ミ

二十二日 火 雨

本日余日曜日以来の発熱ノ為メ欠勤ス

小林氏モ用事ノ為メ欠勤ス依テ妻ヌイ

二代用教授ヲサセテリ幼年組ハ佐々木

治三郎代用ス

二十三日 水 晴

余病氣ノ為欠勤 記事ナシ

二十四日 木 晴

本日本学期終りを成セリ而して

多数出席のものニは賞を与

ヘタリ(三ヶ月間の中)

皆勤者ニは硯箱一個手帳一冊

精勤者ニは一ニ日欠席硯箱一個

〃 三日欠席筆箱鉛筆一本手帳一冊

〃 四日欠席紙はさみ一固

皆勤者 五名

一日欠席 二名

二日欠席 八名

三日欠席 四名

四日欠席 一名

三月二十五日 金

二十六日 土

二十七日 日

二十八日 月

二十九日 火

三十日 水

三十一日 木

四月一日 金

四月二日 土

四月三日 日 晴

本日ヨリ第一学期始業ス

式として学期始めの心及び明日曜

日父兄会のことニ就父兄集合

すへきことニ就きて言ひ渡す

本日父兄会を開く

出席者五十名

話要項

一、学齡児童の就学ニ就きて

昼間と夜間

(小学校)

女子裁縫 昼間夜間のもの

夜間裁縫専門のもの

貯金ニ就きて

学校父兄の關係

皮膚病無料治療の方法ニ就きて

終りニ茶菓を出す一人三錢宛

(浅井氏と余の話)

十時会を終る

四月四日 月 晴

記事なし（本日進級者証書を渡す）

々五日 火 晴

記事なし

附たり本年度役場予算会

議ニ於て本夜学教員手

宛一人分出されぬことと

なりたりと聞く

六日 水 晴

記事なし

七日 木 晴

記事なし

八日 金 晴

記事なし

九日 土 晴

生徒一同自強会ニ出席す京都市の東進主義ト田中村「木村長戸」木村重成の話を聞く（西尾氏の話）

十日 日 晴

休日

十一日 月 曇

記事ナシ

十二日 火 晴

記事ナシ

十三日 水 晴

記事

十四日 木 晴

記事ナシ

十五日 金 晴

ブランコをひく

十六日 土 晴

余小学校遠足の為「休学」欠勤ス生徒

十七日 日 晴

談話をなす

十八日 月 晴

日曜日の為

十九日 火 晴

記事ナシ

本日益田卯三郎（十二歳）白墨五本買

「二十日 水

求め学校ニ寄附したり

記事」本日余東田中夜学ニ行く

又小林教員病氣欠勤の為生徒へ代理をなさしむ

二十日 水 晴

記事ナシ

二十一日 木 晴

記事ナシ

二十二日 金 晴

記事ナシ

二十三日 土 晴

一時間話二時間目より運動場ニ於て競争遊戯を

二十四日 日 晴

なす

二十五日 月 晴

記事ナシ

二十六日 火 晴

記事ナシ

二十七日 水 晴

記事ナシ

二十八日 木 晴

記事ナシ

二十九日 金 晴

余本夜男子青年生徒督促之為村内を一巡せり

三十日 土 晴

記事ナシ、督促せし青年生徒集る

【五月一日】

一日 日「曇」晴

記事ナシ

二日 月 晴

記事なし

三日 火 曇

本日生徒呼び出しニ行けり

四日 水 晴

前日「の」呼び出しニ行きたるも其効なく

五日 木 晴

記事ナシ

欠席者多かりき

記事ナシ

記事ナシ

記事ナシ

六日 金曇 本日又生徒呼び出し二行けり

【大隈伯京都ニ来らる】

七日 土雨 前日の効果少なく二三名は来れり

「八日 日」 本日英国皇帝崩ありたり依て

此の事生徒ニ語る

【英帝崩御せらる】

八日 日晴

九日 月晴 本日生徒一同自強会ニ行く（京都市の東進主義

と田中村 桂小五郎（木戸）

十日 火「曇」あめ 本日女生徒静きさえ平田きぬ西村小の

へ中川ときの大森ささの木村小きく

【雨天】

六名にてジヨローを買ひ求め夜学ニ

十一日 水晴 記事ナシ

十二日 木晴 記事ナシ

十三日 金晴 小林教師欠席

十四日 土晴 記事ナシ

十五日 日晴 「記事」休み

十六日 月晴 祭日翌日故出席生少く任方をなす

十七日 火晴 記事ナシ

十八日 水晴 記事ナシ

十九日 木晴 本日ハレー彗星ノ話ヲナス太陽面ヲ通過スト

言へり

二十日 金晴 本日ハレー彗星ノ尾ヲ以テ我が地球ヲツ、ムト

言へり

何ノ違状モ無カリキ

本日英皇帝ノ大葬アリシ日ナリ

余病氣ノ為欠勤ス

【英帝ノ大葬】

二十一日 土晴

本日欠席多く稍々情落ニ耽ける

青年七八名ニ訓海を与へたり

本昼間裁縫生一名入学せり

本日女生徒六名静きさえ平田きぬ

西村小のえ中川ときの大森ささの

木村小きくヨリバケツを夜学ニ寄附せり

二十三日 月晴 斎藤政吉いけ花を持ち来る

二十四日 火晴 記事ナシ

二十五日 水晴 記事ナシ

二十六日 木晴 記事ナシ

二十七日 金晴 本日小林君欠勤す

本日時間割土曜日と代ふ

本日日露対馬海峡ニ於て大海戦をなせし日ニより此

れが講話及び日本歴史神功皇后の話

二十八日 土晴 記事ナシ

二十九日 日晴

三十日 月晴 記事ナシ

三十一日 火晴 記事ナシ

六月一日 水曜日 本日村民教化ノ為■ト思ヒ風呂屋に塗板ヲ掛ケシ為  
塗板ヲ自作ス

【六月一日日本ヨリ瀬戸かめ氏裁縫科受け持ちを止め上田ヌイニ  
全部受け持ちを命ズ 夜間昼間共】

六月二日 木「晴」曇 小林君欠勤ス

本日塗板ヲ湯屋上リ場ノ所ニ掲ぐ 毎日種々の  
事を掲示し教化ノ資料トス

掲示資料

一、昔ヨリ其ノ日ニ当レル出来事ヲ記ス

二、「社会的智識の普給」渡世上の雑知識

三、道徳的格言

四 教育こつけい画及ビ

美的養生の画等

六月三日 金 晴 小林君欠勤

六月四日 土 晴 本日大学来信さる 自重自敬ニ就きて

六月五日 日曜日晴

六月六日 月 晴 小林君欠勤

六月七日 火 晴 記事ナシ

六月八日 水 晴 生徒呼出しに村内を巡る

六月九日 木 晴 本日生徒一同自彊会ニ行く

六月十日 金 晴 記事ナシ

六月十一日 土 晴 記事ナシ

六月十二日 日 晴 記事ナシ

六月十三日 月 晴 記事ナシ

六月十四日 火 雨 記事ナシ

六月十五日 水 雨 本日生徒廣崎京藤二名伴つて  
機械体操金棒を設置す

六月十六日 木 雨 記事ナシ

六月十七日 金 晴 記事ナシ

六月十八日 土 晴 記事ナシ

六月十九日 日 晴 休み

六月二十日 月 雨 小林君欠勤田中校教員矢田代用

記事ナシ

六月二十一日 火 小林君欠勤田中校教育矢田代用

六月二十二日 水 小林君欠勤田中校教員矢田代用

【山科村長殺サル特殊部落四字ノ為トアリ】

六月二十三日 木 小林君欠勤

六月二十四日 金 小林君欠勤

【曇】六月二十五日土 小林君欠勤

【晴】六月二十六日

【雨】六月二十七日月 小林君欠勤

【晴】六月二十八日火 小林君欠勤

【晴】六月二十九日水 小林君欠勤

六月三十日 木 晴 小林君欠勤

七月一日 金 晴

七月二日 土 晴

外ニ余発熱の為欠勤す

七月三日 日  
七月四日 月 晴 小林氏欠勤 前二同じ  
余も病氣ニ付き欠勤す

七月五日 火 晴 小林君欠勤 前二同じ

七月六日 水 晴 小林君欠勤 前二同じ

七月七日 木 晴 小林君欠勤 前二同じ

七月八日 金 晴 小林君欠勤 前二同じ

七月九日 土 晴 本日自強会ニ出席生徒一同来賓栗田姉妹の  
ヴァイオリンアリ又吉田甚三郎氏ノ自強会役員  
及ビ講元諸氏ノ行為村ノ為メニナラス却テ自強  
会ノ主意ニ反スルノ言ヲ以テ一場ノ演説ヲセリ

七月十日 日 曜日 晴

七月十一日 月 曜日 晴 本日「妻」上田ヌイ病氣裁縫科ヲ休ム（小林氏  
同）

【隣家トバク場ニ警官「押」入り来り一網を下さんとせしに車座  
の賭博者不意を食ひて余の家ニ駈け来り押入の中ニかくれなど  
せり妻は身持ちなりしが平然なすまふニ】

七月十二日 火 曜日 晴 （小林氏同じ）

七月十三日 水 曜日 晴 同

七月十四日 木 曜日 雨 同

七月十五日 金 曜日 晴 同

七月十六日 土 曜日 晴 同

七月十七日 日 曜日 晴 同

七月十八日 月 曜日 晴 同

七月十九日 火 曜日 晴 同

七月二十日 水 曜日 晴 同

七月二十一日 木 曜日 晴 同

七月二十二日 水 曜日 晴 同

七月二十三日 土 曜日 曇 本日ハ土用の丑ニて正鴨祭りの為欠席多  
きニ予測の為休業す

七月二十四日 日 曜日 晴

七月二十五日 月 曜日 晴 本日夜学終業式を行ふ 又九月  
一日入営兵の送別会を開く青年生徒  
集会饒別金毫円 他は実費茶  
話会一人宛一金三銭持ちより  
入営兵廣崎広吉君  
式順

一、夜学終業式

二、入営兵送別

三、諸事打合せ会計報告す

七月二十六日ヨリ九月五日まで夏季休業

八月九日 自強会長小西源吉氏退会セラル

八月十日頃より二十日頃まで関東地方大水難アリ

八月二十二日 韓国合併外号来ル

【韓国合併】

八月二十二日 醇成青年会高張提灯注文す

八月十五日 自強会評議員集会ス

八月十一「六」八日 評議員数人（早瀬豊）浅井岡村小林上田篠原

顧問郡長の所ニ行キ会補員ニ就きて相談す後警察署長を尋ね会長を願へり但速答なし

八月二十三日 前会小西源吉氏宅ニ行き感謝ス

宣徳火鉢金十円自強会ヨリ謝礼す（早瀬円蔵

上田二名ニて持ち行く）

八月二十九日 日韓合併トナル韓国ヲ朝鮮ト名ク皇帝皇

后皇大帝ハ我が皇太子の次ニ位ス王族トセラル

〃 本日醇成青年会の高張提灯出来上ル

九月一日 青年会員廣崎広吉輻重輪卒ニ入営す

九月三日 本日余村内を巡り特別生「入学を」督促ス

九月四日

九月五日 月曜日 本日ヨリ夜学を開始す

九月六日 火 記事ナシ

〃七日 水 「記事ナシ」大雨之為小林君欠勤矢田代用ス

〃八日 木

〃九日 金 本日自強会ニ行く

〃十日 土 記事ナシ

〃十一日 日曜日

〃十二日 月曜日 記事ナシ

〃十三日 火曜日 記事

〃十四日 水曜日 記事

〃十五日 木

〃十六日 金 晴

〃十七日 土 晴

〃十八日 日

「〃十九日」

本日一名甲組へ入学

本日ハ旧曆中秋十五夜ニ当ル本日広島県人

法政大学生来り余ニ■本村部落改善

法及び余の経「験」験せし事を聞かし

くれと言ひ来れり

記事なし

「記事なし」本日村民の一部より夜

学運動場を相撲稽古の為借しく

れと言ひニ来れり（十月二十五日亡友人の弔

ひ相撲をなす為めなりと）これを

承託せり

記事ナシ

記事ナシ

小林君病氣欠勤 矢田代用ス

本日夜学運動場ニ相撲場を作る本日より夕方

相撲稽古をなす

本日は秋季皇霊祭ニ就き休学す

記事ナシ

記事ナシ

「本日小林君欠勤」

本日ハ皇太子殿下本郡府立両師範へ

御「幸」台臨アリタリ

小林君欠勤（病氣欠勤）矢田代用ス

〃三十日

小林君欠勤矢田代用ス

二十日 木

記事なし

一日 土曜日

記事なし

二十一日 金

小林君欠勤 矢田代用ス

二日 日曜日

記事なし

二十二日 土

記事なし

三日 月曜日

記事なし

二十三日 日

本日ハ当村祭日ニ当ル

四日 火曜日

記事なし

二十四日 月

祭日を以て欠席生大部故ニ休学す

五日 水曜日

記事なし

二十五日 火

記事なし

六日 木曜日

「記事なし」余本日本願ニ行キ自強会へ布

二十六日 水

小林君欠勤矢田代用ス

七日 金曜日

学欠勤す 矢田代用ス

二十七日 木

記事なし

八日 土曜日

本日「学」夜学を「曜」明日曜日と繰り代ふ

二十八日 金

記事なし

九日 日曜日

小林君欠勤矢田代用ス

二十九日 土

記事なし

十日 月曜日

小林君欠勤 矢田代用ス

三十日 日

「上田氏帰国ノ為メ欠勤ス」

十一日 火曜日

小林君欠勤 矢田代用ス

三十一日 月

【三十一日住友別氏銅山より參觀ニ来たらる鷺尾解勘尾氏三時ばかり改良事業ニ就きて語る】

十二日 水曜日

小林君欠勤 矢田代用ス

十一月 一日 火

上田氏帰国之為欠勤欠

十三日 木曜日

小林君欠勤 矢田代用ス

二日 水

生徒一同天長節式場ヲ作ル

十四日 金曜日

小林君欠勤 矢田代用ス

三日 木

上田氏帰国之為欠勤欠

十五日 土曜日

本日ハ天長唱歌、上田ぬい氏教授す

本日は今上天皇陛下五十九回目ノ誕生日ニ当ル

十六日 日曜日

本日ハ神嘗祭

天長節式ヲ挙行ス

十七日 月曜日

記事なし

「出演」列席者大学生安川数太郎君、青年

十八日 火曜日

記事なし

会副会長小林勘蔵君

十九日 水曜日

記事なし

式後小林勘蔵氏より生徒に祝ひまんじゆ

を与へらる(価額二円)

式後青年者ニ諸事相談をなせり

男子部へは圖書設置の件

散髪興復

入営兵其の他送り物ニ対

する件

会計維持の方法

右一ヶ月宿題

女子部 裁縫部拡張の件

右一ヶ月宿題

「式終り」外ニ此レ迄ノ会計報告

十時半開散

一、教室整頓 第一時限 小林君欠勤矢田代用

余自強会会計決算二行く

記事ナシ

六日 日

七日 月曜日

八日 火

九日 水

十日 木

十一日 金

十一月十二日 土

十一月十三日 日

十一月十四日 月

小林君欠勤 矢田代用

記事なし

本日自強会ニ出張ス甲組女子裁縫生

記事なし

記事なし

本日大掃除をなす

記事なし

「小林君欠勤 矢田代用」

十一月十五日 火 本日田中校遠足の為 上田教員欠勤

小林氏かけ持ち教授をなす

十一月十六日 水 「記事なし」小林君欠勤 矢田代用

十一月十七日 木 記事なし

十一月十八日 金 「記事なし」小林君欠勤矢田代用

「十一月」十一月十九日 土 記事なし

十一月二十日 日 青年会集会

議事 入営兵送別件 二十七日を定む

十一月二十一日 日 記事なし

十一月二十二日 火曜日 記事なし

十一月二十三日 水曜日 記事なし

十一月二十四日 木曜日 記事なし

十一月二十五日 金曜日 「記事なし」小林君欠勤 矢田代用

十一月二十六日 土、第一時間目明晩入営

兵送別ノ唱歌体育手引ノ岩

上田ヌイ教授ス 二時間

目甲組生徒一同式場

準備 午后九時より青年会役員相談

十一月二十七日 金曜日 本日入営兵松下清十郎氏ノ送別会ヲ開ク

余興トシテ講談師ヲ呼ブ

一、式順一同着席

二、会長代開会ノ辞

三、餞別授与

四、祝辞



五、入営兵答辞  
六、唱歌千引ノ岩  
七、講談  
一、義士勝田新三右衛門  
二、横川勘兵衛  
三、金石猛熊  
八、茶菓ヲ与フ（会員会費五錢、五錢菓子ヲ与フ）  
九、決算

〃 吉田寅吉  
〃 坂田捨吉  
男會員 約五十名  
女 〃 約十五名

義士伝  
日露戦役馬賊隊  
五錢菓子ヲ与フ  
「記事なし」本日夜学生徒松下清十郎  
「十二月一日木曜」氏入営祝賀の爲め  
上田出張す

講師札金 壹円五十錢

入営兵餞別 貳円

入営兵講談師菓子代 参拾錢

茶ローソク代 六錢

〃「参円六」参円八拾六錢

青年会役一人前拾錢集金計壹円貳拾錢

青年会積立金殘金 貳円貳拾四錢

〃参円四十四錢

差引 四拾貳錢不足

青年会役員出席名簿

副会長 小林勘藏  
〃 上田静一  
評議員 松下清三郎代理  
幹事 寺田清四郎  
〃 篠原勇三郎

十一月二十八日月曜日 教室整頓  
〃二十九日 火曜日 記事なし  
〃三十日 水曜日 「記事なし」本日夜学生徒松下清十郎  
「十二月一日木曜」氏入営祝賀の爲め  
上田出張す

十二月一日 木曜日 小林君欠勤「欠」矢田代用松下君入営  
〃二日 金 小林君欠勤矢田君代用  
十二月三日 土 小林君欠勤矢田代用  
十二月四日 日 記事なし  
十二月五日 月 余畑中夜学へ行く但し本夜  
学一時終り次第授業をなす  
十二月六日 火 余畑中夜学ニ行く小林君欠矢田代  
十二月七日 水 記事なし  
十二月八日 木 記事なし  
十二月九日 金曜日 本日は本村自強会故余二時間  
目より自強会へ出張  
十二月十日 記事なし  
十二月十一日日曜日

十二月十二日月曜日

記事なし

十二月十三日火曜日

記事なし

十二月十四日水曜日

本日は赤穂義士討入の日  
為るを以って講演会にあつ

第一時限 義雄の籠送り

弁士

第二時限 堀部安兵衛叔父の仇討

上田

十二月十五日木曜日

記事なし

十二月十六日金曜日

本日東京市鮫橋特殊小学  
校長庄田録四郎氏参観に来らる

他は記事なし

十二月十七日土曜日

記事なし

十二月十八日日曜日

記事なし

十二月十九日 月

記事なし

十二月二十日 火

記事なし

十二月二十一日 水

本日大学生より雑本雑誌二貫計寄附  
せらる、廣崎政吉斎藤政吉大学へ行き  
もらひ受く

一時間授業二時間目教室かたづけ

十二月二十二日 木

本日夜学終業式を行ふ

十二月二十三日 金

土ヨリ休む 休暇中夜「関」玄関内

十二月二十四日 土

ニ圖書閲覧をなせり

十二月二十五日日曜日

記事なし

十二月二十六日 月

記事なし

十二月二十七日 火

記事なし

二十八日 水

二十九日 木

三十日 金

三十一日 土

本日校門しめかざりをなす

明治四十四年一月一日

亥の年

一月一日 日曜日

二月 月

本日青年会余興を行ふ為青年  
八九名集金す他は夜学校内  
準備す集金高十円十銭

本日青年会余興をなす余興「積」  
種類、ハナシ、ケンブ、ニワカ、手ジナ、  
等見物人校内ニみつ

一月三日 火曜日

諸雜費計六円二十三銭五厘

一月四日 水曜日

一月五日 木

一月六日 金

一月七日 土

一月八日 日

九日 月曜日

十日 火曜日

十一日 水曜日

十二月十二日 木曜日

一月十三日 金曜日

本日より始業す

記事なし

一月十四日土曜日

本日余高野河原夜学二行く

十五日日

一月三十日月曜日  
一月三十一日火曜日

孝明天皇祭  
記事なし

〳十六日 月曜日

記事なし

〳十七日 火曜日

本日ハ夜学校創立一週念二当る依

「〳十八日水曜日」

生徒一同を集め三十九年来

の沿革を語て二時間目より随意

遊ばしむ

二月一日水〳

本日青年会会議

〳十八日 水曜日

記事なし

〳十九日 木曜日

〳

件 可決

〳二十日 金曜日

〳

〳二十一日土曜日

〳

一、青年会会所有金中より書物を買入貸与する  
二、書規則制定 別紙の如し  
三、圖書保管者廣崎政吉氏

〳二十二日曜日

〳

と定む

〳二十三日月曜日

本日大学生より雑誌二貫目程受く

一月二十四日火曜日

小林君欠勤矢田氏代理

【一月二十四日（本日共產社会主■義者幸徳伝次郎外十一名死刑

ニ処セラル）】

一月二十五日水曜日

小林君欠勤

一月二十六日木曜日

記事なし

一月二十七日金曜日

記事なし

一月二十八日 土

本日東京鯨特殊小学校へ信書

す規則書を送り来たらん事を通信

す

本日唱歌紀元節

一月二十九日日曜

〳十日 金

記事なし

十一月

本日は紀元節午後十時頃号外新聞

来る其ハ天皇陛下ヨリ細民にして医薬を

求むる不能者のために金百五十万円下賜せら天

恩の洪大なるに感激す(本日本校拡張の儀につ

き郡長殿に相談ニ行けり)

【二月十一日天皇陛下細民の為百五十万円御下賜】

十一月十二日 日曜日

記事なし

十一月十三日 月曜日

本日補習科生申合せ出して一ヶ月皆出席

者児童の為紙二十枚賞与として与へくれたり

本日小林君欠勤矢田君代用

十一月十四日 火曜日雨天

小林君一時間欠勤矢田君代用

十一月十五日 水曜日

小林君欠勤■矢田君代用 本日自強会

役員会夜学ニ於テ開カル、宛ノ処出席少キ為流  
会ス

十一月十六日 木曜日

小林君欠勤矢田君代用

本日青年会図書部書物買入レ七冊代二円三十銭

青年部散髪実行ス

十一月十七日 金曜日

記事なし

十一月十八日 土曜日

田中校ニ於て教育講話会補習科生引

率出張幼年組休業す

十一月十九日 日曜日

記事なし

十一月二十日 月

記事なし

十一月二十一日 火曜日

本日ジッキ直シ出キ上ル

十一月二十二日 水曜日

記事なし

二十三日 木曜日

小林君欠勤 矢田代用

二十四日 金曜日

記事なし

二十五日 土

本日青年会部の剃刀一打買ヒ入ル

「記事なし」小林君畑中夜学ニ行ク「田」矢田君

本夜学二組かけ持余は東田中夜に行く

他ニ記事なし

二十六日 日曜日

二十七日 月曜日

本日共同青年会夜学生「を」と併

合して教授す

二十八日 火曜日

記事なし 廣岡(夜学生)の父

夜学ニ来リ家底の悲惨

家賃は滞る妻は不

【広岡栄蔵来り「貞」妻のつれ子の不孝自分の「夜」病身を訴へ  
来りどうか榮で助有りとよろしく願ますと言ひ来りあまりの悲  
慘ニ金子を与へんとするも受けざりき】

三月一日 水曜日

小林君欠勤矢田君代用

【三月一日本日夜学生西山すてを菊花高等女学校本科第二学年ニ

入学せしむることを同校長川名庄吉氏と約す】

三月二日 木曜日

本日夜学生西山すてを菊花高等

女学校ニ入学せしむることニ就き父善平殿

ヲ呼ぶ

一、すてを入学せしむるニ就き夜食を与ふこと

出来るか否かを問ふ

三月三日 金

一、答「貧」家貧にして成すこと不能（父は車夫故）又近日郷里江洲へ帰ると言へ居れり

一、余も如何にせんと思へり

一、すては只愁傷必然として居たり

一、余すてに言ふ汝は如何にするや

一、答如何にもしてと涙を出さんばかりなりき

一、余は彼れよこれよと考へ自強会へ

申出で此れが学費を出■して貰かん

か又村内有志に頼まんか又すてに苦学

をさせんか如何にと非常の苦「悶」心をな

せり

一、一先其の場を退散せしむ

本日余河原町和洋技芸学校に行き

前日すて入学一件二就きて仏人メリー

様ニ謀る 仏人メリー様感心の小女

之れが学資一「斉」際引受くと心よく

承諾せられたり其の言に曰く私田中村の為

尽す故卒業後田中村の為め尽すと言ふ約束と言

ける余は「精神」

心の奥底より喜びたり

一、帰宅後西山父子を呼ぶ

一、すて勉学ニ就きて其の学資の道を聞■いた

から入学させますかと言へば父善平喜ビ承

託せり、一場の話をな「して」す

一、在学中如何なる事状あるも退学などさせぬ  
ことを約す

一、父子喜び「流」涙を流さんばかりなりき

一、余も嬉しかりき

一、すての入学願書を書いて此れを出せり

○本日小林君欠勤矢田君代用

○余ハ不就学者調査に就きて「調査す」教授を斉

藤二代用させる

【仏人メリー氏ニ西山すての学資を受くることを約す】

三月四日 土曜日

記事なし

三月五日 日曜日

記事なし「土曜日」小林君欠勤矢田代

三月六日 月曜日

記事なし

三月七日 火曜日

本日図書部貸本貸金決算を

なす其の金高壹円貳拾参銭上り

青年会々計部へ記入す

小林君欠勤矢田代用

小林君欠勤矢田君代用

本日は自強会の為甲組引率

自強二行く

三月十日 金曜日

小林君欠勤 矢田代用

三月十一日 土曜日

小林君欠勤 矢田代用

三月十二日 日曜日

記事なし

【大阪市にて飛行器大会ありたり見物人八十万と号す】

三月十三日 月曜日

記事なし

三月十四日火曜日

本日役場ニ於て本夜学ニ関スル諸事を

議す来会者花井村長浅井講主木村「村」 小学

校長上田静一 議事

一、不就学者夜学就学ニ関する費用の件

三月十五日水曜日

小林君欠勤 矢田代用、他ニ記事なし

三月十六日木曜日

小林君欠勤 矢田君代用

三月十七日金曜日

「小林君欠勤矢田君代用」記事なし

三月十八日土曜日

本日夜学生西山すてを仏人メリー様の所

ニ預くる為出張す

【本日午前二時青年会役員吉田寅吉君死亡ス青年会より会員ヨリ

シキビ一対役員ヨリシキビ車一台送る本日送葬す】

三月十九日日曜日

本日西山すてを仏人の手ニ預く

三月二十日月曜日

記事なし

三月二十一日火曜日

小林君欠勤 矢田代用

【……………小林欠勤十日一ヶ月間ノ内】

三月二十二日水曜日

本日は春気の皇霊祭ニて休学

「三月二十三日木曜日」本日京都新聞記者来る

三月二十三日「本日」木曜日 本日内校内掃除をなす

一、小林君より金五十銭西山すてに寄

附下されたり

三月二十四日金曜日

本日第三学期終業式を行ふ右記

人名ニ証書授与をなす

尋常科六年卒業 浅野秀■郎

斎藤才吉

西山このえ

〃 五年修業 山田松之助

〃 島本伊三郎

〃 橋立金三郎

〃 四年〃 竹村関蔵

〃 伊藤秀吉

〃 大島安蔵

〃 三年〃 堤為次郎

〃 平田伊郎

本日皆出席者ニ賞与す廣崎政吉斎藤政吉より

寄送半紙を与ふ

三月二十五日土曜日

本日より四月三日まで学年末休学をなす

三月二十六日日曜日

本日京都新聞二本夜学校の

事を記載しありたり

三月二十七日月曜日

記事なし

三月二十八日火曜日

記事なし

三月二十九日水曜日

記事なし

三月三十日 木〃

記事なし

三月三十一日金〃

記事なし

四月一日 土曜日

記事なし

四月二日 日曜日

記事なし

四月三日 月曜日

記事なし神武天皇祭

【四月三日京都京極二大火ありたり】

四月四日 火曜日

本日不就学児童田中校欠席多数者を集む  
集合児童百二十名余青年補習教育者

男約三十名女二十名

来賓浅井清三郎、和田綱次郎、篠原

重三郎、小林勘藏、寺田清四郎、

鈴木幸之助、河窪虎之助、

教員上田静一、小林悦藏、

新任教員渡辺作次郎、井尻さく

式順

1、君が代

2、上田教員の告辞

3、鈴木学務員々

4、新教員の披露及新任教員渡辺君の

話

九時半式終る

青年生徒教「育」室整頓

来賓「役員」世話人教員の評議

十時二十分開散

不就学生多数出席の為非常ニ

混雑せり其の生徒名姓各調べ二時間をつひやす

【不就学児童及欠席児童多く収容せしを以て毎晩のはきも紛失ま

ちがひ非常ニ困難せり】

四月五日 水曜日

同前

四月六日 木曜日

同前

四月七日 金々

同前

四月八日 土曜日

〆九日 日曜日

【九日本日東京吉原二大火アリたり】

四月「九」十月曜日

〆十一日 火々

〆十二日 水々

〆十三日 木々

〆十四日 金々

〆十五日 土々

本日唱歌 あすは日曜の歌

誠の歌

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし（井尻君欠席）

本日ハ田十六日「にて」なれば曇天なりしも

生徒四十名青年及び十四歳以上引き連れ大

文字山ニ登山「なし」せり 山上にて唱歌及び

調話をなし及び夏蜜柑を共ニ食せり

十時帰校す往復共駄足にて行けり

記事なし

記事なし

本日余野口村ニ出張す

野口村鶏鳴会ニは本部御門主（西本願寺御

門主の御弟（爵位男爵）の御親教ありたり午后

十二時帰校

【余本部本山御門主ニ御挨拶を申上ぐ】

本日学校時間打ち鈴買求む

価額壹円五十銭

記事なし（過日大文字山行き夏蜜柑代

青年部分担（登山せしもののみ）徴集後支払す一

金五拾銭

二十一日 金

本日義務教育中児童を青年二分担し

其の督促「を」の任務を司らしむ

二十二日 土曜日

記事なし

二十三日 日曜日

記事なし

二十四日 月曜日

記事なし

二十五日 火曜日

本日本村田中学校長来校郡長代理として模範青年ニ賞状及賞品を渡さる

受領者 男齋藤政吉

女宇津木はる

二十六日 水曜日

小林君欠勤広崎政吉金代用す

二十七日 木曜日

記事なし

二十八日 金曜日

記事なし

二十九日 土曜日

記事なし

【二十九日日本日愛宕郡各小学校の大運動会あり上加茂ニ於て】

三十日 日曜日

記事なし

五月

一日 月曜日

記事なし

二日 火曜日

三日

小林君（病氣）欠勤 記事なし

四日

小林君欠勤（病氣） 記事なし

五日

故青年会役員吉田寅吉君の香銭返し饅頭（一個二銭位）二百個受く其れノ分配す 記事なし

六日

記事なし

七日

日曜日 本日生徒調査をなす

明治四十四年度「五月一日現」在学及新入学者左の如し（五月一日現在）

尋常科 一年組

男 七

女 一七

計二四

〃 二〃

〃 八

〃 一八

〃 三〃

〃 一〇

〃 一九

〃 四〃

〃 一八

〃 一九

〃 五〃

〃 一四

〃 一五

〃 六〃

〃 六

〃 六

男子補習部甲組

五

男子補習部乙組

二一

計二一

女子補習部

一八

〃 一八

学齡児童中戸籍不能者

男 一八

女 一四

計三二

合計

男 一二〇

女 五六

計一七六

八日

月曜日

本日写事普絵会員高田潔氏来校



一場の話をなせり本夜学は同人より

両陛下皇太子殿下同妃殿下の御写真を一枚

を受けり但し金九拾錢支払ふ

九日 火曜日 本日は自強会日なれ青年生徒出席

余も会場へ出席

十日 水曜日 本日より森本 氏を各教員欠席

日補欠として依頼す

十一日 木 記事なし

十二日 金曜日 記事なし

十三日 土曜日 記事なし

十四日 日曜日 記事なし

【此ノ頃北海道山火事一週間ばかり】

十五日 月曜日 本日は葵祭にて休み

十六日 記事なし 火「月」曜日

十七日 水曜日 記事なし

十八日 木曜日 記事なし

十九日 金曜日 記事なし

二十日 土曜日 本日京都日出新聞記者酒井八郎氏

本夜学校ニ就きて諸種の事を聞きに来れり

本夜学の一般青年会一般余の此の村に対する

一般を語れり

二十一日 日曜日 本日文部省嘱託小川法学博士視

察の爲め本夜学ニ来らる「郡」郡視学外一名

附添へ 本学校ニ対し一般を語る

【二十一日内務省属託小川法学博士が本校ニ視察ニ来ラル】

【二十一日〇本日本隈伯洪沢男森村翁京都ニ来り女子大学の位置

を演説せり ○メキシ国官軍殆ど敗北中】

二十二日 月曜日 本日前日記者ニ語りし大要新聞紙出でたり

二十三日「記」火曜日記事なし

二十五日 木曜日 記事

【二十五日本日京都二条ト三条との間木屋町二大火アリ（六軒火

災ニあへり）余は三条河原町技芸学校の火災と思ひかけ出した

るに後より青年二十名ばかり「駈来り」先生親戚が火事だと言

ひてかけつけ来てくれたり 仏人メリー様より茶と菓子を一同

ニ受く】

二十六日 金曜日 本日男教員三名より（上田、小林、渡辺）

天皇陛下皇太子殿下皇后陛下皇太子妃殿

下の御写真を寄附せり（九十錢）

五月二十七日土曜日 本日は日露日本大海戦■記念日ニ当

りしを以て此れが話をなす（上田教員）

及明日は地久節皇后陛下の御「誕生」たんじょう

日ニ当れり依て此れが話をなす（渡辺教員）

五月二十八日日曜日 記事なし

五月二十九日月曜日 記事なし

五月三十日「月」火曜日 記事なし

五月三十一日水曜日 本日より渡辺教員文部省受験の爲当分

欠勤代用として矢田教員を嘱託す

六月

一日

木曜日

本日小林君より紙二百枚児童の為寄附せらる但シ欠勤の代りとしての意

二日

金曜日

矢田君欠勤小林君欠勤欠依て明日の時間割を代へる

三日

土曜日

記事なし

【本日師範学校同窓会余出席ス】

四日

日曜日

記事なし

【三日、本日消防組の発会式田中校□ニありたり】

五日

月曜日

本日補習科生男子部ヨリ本校「勤」皆出席  
ニ賞与として紙一枚宛与へくれたり  
皆出席者合計十九名ありたり

かゝる事は本年三月より毎月挙行せり

六日

火曜日

記事なし

七日

水曜日

本日ヨリ渡辺作次郎氏の代りとして  
東松「広■」弘一氏を夜学教員として囑托す随て

矢田寅太郎氏代用をとく（東松氏は正親校訓導なり）

八日

木曜日

本日補習科男疎水近傍へ螢狩りに行けり

九日

「本日」金曜日

本日は自彊会

【九日本日号外新聞来る徳川大尉飛行器より墜落「差し」生命ニ

別状なし】

十日

土曜日

記事なし

十一日

日曜日

十二日

月曜日

記事なし

十三日

火曜日

記事なし

十四日

水曜日

記事なし

十五日

木曜日

記事なし矢田君代用小林君欠勤

【十五日大島圭介薨去七十八歳】

「十六日

金曜日

記事なし東松君欠勤矢田君代用」  
本日田中村巡查比賀君ニ左記を依託す

一、親友夜学校生徒にして教師の命に従はざる者

「は」操行不良教師の訓誨ニ従は者は警察力

を以て此れ矯正すべき事

二、親友夜学校生徒にして■欠席勝ちて教師の督促ニ応じざる時は警察力を以て督促すること

三、巡查巡回中本校生徒にて不良の行ひある時は

本校教師に通知すること

東松君欠勤矢田君代用他ニ記事なし

■生徒補習部幻灯器を買ひ入れ

毎日曜日此れをうつして児童「生」青年の  
娯楽ニ供すること、せり

本日補習科生徒廣崎政吉は夜学生中の

不良生徒大島与惣次郎を矯正せ

んとして忠告せし処、却て此れを逆

ニ受け為りに顔面ニ負傷を受けたり

記事なし

記事なし

二十二日

記事なし

【本日は英国皇帝ノ戴冠式ヲ挙行セラル】

二十三日

本日西山すての父善兵衛来り娘すて

の女学校ニ行き居る嬉しさを述べ居れり  
如何ニ礼を言へばよきかとまご／＼し居  
る様如何ニも可憐ともあどけないとも言  
へぬ思ひせり

偕感可憐なる貧民より一言の喜びを受くる  
は百万の富を受くるに優ると言へり

二十四日

本日夕方運動場ニ相撲場を作れり

直ニすもうをとれり

補習科男子部は欠席生督促ニ巡回せり

欠席多き原因 不良少年学校帰路ニ於て

なかせる、いちめる、悪戯をなすとあり

此れが予防 女子小学生を先へ帰へらせる事

毎日囉補習科男子部生徒主催の幻灯及剣

無等見物ニ就き「学」夜学生のみ入場をゆるし

出席歩合をよくせん目的にてなせしに他の

児童押しよせ来り入場せんとす 依て此

れを拒みし処却て愚まいの親来り

入れるも入れぬもある「物」ものかと腕力ニ訴へ

んとせり補習生言葉を尽して入場の主義と

■執行の方針を語るも聞かざりき將に

争闘起らんとせしを以て余は開散を命じたり

二十六日曇天

記事なし月曜日

二十七日雨天火曜日

本日補習生中島伊三郎早瀬仙三郎ニ器具掛ヲ小林  
孝三郎、吉田平三郎ニ夜学部図書掛を命ず

二十八日雨天水曜日

本日小林君東松君欠勤 東松君代矢田君  
五年補習掛け持

二十九日 木曜日

記事なし（雨天）

三十日 金曜日

本日補習九十九義一の送別茶話会をなせり（放課  
後）余は九十九ニ向ひ今後の訓  
誨をなせしに事実流涕せり

七月

七月一日 土曜日

記事

七月二日 日曜日

例ニより演芸会執行

一、中臣蔵五段目定九郎夜付

二、岩見重太郎重左衛門

三、平井権八藤丸籠破り

四、堀辺安兵衛高田の馬場

五、幻灯楠公二宮

六、剣舞

非常ニ成績よし

小林君欠勤、矢田君代用

記事なし小林君欠勤矢田君代用

小林君欠勤矢田君代用

本日九十九義一君学校へ礼状来る

(行先居住丹波福知山岡の段大矢休蔵

方九十九義一)

七月六日 水曜日

近頃夜学生ニして多く奥村座ニ

芝居見物に行くもの多し他ニ記事なし

七月七日 木曜日

小林君東松君欠勤

本日夜学生鍵田幸次郎、伊藤秀吉と

互ニ党「派」派を組みて喧嘩をなせり

(下駄ニてなぐりあひし)齊藤政吉君之レヲ制止す

七月八日 土曜日

前夜喧嘩のあと又も喧嘩の横様ありし為ニ訓誨す

他ニ記事なし

七月九日 日曜日

記事なし(旧暦六月十五日)

七月十日 月

東松君欠勤記事なし

七月十一日火曜日

記事なし

七月十二日水曜日

近頃の暑さに(九十三度)随分困難なりき

暑さとねむさと灯火の火氣障子

開けば風ニて灯火消へ風なきときは

小虫入り来りて困難せり

生徒も昼の暑さとかれにていねむりするもの多

し

○昨夜は児童且父来りて帰路生徒同士の喧嘩を訴

へ来れり

○昨夜より「生」女子裁縫部生徒はあまりの暑さ

と夜の短き故今晚より裁縫を休ましてくれと言

ひ来たれニ依て井尻女教員を夜学諸事務

の整理を命ず出席簿の学籍記入納出簿の整理其

の他雑事

本日男補習生廣崎政吉君に左記

事項を調査を委托す

一、宗教の種類

二、生業の狀態及び一人一円の収益

三、婚姻初婚者の年齢離婚の現状

四、衛生設備

五、娯楽機關

其他四ヶ条 計九ヶ条……

七月十四日

本日は弁天夜店ニて幼年者欠勤多く為に一場の話

にて終る

但し青年組は通常授業す

七月十五日土曜日

記事なし

七月十六日日曜日

「本日」記事なし

【七月十六日本日は祇園祭のよいやま】

七月十七日月曜日

記事なし

七月十八日火曜日

記事なし

七月十九日水曜日

記事なし

七月二十日木曜日

小林君欠勤矢田君代用

七月二十一日金曜日

東松君欠勤矢田君代用

本日自強会人力車貸与人を召集す

実は前前夜より召集するも集らざりき

【二十一日日本日は土用の入りなり】

七月二十二日土曜日 今年夏期休業を七月二十四日

より九月五日までとす依て今終業式をなす

七月二十三日日曜日

七月二十四日月曜日 本夜青年生徒を集め教室を片付ける

【七】八月十三日 本校舎校具小修繕を成す

八月十三日 本校世話人浅井清三郎氏ヨリ本校出身

西山すての為に学資として金二円を同人

ニ寄附せらる

八月十七日

本日午前青年生徒を集め大掃除をなさしむ

八月二十一日

町内地蔵盆のあんど絵十七個書きたり

〃二十二日

〃 の大つ里あんど絵こっけい画書きたり

町民非常ニ喜べり

【八月二十八日内閣■■更迭アリより桂内閣解職西園寺内閣入

る】

【八月二十三日台湾生番人軍人ばかり京極ニ於て見る】

九月一日 金曜日

本日生徒呼出し書を配布す

九月二日 土曜日

本日余園子座芝居ニ行き本校生徒

の如何程見物ニ行き居るを視察ニ行

結果非常ニ多数行き居れり五日より

の始業も案じられたり

九月三日 日曜日

記事なし

【近頃米価一升二十七銭細民困難セルコトと思ヒ彼是レ聞き正セ

シニ「左程ニモ」此ノ村落ハ左程ニモナキ由聞き及ビタリ】

九月四日 月

本日裁縫生募集の配布をなす

九月五日

本日第二学期始業式を始む

一、本校職員小林悦蔵君家事都合ニより退職（勤

続明治四十二年十一月十「五」九日より今日二

至る）充分の慰勞金を送り

送別致したきも財政豊ならず心ならずも弔金の

謝礼を成して別る

小林君代りとして前職員たりし渡辺君を入る

小林君より生徒ニ紙七百枚送らる

二、本日比賀注所巡査ニ登校を請ひ生徒

欠席の督促を更ニ依頼す

九月六日 水曜日

本日生徒貸与書物を買入る

【近頃木娘のうはさ高く本校南側光福寺境内ニも現れたり毎夜見

物人多く来り夜学教授のさまたげとなりたり】

九月七日 木曜日

記事なし

九月八日 金曜日

盆以来本村内ニ園子座芝居出来、為ニ本村の児童

青年毎見物引きもきらず為ニ夜学の一大妨害と

思ひ園子座々長「の談」ニ左記申込承任を得たり

毎日曜日夜学生ニ限り芝居見物凡四割引の事

以て夜学生の日曜日以外の芝居見物を防が

んとせり

【近頃独仏開戦説盛に起れり】

九月九日

本日生徒一同ニ芝居割券を渡す

生徒男女総「百枚」九十八枚

「演劇間」開演中不行儀の行ひなきこと

芝居見物の規定を守ること等を言ひ聞かせたり

九月十日 日曜日

本日図子座二行き生徒を見たるに

生徒行儀以前より良好なりき見物

生徒約九十人、却て図子座も利益かと思はれたり

九月十一日月曜日

記事なし

九月十二日

本日余一時間青年の授業をなし二時間目

東田中夜学二行きたり

九月十三日

余一時間授業をなした東田中夜学二行きたり

九月十四日

記事なし

九月十五日金曜日

記事なし

【近頃支那四川省辺二「募」暴起蜂起せり】

九月十六日土曜日

図子座見物割引券を渡す

九月十七日日曜日

図子座夜学生徒芝居見物割引券二「就き」乱用するものあるを以て行きて調べ

後日の規定をなせり

九月十八日月曜日

記事なし

九月十九日火曜日

記事なし

九月二十日水

余東田中夜学二行く

【(上田教員の内二女子出産す名妙子)】

【近頃四川省暴民漸く鎮定の由】

九月二十一日木曜日 本日■土方親方井上多見蔵氏より其の子方(学齡

中の者)にて夜学二来る

児童の出席しるしをの帳を作り夜学出席の督励を成しくれたり 余は大ニ喜びたり

「金」九月二十二日

記事なし金曜日

九月二十三日土曜日

記事なし

九月二十四日日曜日

記事なし

九月二十五日月曜日

一時間授業をなし余は東田中夜学二行きたり

本日土方親分井上多見蔵氏方二行き児

督励の件を礼二行き猶一層の尽力下

されと言ひ置きたり児童出席よきもの

には紙をやると親方は言ひ居れり余は

其の美興を賞して帰る

九月二十六日月曜日

記事なし

九月二十七日水曜日

今晚三年組山田政次郎粗暴なる行ひをなし青年組

斎藤政吉、之を矯正せん

としたるに自らあやまて机二頭をこぶを出来かし

泣きわめき斎藤政吉がせりと言ひ帰れり為に

両親来り大ニ斎藤と争へり遂斎藤の親の内

ニ至り大ニ争■へり余致りて説諭するも中々

静■まらざるを以て其の静まを待ち又々家ニ

行き互ニ注意を与へたり

九月二十八日木曜日

渡辺君欠勤廣崎政吉代用教授をなす

九月二十九日金曜日

記事なし

九月三十日 土曜日

記事なし

十月

十月一日 日曜日 記事なし

十月二日 月曜日 記事なし

十月三日 東松君欠勤廣崎君代用教授をなす

十月四日 水曜日 上田教員欠勤廣崎君代用教授をなす

今晩尋四五年丹羽岩蔵岡本才太と大争闘をなせり

佐山伊之助其の仲裁に入りたるが又争闘となり遂

ニ佐山伊之助の面部を打たれ鮮血淋漓と流れ出て

たり青年生徒も制し兼ねたり父兄も来たり

【幼年生徒中統派あり主領伊藤秀吉】

十月五日 本日内務属留岡幸助（家庭学校長）視察の為来り

なり■箸なりしが

突然用江洲へ行かれ見合せとなれり

本日昨夜の喧嘩の連中を呼び訓誨せり

十月六日 金曜日 記事なし

十月七日 土曜日 新日本の話をなす

十月八日 日曜日 記事なし

十月九日 月曜日 本日自強会青年生徒は一時間授業二時間目より自

強会二行く

記事なし

東松君欠勤（病氣）廣崎代用

〃 他二記事なし

十月十三日 本日は戌申詔書御下しの日なるを以て二時間目二

詔書ニ御主意の談話をなす

【十月十三日近頃支那四川省武昌ニ於て叛乱起る各国ハ居留民保

護の為軍艦を差遣セリ】

十月十四日土曜日 記事なし

【支那武昌ニ於ける叛乱の首領は黄興なる山叛乱軍勢優勢なる由

及び黎元洪「共和」君主政治ヲ廢シテ共和政治を主張す】

十月十五日日曜日

十月十六日月曜日 記事なし

十月十七日 新嘗祭記事なし

十月十八日水曜日 本村青年会夜学校共同運動会開催の評議をなす

十月二十拾日月曜日 運動会々々費集會ニ

十月二十一日 青年会集會運動会準備をなす

十月二十二日日曜日 同運動会準備

十月二十三日月曜日 本日は本「日」村秋祭りにつき休日なれば

新京極等二行きて金銭の消費を防がん

為運動会を犬の馬場広場ニ於て開催す

午前九時まで準備

午前九運動会開催、午后四時終る

一夜学部 二、青年男子部及女子部

十月二十四日 臨時休学ノ

十月二十五日水曜日 記事なし

十月二十六日木曜日 記事なし

十月二十七日金曜日 記事なし

十月二十八日土曜日 記事なし

十月二十九日日曜日 記事なし

十月三十日 月曜日 『本日余東田中夜学ニ行其の代理として上田ヌイ教授す』

十月三十一日火曜日 記事なし

十一月

十一月一日 水曜日 記事なし

十一月二日 木曜日 本日春日校訓導稲荷誠平氏參觀ニ来らる余二時間目より病氣（さむけ立ちて風邪起る）欠勤す

十一月三日 金曜 本日は天長節ナルモ祝ひの満頭無くさびしき式を挙行せんとせしが（余役場ニ行てまんじゆの出るよう前以て交渉せしも其の効なく非■常ニ残念ニ思ひ居りき）廣崎政吉一人にて金貳円を夜学生に寄附しまんじゆ二百買ひ求めたり依て盛大なる天長節の式をなせり

（式後廣崎一人ニ出金させるも氣毒ニ思ひ青年生徒職員は幾分出金する相談をなせり

十一月四日 土曜日 記事なし

十一月五日 日曜日 記事なし

十一月六日 月曜日 余病氣欠勤

十一月七日 火曜日 同

十一月八日 水曜日 同

十一月九日 木曜日 本日は自強会なりしが自強会の方にて準備出来す役員集らず依て

来演者西本願寺説教師加藤氏を本夜学ニ於て講演を乞へり

十一月十日 金曜日 記事なし

十一月十一日土曜日 記事なし

十一月十二日日曜日 記事なし

十一月十三日月曜日 本日裁縫部女教員登校中光福寺裏手ニ於て闇中はつびを着たるあやしき男子現れ後より抱き止めたり同教員は大声を發すれば男はにげ去りたり

抱き止めたり同教員は大声を發すれば男はにげ去りたり

十一月十四日火曜日 記事なし

十一月十五日水曜日 （本日は真如堂じゆやに参拝人多く夜生も多く参拝せり

十一月十六日木曜日 本日師範学校教諭萱場様より絵画を多寄送せらる

本日滋賀県滋賀郡より■同郡会議員二名本村自強会本夜学校の事を視察に来らる

「十一月」

十一月十七日金曜日 記事なし

【本日皇太子殿下川端御通過せらる（河内尾花慶吉君来る）】

十一月十八日土曜日 記事なし

十一月十九日日曜日 記事なし

十一月二十日月曜日 本日常高野河原青年会秋季大会ニ出張す

十一月二十一日月曜日 本日東松氏欠勤ス

十一月二十二日 本日渡辺氏欠勤ス

十一月二十三日 祭日

十一月二十四日 記事なし（東松君欠勤、



十一月二十五日 本日青年幹事集りて■軍人送迎会の評議をなす

十一月二十六日日曜日

十一月二十七日月曜 本日内務省より京都府「庁■」属及郡役所書記を

連れて本夜学及び本村の視察に來られたり、余は

村内を案内し夜学の経営目的方針等を語る彼等役

人は諸種の統「系」計を要求して歸れり

「十一月二十一」 本日青年会開会

入営兵及退営兵の送迎会

入営兵青年会員 三浦清三郎

退営兵 〃 鍵田清三郎

十一月二十八日火曜日記事なし

十一月二十九日水曜日記事なし

十一月三十日木曜日 記事なし

十二月一日

一日 金曜日 記事なし

【小村候前外相薨去す】

二日 土曜日 記事なし

三日 日曜日 「■前」午前中廣崎と余と事務をとる

四日 月曜日 本日男子生徒一同「男子」田中校運

動場二行き陣取遊戯をなす

五日 火曜日 記事なし

六日 水曜日 記事なし

七日 木曜日 「記事なし」今晚学■齡就学児童を

「八日 金曜日」 青年部二分担し此れを監督せしむ

八日 金曜日 記事なし

九日 土曜日 「記事なし」

「十日 日曜日」 本日昼間不良少年夜学二入り込み

紙千余枚切手四十二銭其他児童学用品を

盗み其の上余師範学校より受絵圖（出席多数のも

のに賞として与ふる為受けしもの）を四拾枚ばか

り引さきたり一名自白せり（女生徒十二歳位のも

の）放課一同を集め大ニ訓誨を与ふ

他二数人犯罪人ある見込み、

十日 日曜日 記事なし

十一日 月日 本日余三条十字屋へオルガンを買ひに行く

金八十二円物を半寄附的頼み七十二円二買ふ婦

路浅井氏の宅二行きて談ず

十二日 ■■火曜日 オルガンを取りに行く人夫を定む

他二記事なし

十三日 水 本日オルガンを取りに行く（斎藤、酒井、上田梅

吉）青年迎へに來る

本日は四十七義士の討入日なるを以て義士追弔

の為義士の話をなす（講談的に）

講談師 上田静一

一、「天野」天川屋利兵衛の一代記、

二、間十次郎の子離れ

三、神崎与五郎の幼児の一節

四、浅野長矩、大石義雄、吉良上野の人格

十五日 金曜日 記事なし

十六日 土曜日 記事なし

十七日 日曜日 記事なし

十八日 月曜日 記事なし

十九日 火曜日 記事なし（本日菊花女学校校長来たらる）

二十日 水曜 終業式の歌を教ゆ

二十一日 木曜日 記事なし

二十二日 金曜日 本日の掃除をなす

■二十三日土曜日 終業式を挙行す

「二十四日 月曜日 記事なし」

本日青年会員（中年者十七八九歳の者）十名

ばかり来り青年会の隆盛を計りたしと言ふ由申出

でたり其の代吾々如何なる勞をもとると言へり

【近頃支那政局稍々定マラントスル趨勢アリ】

二十四日 日曜日 記事なし

二十五日 月曜日 〃

二十六日 火曜日 〃

二十七日 水曜日 〃

二十八日 木曜日 〃

二十九日 金曜日 〃

三十日 土曜日 〃

三十一日 日曜日 記事なし

「一、消ずに■合戦」

一、消ずになれと楽しみし、

昼の休みも今朝のま、

二、東の大将誰なるか

審判官は先生よ

三、てんでに用意の雪つぶて

討ちつ討たれつ追ひまはる

四、「手当たり次第」

手当たり次第かいつかみ

庭に花散る雪吹雪

庭白沙の白雪は

いさ雪合戦やれ／＼

西の大将誰なるか

役割きまつたよし／＼

かためて持つや七つ八つ

どつちもまけるなそれ／＼

めつたやたらに投げ合ふて

「どつちもまけ」

折から鈴がちりん／＼

何程払ひ込めば車を復すこと

一日 五錢 毎日

自強会車賃取高払

出金

山田新次郎

自己修繕やきば一回拾五銭

四十三年十一月七日

ノ九円拾銭

四十四年二月二十一日

ノ老円拾銭

合計拾円貳拾銭也

自己修繕金拾五銭

笹原藤三郎

明治四十 年 月 日

山中伊之助

ノ 明

合計七円貳拾銭也

自己修繕

焼ば一回十五銭三回四拾五銭

真ぼう一回七拾五銭也

合計老円貳拾銭也

明治四十四年五月卅一日

ノ貳拾円五拾銭也

自己修繕焼ば一回 拾五銭

明治四十 年 月 日

一金貳拾貳円貳拾銭也

自己修繕(零)

増田兼吉

明治四十 年 月 日

佐々木仲蔵

(佐々木惣五郎)

自己修繕

篠原新三郎

吉田万次郎

(元佐々木惣五郎)

収め金貳拾八円也

自己修繕二回 金二十銭也

収金貳拾六円貳拾銭

石田岩次郎

自己修繕「は」焼入(ばがへ)二回貳拾七銭也

収金拾五円拾銭也

山田清三郎

自己修繕 ナシ

明治四十四年

児童貯金扣へ

(以下全文抹消)

| 預金月日    | 預金高        | 支払高            | 木下吉松           |
|---------|------------|----------------|----------------|
| 十一月十五日  | 一金四拾銭也     |                | 一金四拾銭也         |
| 〃 十六日   | 一、金四銭也     |                | 金四拾四銭也         |
| 〃 十七日   | 一金拾貳銭也     |                | 一金五拾六銭也        |
| 〃 十八日   | 一金拾壹銭也     |                | 一金六拾七銭也        |
| 〃 二十日   | 一金拾八銭也     |                | 一金八拾五銭也        |
| 十一月二十七日 | 一金五銭也      |                | 一金九拾銭          |
| 十二月二日   | 一金拾五銭      |                | 一金壹円五銭也        |
| 十二月四日   | 一金拾銭       |                | 一金壹円拾五銭也       |
| 十二月七日   | 一金拾四銭也     |                | 一金壹円貳拾九銭       |
| 十二月八日   | 一金「拾」五銭也   |                | 一金壹円參拾四銭也      |
| 十二月十二日  | 一金「拾」貳拾壹銭也 | 同日<br>一金壹円五拾五銭 | 零<br>一金壹円五拾五銭也 |

(以下全文抹消)

| 年月日    | 預金高   | 支払高    | 島本伊三郎         |
|--------|-------|--------|---------------|
| 二月十五日  | 一金四拾銭 |        | 差引残高<br>一金四拾銭 |
| 二月二十日  |       | 一金三拾銭也 | 〃 拾銭          |
| 三月一日   | 〃 四拾銭 |        | 〃 五拾銭         |
| 三月二十三日 | 〃 貳拾銭 |        | 〃 七拾銭         |
| 四月五日   |       | 一金七拾銭  | 零             |
| 五月十日   | 〃 貳拾銭 |        | 〃 貳拾銭         |
| 五月十三日  | 〃 貳拾銭 |        | 〃 四拾銭         |
| 五月十四日  |       | 一金四拾銭  | 零             |

篠

〔以下全文抹消〕

|        |        |     |      |
|--------|--------|-----|------|
| 月日     | 明治四十四年 |     | 篠原亀吉 |
| 六月二十三日 | 預金高    | 支払高 | 差引残  |
|        | 一金四錢   |     | 一金四錢 |
| 六月二十六日 | 一金四錢   | 零   |      |

〔以下全文抹消〕

〔木下吉松〕

|         |           |      |           |
|---------|-----------|------|-----------|
| 預金月日    | 預金高       | 支払高  | 差引残高      |
| 十二月十三日  | 一金壹円五拾五錢也 |      | 一金壹円五拾五錢也 |
| 〃       | 一金拾錢      |      | 一金壹円六拾五錢也 |
| 十二月十五日  | 一金拾錢      |      | 一金壹円七拾五錢也 |
| 十二月十六日  | 一金四錢      |      | 一金壹円七拾九錢也 |
| 十二月十八日  | 一金拾錢也     |      | 一金壹円八拾九錢也 |
| 十二月十九日  | 一金八錢也     |      | 一金壹円九拾七錢也 |
| 十二月二十一日 | 一金三錢      | 一金貳円 | 一金貳円也     |

〔以下全文抹消〕

|       |        |       |       |
|-------|--------|-------|-------|
| 月日    | 明治四十四年 |       | 竹村関藏  |
| 二月十五日 | 一金貳拾錢  | 支払高   | 一     |
|       | 預金高    |       | 預金残高  |
| 二月十五日 | 一金貳拾錢  |       | 一金貳拾錢 |
| 四月十九日 | 一金貳拾錢  | 一金貳拾錢 | 零     |

〔以下全文抹消〕

〔木下吉松〕

|         |          |   |          |
|---------|----------|---|----------|
| 十二月二十一日 | 一金貳円也    |   | 一金貳円也    |
| 十二月二十二日 | 一金八錢也    |   | 一金貳円八錢也  |
| 十二月二十七日 | 一金三拾二錢也  |   | 一金貳円四拾錢也 |
| 十二月三十日  | 一金貳円四拾錢也 | 零 |          |

〔以下全文抹消〕

〔笹原寅吉〕

|        |        |     |        |
|--------|--------|-----|--------|
| 月日     | 預金高    | 支出高 | 差引残高   |
| 七月十一日  | 一金拾九錢  |     | 一金拾九錢也 |
| 〃      | 壹錢也    |     | 一金貳拾錢也 |
| 七月十七日  | 一金二拾錢  |     | 一金四拾錢也 |
| 七月二十二日 | 一金拾錢也  |     | 一金五拾錢也 |
| 七月二十二日 | 一金五拾錢也 | 零   |        |

〔以下全文抹消〕

|       |           |     |         |
|-------|-----------|-----|---------|
| 月日    | 明治四拾四年    |     | 大島愛之助   |
| 三月十三日 | 參拾四錢五厘    | 支払高 | 差引残高    |
| 四月十九日 | 四拾錢       |     | 三拾四錢五りん |
| 七月四日  | 一金貳拾四錢五りん |     | 七拾四錢五りん |
| 八月十六日 | 一金五拾錢     | 零   | 五十錢也    |

〔以下全文抹消〕

〔笹原亀吉〕

|       |       |       |        |
|-------|-------|-------|--------|
| 預金月日  | 預金高   | 支出高   | 差引残高   |
| 七月十四日 | 一金四拾錢 |       | 一金四拾錢也 |
| 七月十八日 | 一金貳拾錢 |       | 一金六拾錢也 |
| 七月二十日 | 一金四拾錢 |       | 一金壹円也  |
| 九月三十日 |       | 一金壹円也 | 零      |

〔以下全文抹消〕

|        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 預金支出月日 | 明治四十四年 | 伊藤秀吉   |
| 預金高扣   | 支出高扣   | 差引残金高扣 |
| 四月七日   | 一金貳拾錢  | 一金貳拾錢  |
| 四月八日   |        | 零      |

〔以下全文抹消〕

|        |        |         |
|--------|--------|---------|
| 月日     | 明治四十四年 | 梅井たね    |
| 六月二十七日 | 預金高    | 支出高     |
| 七月七日   | 一金四拾錢也 |         |
| 七月十一日  | 一金貳拾錢也 |         |
| 七月十八日  | 一金四拾六錢 | 一金壹円六錢也 |
|        |        | 零       |

〔以下全文抹消〕

|         |        |     |       |
|---------|--------|-----|-------|
| 〔五月十三日〕 | 預金高    | 支出高 | 差引残高  |
|         | 明治四拾四年 |     | 竹村秀次郎 |

|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 五月十三日 | 一金貳拾錢 |       | 一金貳拾錢 |
| 六月十四日 |       | 一金貳拾錢 | 零     |

〔以下全文抹消〕

|        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 月日     | 明治四十四年 | 梅井こぎく  |
| 六月二十七日 | 預金高    | 支出高    |
| 七月十四日  | 一金貳拾錢  |        |
| 七月十七日  | 一金貳拾錢也 |        |
| 七月十七日  |        | 一金六拾錢也 |
|        |        | 零      |

〔以下全文抹消〕

|        |        |       |
|--------|--------|-------|
| 月日     | 明治四十四年 | 吉田喜一郎 |
| 五月十三日  | 預金高    | 支出高   |
| 六月二十七日 | 一金貳拾錢  |       |
|        |        | 零     |

〔以下全文抹消〕

|        |             |          |
|--------|-------------|----------|
| 月日     | 明治四十四年      | 木村小ぎく    |
| 六月二十七日 | 預金高         | 支出高      |
| 七月七日   | 一金四拾錢也      |          |
| 七月十一日  | 一金貳拾錢也      |          |
| 七月十七日  | 一金 五錢       |          |
| 七月十七日  | 〔二金〕一金四拾八錢也 | 一金壹円拾參錢也 |
|        |             | 零        |

〔以下全文抹消〕

| 明治四十四年  |        | 〔中川せき〕 石田タツエ |          |
|---------|--------|--------------|----------|
| 月日      | 預金高    | 支出高          | 差引残高     |
| 五月十三日   | 一金貳拾錢  |              | 一金貳拾錢    |
| 六月十日    | 〃 貳拾錢  |              | 〃 四拾錢    |
| 六月二十七日  | 〃 貳拾錢  |              | 〃 六拾錢    |
| 七月十四日   | 〃 四拾錢  |              | 一金壹円     |
| 七月十八日   | 〃 貳拾六錢 |              | 一金壹円貳拾六錢 |
| 〔七月十九日〕 |        | 〔一金壹円貳拾六錢〕   | 〔零〕      |
| 七月十八日   | 〃 貳拾錢  |              | 一金壹円四拾六錢 |
| 七月十九日   |        | 一金壹円四拾六錢也    | 零        |

〔以下全文抹消〕

| 明治四十四年 |        | 中川せき    |        |
|--------|--------|---------|--------|
| 預金月日   | 預金高    | 支出高     | 差引残高   |
| 七月十四日  | 一金四拾錢也 |         | 一金四拾錢也 |
| 〃      | 〃 貳拾錢  |         | 一金六拾錢也 |
| 〃      |        | 一金貳拾錢   | 一金四拾錢也 |
| 七月十八日  | 一金拾錢   |         | 一金五拾錢也 |
| 七月十九日  |        | 一金五拾六錢也 | 零      |

〔以下全文抹消〕

| 明治四十四年 |        | 〔竹林円藏 合名〕 木下吉松 |         |
|--------|--------|----------------|---------|
| 月日     | 預金高    | 支払高            | 差引残高    |
| 六月十五日  | 一金貳拾五錢 |                | 一金貳拾五錢也 |

|          |            |                            |              |
|----------|------------|----------------------------|--------------|
| 六月十六日    | 一金拾參錢也     |                            | 〃 參拾〔七〕八錢也   |
| 六月十七日    | 一金拾錢也      |                            | 〃 四拾〔七〕八錢也   |
| 六月十九日    |            | 一金四拾八錢也                    | 零            |
| 〃        | 一金拾五錢也     |                            | 一金拾五錢也       |
| 六月二十日    | 一金參錢也      |                            | 一金拾八錢也       |
| 六月二十四日   | 一金五錢也      |                            | 一金貳十參錢也      |
| 六月二十六日   | 一金六錢也      |                            | 一金貳拾九錢也      |
| 七月四日     | 一金拾貳錢也     |                            | 一金四拾壹錢也      |
| 七月五日     | 一金六錢也      |                            | 一金四拾七錢也      |
| 七月六日     | 一金四錢也      |                            | 一金五拾壹錢也      |
| 七月十一日    | 一金八錢也      |                            | 一金五拾九錢也      |
| 七月十三日    | 一金拾參錢也     |                            | 一金七拾貳錢也      |
| 七月十五日    | 一金八錢       |                            | 一金八拾錢〔也〕也    |
| 七月十七日    | 一金四錢       |                            | 一金八拾四錢也      |
| 七月十八日    | 一金貳錢也      |                            | 一金八拾六錢也      |
| 七月二十日    | 一金拾錢       |                            | 一金九拾六錢也      |
| 七月二十四日   | 一金四錢       |                            | 一金壹円也        |
| 〔七月二十八日〕 | 〔一金〔拾〕六錢也〕 | 〔木下分二十錢入共同<br>故二六錢入ル計二十六錢〕 | 〔一金壹円〔拾〕六錢也〕 |
| 七月二十八日   | 一金拾六錢也     |                            | 一金壹円拾六錢也     |
| 七月三十日    | 一金六錢也      |                            | 一金壹円貳拾貳錢也    |
| 八月十二日    | 一金拾五錢也     |                            | 一金壹円參拾七錢也    |
| 八月十四日    |            | 一金壹円參拾七錢也                  | 零            |

【木下吉松一人分】

〔以下全文抹消〕

|          |          |                  |           |
|----------|----------|------------------|-----------|
| 〔七月二十八日〕 | 〔一金貳円也〕  | 〔七月二十八日切手合計ス記入〕  | 〔一金貳円也〕   |
| 七月二十八日   | 一金壹円九拾銭也 | 七月二十八日までの切手合計記入す | 一金壹円九拾銭   |
| 七月三十一日   | 一金貳拾五銭也  |                  | 一金壹円六拾五銭也 |
| 八月一日     | 一金貳拾五銭也  |                  | 一金壹円四拾銭也  |

〔以下全文抹消〕

生徒毎月出席貯金扣へ

|       |          |         |
|-------|----------|---------|
| 八月九日  | 一金拾銭也    | 一金壹円参拾銭 |
| 八月十四日 | 一金壹円参拾銭也 | 零       |

【早川金三郎】

〔以下全文抹消〕

|         |         |            |            |
|---------|---------|------------|------------|
| 預金月日    | 預金高     | 支払高        | 〔預金者名〕差引残高 |
| 十二月十九日  | 一金貳拾銭也  |            | 一金貳拾銭      |
| 〃       | 一金五銭也   |            | 一金貳拾五銭     |
| 十二月二十日  | 一金貳拾五銭也 |            | 一金五拾銭也     |
| 十二月二十一日 | 一金四拾銭也  |            | 一金九拾銭也     |
| 十二月二十三日 |         | 〔一金〕一金四拾銭也 | 一金五拾銭也     |
| 十二月二十四日 |         | 一金五拾銭也     | 零          |

| 姓名    | 出席数 | 四月   | 五月   | 六月 | 七月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 一月 | 二月 | 三月 | 合計 |
|-------|-----|------|------|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|
| 姓名    | 貯金高 | 出席日数 | 貯金□高 |    |    |    |    |     |     |    |    |    |    |
| 松下清十郎 |     | 〇    |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 二〇 |
| 廣崎政吉  |     | 〇    |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 二〇 |
| 榊本安次郎 |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 二〇 |
| 大島三郎  |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 二二 |
| 吉田仙二郎 |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 一九 |
| 和田梅次郎 |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 一三 |
| 大橋幸吉  |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 一六 |
| 齋藤政吉  |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 一六 |
| 小林音吉  |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 二二 |
| 西村栄次郎 |     | 〇    |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 二二 |
| 川口増二郎 |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 一九 |
| 吉田忠三郎 |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 二二 |
| 三宅岩藏  |     |      |      |    |    |    |    |     |     |    |    |    | 〇  |



| 井上清三郎 | 笹原清三郎 | 笹原新太郎   | 大森福松 | 松村源三郎 | 山中安次郎 | 小林文二郎   | 松浦源四郎 | 岡本齐太 | 朝田幾松 | 山田京松 | 山田音次郎 | 笹原保太郎 | 井上龟吉 |
|-------|-------|---------|------|-------|-------|---------|-------|------|------|------|-------|-------|------|
|       |       | ○       | ○    |       |       |         |       |      | ○    |      |       |       |      |
|       |       |         |      |       |       |         |       |      |      |      |       |       |      |
|       |       |         |      |       |       |         |       |      |      |      |       |       |      |
|       |       | 二<br>六・ |      |       |       | 一<br>三・ |       |      | ○    |      |       |       |      |
|       |       |         |      |       |       |         |       |      |      |      |       |       |      |
|       |       |         |      |       |       |         |       |      |      |      |       |       |      |
| 一三    | ○     | 一八      | 一五   | 一六    | 六     | 一八      | 一八    | ○    | 一三   | 一九   | 一三    | 二     | 二一   |
|       |       |         |      |       |       |         |       |      |      |      |       |       |      |
|       |       |         |      |       |       |         |       |      |      |      |       |       |      |
|       |       |         |      |       |       |         |       |      |      |      |       |       |      |
|       |       |         |      |       |       |         |       |      |      |      |       |       |      |

| 山田兼吉 | 杉本吉松 | 伊藤鶴吉 | 木下芳兵衛 | 中川吉之助 | 吉田半次郎 | 井上幸三郎   | 井上嘉造 | 笹原幸太郎 | 竹村関造 | 杉本清三郎 | 吉田平三郎 | 齊藤方吉    | 山田時藏 |
|------|------|------|-------|-------|-------|---------|------|-------|------|-------|-------|---------|------|
| ○    |      |      |       | ○     |       |         |      |       |      |       |       |         |      |
|      |      |      |       |       |       |         |      |       |      |       |       |         |      |
|      |      |      |       |       |       |         |      |       |      |       |       |         |      |
|      |      |      |       |       |       | 一<br>三・ |      |       |      |       | ○     | 一<br>五・ |      |
|      |      |      |       |       |       |         |      |       |      |       |       |         |      |
|      |      |      |       |       |       |         |      |       |      |       |       |         |      |
|      |      |      |       |       |       |         |      |       |      |       |       |         |      |
|      |      |      |       |       |       |         |      |       | 二    | 五     | 二     | 九       | ○    |
|      |      |      |       |       |       |         |      |       |      |       |       |         |      |
|      |      |      |       |       |       |         |      |       |      |       |       |         |      |
|      |      |      |       |       |       |         |      |       |      |       |       |         |      |



[illegible][illegible]

### 【凡例】

一 原文の旧字・俗字は常用漢字とした。

判読不能または難読字は□とし、文字数分置いた。また抹消字で判読不能の場合は■とし、文字数だけ置いた。

訂正された文字は「」中にいれ、訂正した文字をその下に置いた。

欄外の記述は【】の中に入れ、当該日と思われる横に記した。

原文は二三行罫紙を使用しているが、罫紙の枠などは無視した。

誤字・脱字などがあるが、特に正字の訂正はしていない。

月の変わりには、原文が一行あけていなくとも一行あけた。

一 原文の中で、一部に現在では差別的および不適切な表現があるが、歴史的資料としてそのままとした。

明治四十五年二月一日より

日誌

田中親友夜学校

露ごとに月はやどれど大空の

誠の月は一つなるらむ

神仏聖といふも天地の

誠の中に「の生」にむめ生物

一、いかならぬことにあひても撓まぬは

わかしきしまのやまたましひ

二、めにみえぬ神の心にかよふこそ

人の心の誠なりけり

三、おのか身をかへりみずして人のため

つくすや人のつとめなるらん

明治四十五年 子の歳

一月

一日 月曜日 四方拝略式

二日 火々 休暇中

三日 水々 本日青年会役員会を開き左記事項を決す

一、青年会役員中より毎月金参銭を会費として  
徴集すること但し一ヶ年分一時に納金する  
時は金参拾参銭を以て一ヶ年分完納とする  
こと

二、青年会員の名詞を各戸毎点附すること

四日 木曜日 記事なし

五日 金々 記事なし

六日 土々 記事なし

七日 日々 記事なし

八日 月々 青年十数名にて自強会々場を夜学内に作る

小人十二態

泰山喬獄之身 惡漢之態……………粗豪

天空海濶之腹 婦人……………柔懦

和風甘雨之色 兒女……………嬌稚

日照月臨之目 市井……………貧鄙

旋乾輒坤之手 俗子……………庸陋

盤石砥柱之足 鷗子……………儂佻

臨深履薄之心 倫優……………滑稽

玉潔氷清之骨 閨閭……………村野

|      |     |   |  |
|------|-----|---|--|
| 九日   | 火曜日 | 夜学内ニ於て自強会開催   | 其の行路 午前十二時半出発、聖護地藏より山路山中不動滋賀越至る此処ニて休憩し琵琶湖を眼下ニ眺むそれより坂本ニ下り唐崎ニ至り休憩其れより大津ニ至り、逢坂山を越へ午后八時帰宅但し無銭旅行空腹を感じたるもの多かりき、内三名疲労甚だしく汽車汽船に乘れり |
| 十日   | 水々  | 一、本日夜学校始業式を成す<br>二、青年会員の各戸毎二名詞を点附す。<br>本「師」教員東松氏蜜柑二箱生徒の為寄附せらる   | 記事なし   |
| 十一日  | 木々  | 本日青年会の諸帳簿を造る<br>一集金扣へ簿<br>二、青年会員記名簿   | 記事なし   |
| 十二日  | 金曜日 | 記事なし  | 記事なし   |
| 十三日  | 土曜日 | 記事なし  | 唱歌可憐の少女  |
| 十四日  | 日曜日 | 記事なし  | 話、コロンブスの伝  |
| 十五日  | 月曜日 | 本日青年会開会<br>会員六拾名ばかり集まる<br>青年会の目的今後の方針を語る<br>○本日青年会員補習部生徒共同ニて夜学校の灯提一ツを寄附せり   | 記事なし（修身談中兄弟の愛及び良心ニ就きて談話青年大ニ感奮せり）   |
| 十六日  | 火曜日 | 本日小正月の為め夜学を休学す余の宅ニ於てかるた会開催青年補習生一同   | 記事なし   |
| 十七日  | 水曜日 | 【一月十六日日本日午前一時より大坂市南区の大火焼屋敷五千戸千日前全焼……本日清朝総理大臣遠世凱革命党の為狙撃セラル生命別条ナシ】<br>本日は本夜学校創立記念日ニ当れり一場の訓誨をなせり、<br>本日夜学補習生遠足旅行を成す人員十四名 | 記事なし<br>本日学科唱歌 陸軍乃可憐の少女<br>談話、真の友人<br>記事なし<br>渡辺君欠勤他二記事なし<br>本日は孝明天皇祭ニ就き休学   |
| 十八日  | 木曜日 |   |  |
| 十九日  | 金曜日 |   |  |
| 二十日  | 土曜日 |   |  |
| 二十一日 | 日曜日 |   |  |
| 二十二日 | 月曜日 |   |  |
| 二十三日 | 火曜日 |   |  |
| 二十四日 | 水曜日 |   |  |
| 二十五日 | 木曜日 |   |  |
| 二十六日 | 金曜日 |   |  |
| 二十七日 | 土曜日 |   |  |
| 二十八日 | 日曜日 |   |  |
| 二十九日 | 月曜日 |   |  |
| 三十日  | 火曜日 |   |  |

て大原武慶氏根津一氏の演説ありたり】

三十一日 水曜日、

二月

一日 木曜日

本旧暦十二月十四日ニ依り高野河原青年会ニ於て義士追慕会を開かるニ就きては同会より余を招待せり故ニ余は出張をなせり（其の席ニて大石氏の人格を語れり）本日井尻教欠席、

二日 金曜日

記事なし

三日 土曜日

記事なし

四日 日曜日

記事なし

五日 月曜日

記事なし

六日 火曜日

記事なし

七日 水曜日

記事なし

八日 木曜日

記事なし（本日柳原小学校校長坂口才之助氏參觀ニ来らる）

九日 金曜日

本日自彊会の例会日なるも集るもの少く流会せり

十日 土曜日

本日八明日紀元節なるを以て紀元節ニ対する訓誨を与ふ、本日放課後夜学生水雷運動をなし居りたるが三年組森川市松粗暴なる行ひをなしたり依て青年組酒井庄助之を制禦せんとせしニ過て抵抗し遂ニ喧嘩となりぬ、「然る所」か、る所へ森川の父来り非常立腹し將ニ大事に及ばん

十一日 日曜日

とせしを他青年之れを制したり、余直ちに森川の家ニ行父子を訓誨す、

十二日 月曜日

「記事なし」

本日又放課後喧嘩起れり、四、五年組篠原亀吉篠原仙太郎の兩人下駄にて「なぐり」撲り合ふ青年生徒此れを止め訓誨せり、

十三日「月」火曜日

【本校補習生徒○近頃十六、七の若年の少数部ニ陰風愴氣の風起れりと認めたるを以て訓誨せり】

本日本校教員渡辺作次郎氏退職せらる、本日より「廣」本校青年補習生廣崎政吉氏ヲ本校代用教員ヲ命ズ、本日放課後補習生一同渡辺氏對する送別茶話会ヲ開く

【◎本日新聞ニ於て支那政局皇帝愈々政權を共和政府ニ讓与せりと袁世凱の「深」陰謀計り難し】

【◎遠世凱共和政大統領となる遠の荊腕中々やり手である】

十四日 水曜日

記事なし

十五日 木曜日

記事なし

十六日 金曜日

記事なし

十七日 土曜日

記事なし

十八日 日曜日

記事なし

十九日 月曜日

記事なし

二十日 火曜日

記事なし

二十一日 水曜日

記事なし

二十二日 木曜日  
二十三日 金曜日

記事なし  
本日「責」青年会員三浦清三郎  
死去せしを以て其の香錢二就き幹事  
召集評議する

議事 香錢の件

會員死去の節は壹円五十錢の香錢をする

事

會費徵集細則

會員にして壹ヶ月以上病床ニ臥す時は

其の月の會費を消くこと（此れは四十五年一月より実行することと定む、既迄ニ遡れども斯く定めたり）

二十四日 土曜日

本日三浦清三郎の葬ありたり會の一部送葬す、しきび一対を送る、本日土曜日なるを以て談話及び貯音器を鳴らして聞かたり（貯音器は生徒中原伊三郎持ち來たる）

二十五日 日曜日

記事なし

二十六日 月曜日

記事なし

二十七日 火曜日

記事なし

二十八日 水曜日

記事なし

【二月二十八日御歌所長樞密顧問官男爵高崎正風（七十有餘）陸軍大將子爵西寛次郎（六十七歳）兩人病死ス○本日新聞号外來る支那北京市内五、六千の兵奪掠暴行を極むとあり】

二十九日 木曜日

「記事なし」記事なし（東松君欠席）

【二月二十九日より支那北京、天津方面兵士の暴動あり奪掠強姦実ニ慘状を極むる由無政府の狀態なりと】

三月

三月一日 金曜日

記事なし（東松君欠席）

三月二日

記事なし

三月三日

記事なし

三月四日

月曜日

本日夜學生（小供十二、三歳）笹原寅吉他生徒の爲めに押され火ニ「押」化せるストーブの上に手を置き為にヤケドをなせり、早速田村医師の診察を受く、附言同寅吉の家庭は亡目の母と二人暮しにて「僅に」赤貧洗ふが如く僅に寅吉が細き腕ニ働きて（一日二十二三錢を得）親子二人の家計を立て居れり、故ニ同寅吉負傷し働き得ざる時は忽ち困難せるを以て補習青年生徒とより万一困難ニ陥入れば幾多の救助する事を談じたり

三月五日

火曜日

本日前記笹原寅吉母を呼び金五拾錢を与へたり（但し青年補習生一同より）前日藥代三十錢錢を要せり合計八十錢給与せり（何れも青年補習生一同より）

三月六日

水曜日

【三月六日日本日友人稲荷誠平氏ヨリ新聞紙を余ニ送り來る記事中論文を見せん為誰れが彼れであるかと言ふ論文現今又又米価二

十七銭となりたるを以て貧民の窮状を論ぜしもの」

【立憲的社会主義ヲ論ゼシモノ 余ノ所感ニ維新ノ創業者モ少シ  
経済的頭「ヲ以テ」腦ヲ以テ国家経営ヲシテ置イテクレタラ余

■初メテデモコンナニクルシマズデモヨイノニト思ツタ】

|        |     |  |
|--------|-----|--|
| 三月七日   | 木曜日 | 記事なし                                       |
| 三月八日   | 金曜日 | 記事なし                                       |
| 三月九日   | 土曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十日   | 日曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十一日  | 月曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十二日  | 火曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十三日  | 水曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十四日  | 木曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十五日  | 金曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十六日  | 土曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十七日  | 日曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十八日  | 月曜日 | 記事なし                                       |
| 三月十九日  | 火曜日 | 本日補習科読み方試験をなす、成績平均六十点                      |
| 三月二十日  | 水曜日 | 生徒出席調査賞品購入証書記入等一般の諸準備をなす                   |
| 三月二十一日 | 木曜日 | 同前   |
| 三月二十二日 | 金曜日 | 本日ハ春季皇霊祭なるを以て生徒は休学、本日式場準備                  |
| 三月二十三日 | 土曜日 | 日本本校の証書授与式を挙行す、本日の賞品額金六円也、内沓田は特別賞額浅井清三郎氏ヨリ |

寄送セラル

三月二十四日日曜日 記事なし  
三月二十五日 記事なし（本日自強会人力車貸与者を集めて其の車一件ニ就き談ずる）

三月二十六日 記事なし

【二十六日より田中校五・六年伊勢参宮する】

三月二十七日水曜日 記事なし

三月二十八日 記事なし（本日自強会役員を集めて会議す）

三月二十九日金曜日 本日又自強会役員会を開会、一、自強会より人力車■七輪を青年会ニ譲り受けたリ

力車■七輪を青年会ニ譲り受けたリ

三月三十日 土曜日 本日青年会役員を開く、自強会より譲り受けた人力車一件

ニ就きて評議する

記事なし

三月三十一日日曜日

記事なし

四月

四月一日 月曜日 記事なし

二日 火曜日 記事なし

三日 水曜日 本日補習生一同教室の整頓をなす

四日 木曜日 本日始業式を挙行す

【本日田中校々長伊佐弥一郎氏白川校ニ転任す】

五日 金曜日 記事なし

六日「金」土曜日 記事なし

七日 ■日曜日 記事なし



【本日七日、—本日余兼田郡長の宅を伺ふ西部落の受大二尽せとの請ひを受く】

八日 月曜日 記事なし（本日田中校新任校長渡辺氏来る）

九日 火曜日 本日早川伊三郎と小寺源三郎と争闘をなす、次

ニ又同伊三郎と竹村英助と争闘をなす、

一〇日 水曜日 「本日本校尋常科書物を■買ひに行けり総十三

銭余」記事なし

十一日 木曜日 本日故「浦」三浦清三郎氏の香奠返しまんじう

百個来る各青年ニ配布する、本日本校生徒貸与書物を買ふ

六年 二十冊 書方 二十冊

五年 二十〃 〃 二十冊

四年 二十〃 〃 二十〃

三年 十八〃 〃 十八〃

二年 二十〃 〃 二十〃

十二日 金曜日 記事なし

【○近頃支那袁世凱事局困難の為発狂せる由新聞紙ニ見えたり

實際無根】

十三日 土曜日 本日の話、貧兒立志 医学者の立身

十四日 日曜日 （本日議事堂ニ於て教育会総会ありたり其の節

現在日本の教育ニ就き上下通じて同教育をする

は不可なりと論じたり（谷本博士の講演）則ち

貧兒教育、普通農民市民等の別上位教育、等を

言へり（余の感心）「道は」余の所感 道は王

侯より庶民に至るまで同一なるも其の手段方法

ニ至りては經濟上、学校經濟上家底經濟上、ど

うし■でも本夜学の如き特殊教育の必要を感じ

たり

十五日 月曜日 記事なし

十六日 火曜日 四年以上六年以下の生徒ニして小使を罵るも

のありたり大二訓誨を与へたり

十七日 水曜日 本日本校机其他の修繕をなす、

十八日 木曜日 記事なし

【十八日本日世界第一の汽船（六万吨）氷山とシヨ突して沈没せ

り溺死者一六〇〇人我邦人一人乗り居りしが助かりたる由助か

りし者一〇〇〇人余、此の船は何分世界一の大船の事とて慢心

を抱き居りしか万一の備不充分なりし由依て天■水二代り訓誨

を与へたるならんハ……】

十九日 金曜日 記事なし

二十日 土曜日 本日談話水戸光圀公の日本漫遊記、本日竹村他

生徒と争闘をなせり

二十一日 日曜日 記事なし

二十二日 月曜日 本日青年生徒より額ぶち二個夜学ニ寄附せり

二十三日 火曜日 記事なし

二十四日 水曜日、

二十五日、木曜日 記事なし

二十六日 金曜日 記事なし

二十七日 土曜日 本日の話、生蕃人のやさしき娘、教育の効果修身

談 誠ニ就きて黒住宗忠の歌ニ就きて

露ごとに月はやどれど大空の誠の月は一つなるらん

〔六日 月曜日〕

る相談をなす及び

【二十七日日本青年会人力車一台金参円を以て小林勘三氏へ売りつく】

二十八日 日曜日

本日青年会役員会を開く

議事春祭ニ就きて何か挙行すること

六日 月曜日

記事なし

決議一、五月十五日の晩

七日 火曜日

本日青年会役員篠原勇三郎、佐々木治三郎来

一、浪速節をやること

一、茶話会を開くこと

一、湯呑茶碗を買ひ入ること

二十九日 月曜日

記事なし

三十日 火曜日

「記事なし」本日夜学生父兄ニ児童の操ニ就き

注意を促せり(湯屋掲示場ニ)

八日 水曜日

本日青年会茶呑茶碗百個出来上る

五月

一日 水曜日

一、本日四年生丹波定吉クラス一枚■破損せり

二、山田兼吉の弟が竹村英助と喧嘩せしとて理

屈を言ひに来たり

二日 木曜日

記事なし

三日 金曜日

記事なし(青年会茶呑茶碗百個註文ニ行く手

附金参円渡す

十日 金曜日

本日人力車貸与者竹村熊之助借賃金完納せり

四日 土曜日

記事なし

五日 日曜日

本日青年会役員を集め来る十五日の総会ニ関す

十一日 土曜日

談話(立志書学生話)、他ニ記事なし

十二日 日曜日

記事なし

十三日 月曜日

十五日青年会準備

十四日 火曜日

記事なし

同日 同前

十五日 水曜日

記事なし

本日は加茂祭なるを以て此れを利用し、青年会春季総会を開く

会順

1、入場

2、君が代唱二回

3、(イ) 開会の辞

(ロ) 会計報告

(ハ) 会則の読み方及青年会員の心得を

誨告ス

(ニ) 青年会人力車引子へ誨告

(ホ) 夜学補習生男女に誨告

(ヘ) 夜学生児童ノ父兄に誨告

(ト) 一般人に誨告

4、余興 ウカリぶし 三人津田栄四郎外二名

義士及び三戸光圀

午後十二時半終る

集會人 青年 百余名(男女合して)

生徒父兄 百余名

一般人 百余名

合計 三百名ばかり

余興中茶菓を与(但し青年会員だけ)

余興費 四円五拾錢也

菓子代 九円也

湯わかし一個新調 二円八十錢

湯呑碗百個新調 三円五十錢

其他諸雜費 若干

非常に盛会をきはめたり

【近頃台湾生蕃人五十名ばかり京ニ來たる】

十六日

(本日臨時夜学休学) 青年会「員」役員集會前

日の決算、本日夜学補習生男子奈良に自転車ニ

て行けり

十七日

金曜日

本日学校のあとしまへ

【本日デンマルク皇帝独乙ニて御散歩中突然心臟破烈ニ崩御セラ

ルト新聞ニ見ゆ】

十八日

土曜日

記事なし

十九日

日曜日

記事なし

二十日

月曜日

十五日青年会総会の節廊下ランプ一個紛失せり

(小使の言によれば盗まれたる故と言へり)

二十一日

火曜日

本日慈善教育講會頭浅井清三郎氏功績調査をな

す、浅井氏近頃重病踏入り生命危篤なり

本日前日調査せし功績表を府庁へ提出せり

二十二日

水曜日

本日前日調査せし功績表を府庁へ提出せり

二十三日

「金」木曜日

「本日府知事より前記浅井氏の」記事なし

二十四日

金曜日

本日府知事より前記浅井氏の功績「表」「就」「御」

下問を受けたり依て更ニ明細具申せり

二十五日

土曜日

本日正午浅井清三郎氏遂ニ死去せり(年四十五

歳同氏は本村の為メ最も惜むべき人なり本夜学

の建築より自強会青年会(同会長)の為「の」為

め大ニ尽せし人なり、本晩青年会役員会を開く  
議事浅井氏香華料ニ就きて

青年会員より しきび花二対（四本）

青年夜学補習生男女より 同一対（二本）

夜学生小供より 同一対（二本）

夜学職員四名より 同一対（二本）

右之如く決定せり 終会十一時頃

【二十五日五百七十余年前の本日本桶公討死せし日ニ当る】

二十六日 日曜日 本日浅井清三郎氏の送葬青年会員夜学生会葬せ

り（盛大なる葬儀行はれたり会葬者数町に及ぶ）

二十七日 月曜日 浅井家より夜学生青年会へ前会葬の謝礼ニ来れ

り

【二十七日本日日露海戦記念日ニ当る】

二十八日 火曜日

【二十八日本日地久節】

二十九日 水曜日 記事なし

三十日 木曜日 「記事なし」本日青年会人力車借用人借賃不納

者を集め早く納金するよふ■言渡せり

三十一日 金曜日 記事なし

六月

一日 土曜日 記事なし

二日 日曜日 記事なし

三日 月曜日 前々日土曜日当村長昼間来りし、も余不在の為

面会せず本日面会して来意を聞くに西田中児童

にして通行人に対悪戯を成す由地方人より当役

場頻々と不腹を言ひ来れりと 甚しきはチボ、

スリ、等二類する事もある由言ひ来れりと、依

りて夜学校ニても其の心して児童の悪戯を防止

するよう依頼ニ及びたり

【五月二十五日より一週間一二回乃至三回浅井家出張絶へず

今後の相談しつゝあり】

四日 火曜日 記事なし

五日 水曜日 記事なし

六日 木曜日 本日青年会役員を集め人力車貸賃未納者一件ニ

就き協議せり

七日 本日日曜日の時間割と変更する

八日 記事なし

九日 日曜日 本日補習生有志少々の出金をなし菓子を買ひ本

校児童を集め娯樂的に気楽なる茶話会を開けり、

勿論児童には菓子を与へたり 余も一つの話を

して上げたり

十日 月曜日 東松君欠勤、本日青年会人力車引子山中伊之助

を呼び未納者（車賃）督促を依託せり、他二記

事なし

十一日 火曜日「火曜日」 記事なし

十二日 水曜日 記事なし

十三日 木曜日 記事なし

十四日 金曜日 記事なし

十五日 土曜日 本日より三日間京都市三大事の竣工祝賀会の為め公崎公園ニ於て「興」余興あるをて臨時今晚

休学す

【十五日より十七日まで京都市三大事業（疏水拡張「車」電車布設水道布設）の竣工式ありたり】

十六日 日曜日 記事なし

十七日 本日ハ三大事祝日なるを以て岡崎公園ニ余興ありたり依て出席生少き為め夜学を休学す

十八日 本日本村「西村新」増田新太郎家屋火災起り西村善助家屋も少々焼けたり、村内大さはぎせり鎮火後喧嘩五組みばかり起りたりと

十九日 水曜日 記事なし

二十日 木曜日 記事なし

二十一日 金曜日 記事なし

二十二日 土曜日 記事なし

二十三日 日曜日 本日補習生有志の者集り出金して菓子を買ひ本校小供を集めて之れを与へ一日の茶話会を開けり

二十四日 月曜日 本日江州犬上郡の或る小学校長二名視察ニ来れり本部落改善上の事を語り

二十五日 火曜日 本日浅井氏へ出張

【二十五日本日より篠原谷蔵君の表の間を青年会の娯楽場として借り受く（但し当分谷蔵の厚意にて）】

二十六日 水曜日

本日浅井家より青年会員（一名葉書三枚宛計二百五十枚）補習生児童へ（紙二千枚）女子部へ（カタン糸十三箱）忌明として送らる 直ちに配布す（職員へも）

二、本日梅井（学学生徒）の父「来り小供同士の」小供喧嘩ニ就き来れり

六月二十七日

本日一青年会娯楽部掛板新調す、二枚新調

二、本日補習生男、四、五、六年男子を引卒して上賀茂流れの宮ニ行く 同宮森林前二丁

程手前より其の森林内宮社ニ詣で更ニ二丁程先方地ニ通過せしむ（但し一■人宛別々

少か精神修養ニ資せり）、午后八時半夜学

出発十時婦校ス婦校明月ヲ踏んで加茂堤駆け足ニて婦校ス（小供四名ばかり如何にし

ても森林内を通過し能はざりき）

【近頃米価一升一〇二十八銭本村は京都市三大事業の影況ニテ労働者ハ左程ニ困難ナキ由】

（本日夜学校講話ニ就き下鴨署警部補川口氏の

家ニ行く）

六月二十八日 金曜日 記事なし

六月二十九日 土曜日 本日余故浅井清三郎氏の法事ありし為め西大谷

へ参詣せり

二、本日廣崎政吉君の父ニ面会せしに政吉氏の結婚ニ就きて相談ありたり本人の言ふには

二日 火曜日

本日、講同一件二就きて早瀬田造氏夜学へ来る  
依て同人講引続き責任者となるか否かを尋ね諸  
事談ず

三日 水曜日

たしと言ひ余に其の嫁取りを本人ニ進めて  
くれと言へり依て其の夜政吉君を呼び親の  
心一身上等より割り出し此れを進めたり同  
氏一考せんと言ひ別かる

三十日 日曜日

一、本晩例ニより補習生は夜学ニ於て児童を集  
め談話会を開けり補習生小林孝三郎より紙  
五百枚児童ニ与へたり

三、本日余講法（講主浅井氏死去ニ就き責任者、  
撰定の件）講主責任者撰定一件ニ就き其の  
手続き法を川口警部補宅へ問ひ二行けり

二「三」本日（同前）講主撰定一件ニ就き郡役所  
ニ行き郡長ニ面会せんとせしに不在ニ就き  
■河村郡書記ニ面会警察向きの外交を談じ  
たり

四、本日講世話人早瀬、坂田、和田三氏を「者」  
夜学へ呼びたり但し早瀬氏江州へ行き不在  
の爲め、不参

四日 木曜日

本日、講同一件二就きて早瀬田造氏夜学へ来る  
依て同人講引続き責任者となるか否かを尋ね諸  
事談ず

本日、同様講引つぎ一件ニ就き余早瀬、二名村  
長宅ニ行き今後の方針ニ就き談ず結果大要 残  
講田中村在講七■組及び柳原町在の講四組全部  
なれば早瀬は他有力者二三名入れて引「受」受  
くと（余の意見、柳原は浅井他柳原ニ於て講主  
を定め別ニ立て田中村在の講は田中村ニて別立  
せしむる主義則ち南北両立説）（村長早瀬氏等  
は合一説を唱へり）帰路余一人浅井の家ニ行き  
て両説何れを取るかに就きて談ず「柳」南部四  
組の講は如何にしても渡せぬと言へり則ち両立  
説）■

本日余川口警部補の家ニ行同前講法一件ニ就き  
南北立の手續き及合一等ニ就きて其の認可の手  
続きを調査せり

二、本日浅井セイ氏警察より呼ばれ同前一件ニ  
就き 又村長よりも呼ばれ相談せり

三、余浅井の家ニ行南北両説又は合一説ニ  
就きて意見を正し後早瀬氏の家ニ

行く則ち南北両立ニて北部（田中村在）

講の責任者となるか否かを尋ねる

早瀬言ふ

七月

一日 月曜日

本日和田氏の家き講法一件ニ就き一寸談じたり  
浅井氏の家ニモ行けり同様

南部四組の講にして正しく純利益を夜学入れる  
と言ふ証書を一冊■村役場なり郡役所なりに  
「れ」入れ又村内有力者一二名共同なれば自分  
は異存なしと言へり（浅井は又、南部（柳原在  
講）四組の講なれば）南部にて正しく講主を立  
てると言へり）

【近頃米白米一升足搗一寸（カ）二十八銭六厘りん村細民の窮状  
如何と思ひしに割合二くるしまざる由仕事は随分ある為】

五日 金曜日 本日講法一件二就き浅井清子殿来る

引受者一件二就きて……

二、前日早瀬円藏氏講法引続き一件二就き他二  
村内有力者二三名同意責任者になれば引受  
くと言ひしを以て先づ篠原重三郎氏を訪問  
し村内教育の盛衰上より語り初め連帯責任  
者二同意せられんことを談じたり篠原氏曰  
く先村内有力者集会を開き然る後決定せん  
而し引き続き■明確「大した」に行けば村の  
事故受「続き」次も致さんと言へり 依て  
明後日早瀬、松下、和田、坂田、「等」篠  
原等集会する事二決し別れたり  
三、本日村長より西田中二駐在巡查を置かんか  
と思ふがよき場所二家を借す処なきか（但  
し無代にて）尽力を仰き内定を申し来たり  
依て余先村内二計り返事をすると言へり

【本日田中村役場小使チビスを起せり】

六日 土曜日 一、本日松下清三郎、坂田吉松、和田鯛次郎諸

氏の家二行き明日集会を開くべを伝へたり

二、和田鯛次郎氏講一件二就き余の宅に（来  
脱力）

三、■篠原重三郎氏同講一件二就き余の宅に來  
る

四、川口警部補妻君二（田中校女教員富田もと  
君）引続き願ひの形式書式を依頼せり

【本日講法を村内二引受くる「理」利害得失を解く】

七日 日曜日 本日、前日来の問題講法引次一件二就き左記諸

氏を夜学に集会「せり」してもらへり

早瀬円藏、和田鯛次郎、坂田吉松、松下清三郎、  
篠原重三郎 諸氏

一、講法引「統」次きに対する説明

（イ）本村内下層教育の盛衰は本夜学校の盛衰  
にあり

（ロ）本夜学の盛衰は基本金の有無則ち講法を  
完全に成すか成「さ」さざるにあり

（ハ）而して其の講法タルや会頭副会頭既二死  
亡し此れが引次其の人を得ると得ざると  
にあり

（ニ）「（ハ）（ニ）」同引次者撰定二就き二種あ  
り／故会頭ノ親戚中ヨリするか本村内二

選出スルカ

(ホ) 本夜学校は本村内二あり又本村内の子弟を教育するものなれば本村内二夜学校の實権を握らざるべからず 若し故会頭の親戚二引き渡さんか其の親族は皆他村二あり夜学の実権は他村の人の掌中二帰す然らば村内有力家は何の面目あつて村人及び社会の人二接する得ん

(ヘ) 故此の引き次ぎは村内有力家の自然責任二帰す而して誰れが見ても諸氏を其の有力家二屈指す故二諸氏此れが責任を引き受くべきものと認めらる集會諸氏種々熟議の結果来る日曜日確答するとして散會す

八日 月曜日 本日青年會娛樂場上敷琉球表三枚買入仙額壹円十錢及將基駒買入る八錢計壹円拾八錢

九日 火曜日 記事なし

十日 水曜日 記事なし

十一日 木曜日 記事なし

十二日 金曜日 記事なし

【十二日 本日田中村字高野河原二火事ありたり——近頃桂前内閣總理大臣洋行中朝鮮滿州通行中なるが鮮人之れが暗殺を企つるものありと】

十三日 土曜 講法一件二就き浅井氏方二行く浅井氏の主張又

変更せり(何分女二人故) 則ち講法全部引渡しをしたき旨主張せり、

本日前日曜日約東通り集會せり、早瀬円藏氏病氣の爲「話の」會議二何進歩も来たさず又変更も来さず只だ益々御責任を他二譲るべからざる■事の觀念を際せしのみ、依て明晩早瀬宅にて集會することを約し散會せり(十一時半)

前日流會せしを以て本日更ニ柳亭に於て一問を借り受け同事件を議す

集會人名 上田静一、早瀬円藏、松下清三郎、

「此」篠原重三郎、和田綱次郎、坂田吉松

一、協議上田引「続」次き決心如何、村外の人二此の引次を控せんか何「用面目」の面目ありて一般村民及社会一般人は元より議員にしても顔を合はすを得ん又此の儘二日を延ばさんか何れ警察より諸氏等呼び出し必ず強制的に之れが引次を控せられん其れよりは今二決心して男らしく愛郷的精神の元二快詫せらる、方がよからん

二、一同

理も非も面目を充分心得ては居るもの、何分大金の引次大責任の継受……躊躇しばらく

三、雑談数時、

四、早瀬發議



併し私は表面名を現はさずして其の責任を松下篠原両氏と受けん、其の理由は元來私は故浅井清三郎氏とは意志疏通せず今浅井氏が死し直に手を受持ちつゝ、ありし如くするも、遺族に対して心苦し此処ニは私腹云々の邪推を受ける恐れあり……

五、松下篠原發議

早瀬氏にして初めり此の講ニ関係ありながら斯く言はるれば元より門外漢の吾等は勵々しく其の引次を受け難し

六、上田發議

此の場合私情も私「忌」怨も水泡ニ流し村の教育夜学の發展を中心として割り出さざるべからず 私事は小事公事は大事私事の小事を犠牲ニ供せざれば此の解決は見る事難し、再考致されたし。

七、しばし互に黙考

八、早瀬

然らば吾等より進んで此れが引次きをした事にせず警察とか郡役所とか■の「推薦」推薦を受ける手続きとなれば再考もし都合ニよれば承諾せん、

九、上田

他の諸氏は如何……

一〇、松下篠原今の所は一先づ其の手続として更ニ再考致したし

一一、上田

諸氏同意なれば明日直に郡長ニ談じ其の手続きを望ん、

一二、雜談しばし散會、

(本日席料茶代約五十錢位他二何に■もせず)  
「附たり早瀬の言故浅井氏表賞を得ん為(勲八等位) 非常の運動を為せし由今故府庁に其の手続きも出来たるそうだ 上田、其れは誤解である運動も何もして居らぬ、其推薦は私が致しました浅井氏病氣の際何れ死後今日の難問題起るを期しあらかじめ郡長に相談せんとして行き其の朝偶然の思ひ附き話が出て、ありてい其の儘の功績を記述して上書したのです 斯くすれば今後村人をして公共的尽力してくれる手引にも為ると思ひての事である、此れにて誤解を取り消されたし。

余本日郡役所ニ行き前話の手続きをなせり、

同日浅井清子を(故浅井清三郎氏の娘) 郡役所に「及ぶ」呼ぶ

一、村内ニ於て郡役所より選定して後任者を選ぶが其れに引次は異存なきか否かを確む

二、清子、村を愛し夜学の為めを思ひ正意誠心公

其の爲めに尽して下さる人なれば何の異存も御座いません、

三、其の正意誠心云云は役所に一任し引渡し云云は異存なきか

四、清子、御座いません (退出)

松下篠原早瀬三氏を近々呼びよせる事を約して余も退出す。

本日祇園祭宵やまの爲め夜学生出席少し依て休みとす。

【十七日】

【米価騰貴稍々下落せり】

十七日 水曜日 本日余浅井氏宅二行く其の用件、

一、本日郡長より講主を前記三名外浅井娘せい、親戚明石民蔵五名にてなせば如何と依て其の成「る」立成し得るか得ざるか若し得ざれば其の理由如何を

二、此れまで講法世話人の手数料を得なるとせば凡そ如何なる法、方何如程■にすべきか大体を調査せり、「若」講主定まり次第一新せんと思へばなり

【十七日桂公露園二入る、日露同盟起らんと風説あり】

十八日 木曜日 本日役所二行き川島の視学に相ひ前記の由を■

告げ郡長協議の上急速候補者御呼びよせ協議せられたき旨申出でたり、本日午后九時、警察署より前記講主、本月二十二日までに願ひ出ずべ

しとの通知来れり(中々繁忙)

一、本日より暑中休暇とす(但し例年より一週間早し暑さきびしき爲め 九十三度)

十九日 金曜日、記事なし

二十日 土曜日、記事なし

【本日朝日新聞ノ号外来る 聖上陛下腸胃ノ御病氣御体温四十度御脈搏百三御呼吸三十八余程御重態の由承ル 聖上陛下御不例ニより各神社仏閣共ニ大祈禱を成し居れり】

二十一日 日曜日 記事なし

二十二日 月曜日 本日警察より定められたる講選定の期日ニ就き

浅井氏宅二行き種談す、川口警部補宅ニも行く、一先一週間の延期を届け置けり

二十三日 火曜日 記事なし

(二十四日 土用の丑下加茂祭一寸参詣する)

二十四日 水曜日 本日篠原重三郎氏宅二行き前件講主選定ニ就き

松下氏も来宅共ニ協議遂ニ兩人の内「託を」託を得たり、明晩早瀬氏も集会して愈々決定すること、せり

【二十四日稍々御快方】

二十五日 木曜日 「本日」近頃涼しき爲め又夜学を初む

【二十五日御不安の御模様】

二十六日 本日(本日田中村及小学校全部田中氏神社二天皇陛下ノ御平愈御禱祈をなせり)青年会々員夜学生全部氏神社二詣で天皇陛下の御病氣御平愈の祈禱をなせり

二、本日青年会員ニ娛樂部の心得天皇陛下御不例中の心得を言ひ渡す

二十七日 本日明日浅井氏宅ニ行き講法概略調査の爲め行べきことを約す

【二十七日稍御安靜】

二十八日 本日午后松下篠原両氏を連れ早瀬氏も誘ひ浅井氏へ行かんとせしに、早瀬氏は元より浅井氏と不和の間柄出張致し難しと言ひて如何に言ふも浅井氏宅へは行かざりき故、松下篠原両氏と余と三名浅井氏宅ニ行く、「略」概略の調査をなす、……調査終り講法變更願ひの承託を得捺印將にせんとせしに一先づ早瀬氏も相談と言ひ早瀬氏の宅へ更ニ行きしに話一變、早瀬氏其の大金吾々にて受け難しと一變、頑強に言ひ張り爲に他の兩人も直に一變せり此れまで進みし話も忽ち一變実落胆せり故ニ、余直ちに浅井氏に行き右其の話をなして今後の策を講究せり

(十二時)

【七月二十九日聖上陛下愈々御危険の由】

二十九日 月曜日 本日午后二時余警察署に行き本日講主變更願出で日なれども、未だ纏らざる由を告げ更に今後の方針に就き談じたり則ち警察より「前記三名及」「彼」「本村有力家を」「集」召集し説諭の上此れが今後「常」策を講ずることを約せり、「則」故に明浅井氏より表面的に願ひ出ずること約して帰れり退出後直に浅井氏方ニ行き其の由を告

げ置けり

二、本日前世話人和田鯛次郎、坂田吉松両氏を夜学ニ呼べり前記相談の爲め

三十日 火曜日 本日例の講法一件ニ就き警察より明出頭するよう呼出しありたり

【七月三十日午前零時四十三分天皇陛下崩御「御謚大行天皇」  
「八月一日」七月三十一日ヨリ年ヲ大正ト改マル由大行天皇の御稜は山城国紀伊郡伏見桃山の由】「御謚明治天皇」

三十一日 水曜日 本日警察ニ行く、要項 警察より講引次者選定依頼せり 同日浅井氏内ニ行き談ず

八月一日

一日 「本日」木曜日 余本日より河内金剛山麓へ帰国す

【大行天皇の御謚明治天皇とせらる】

二日

三日

四日

五日

六日

七日

八日

九日

一〇日

十一日

夏休み

たり」

九月

一日 日曜日

本日浅井氏の返答を求む、浅井氏来る未だ考へ中

二日 火曜日

本日より夜学開始す、補習ばかりを集む  
本日全部集めて授業す

三日 火曜日

本日余■例の一件二就き講法関者集会の通■告をなす

四日 水曜日

記事なし  
本日例の一件二就き午四時集会、但し不参者二名ありし為流会す

五日 木曜日

六日 金曜日

七日「金」土曜日

八日 日曜日

九日 月曜日

十日 火曜日

十一日 水曜日

十二日 木曜日

十三日 金曜日

十四日 土曜日

十五日 日曜日

十六日 月曜日

十七日 火曜日

十八日 水曜日

一二日

一三日

一四日

一五日

一六日

一七日

一八日

一九日

二十日

二十一日

二十二日

二十三日

二十四日

二十五日

二六日

二七日

二八日

二九日

三〇日

三一日

本日余上京■帰校す

月曜日

火曜日

水曜日

二二日

二三日

二四日

二五日

二六日

二七日

二八日

二九日

三〇日

三一日

此の間同伴二より再三集会、  
同伴二より警察に行く

役場「役」郡役所二も行く（役場郡役は割合に冷淡なりき

本日又同伴二より松下篠原余集会要項此れ迄の貸借関係は此れ迄の人にて其の責二当りたれば

此後の責任は引受くと言へり依つて其の方針にて話を進めたり

本日浅井家二行き和田坂田等と談す

本日浅井娘来る

早瀬田蔵氏前話二同意せり、浅井娘考へ中

【八月三十一日東京諒園中の龍泉寺町貧民屈三百戸程の大火あり

「記事な」本日訓話明治思想の変遷を語る

本日、「訓話明治思想の変遷を語る」

本日、記事なし

本日、講法一件二就き集会

集会者、松下、篠原、早瀬、和田、坂田、浅井、

上田、議事講法今後の方針。議論も立たず決議

も見ず沈黙考策の出ずる所を知らざる有様、

遂二左の如くに別る漸次溝の責任の軽くなりたるを見計らひ更に決議の上決すること

それまで同じく浅井娘にて■、講会の整理をすること

と拾月よ松下篠原二名は更ニ世話に出ずること

此れまでの世話人は貸金取り立てに着手すること

と、別に確然たる決定を見ざり■き

一、本日東松君欠勤 斎藤代用教授す……

十一日

記事なし

十二日

木曜日

本日明治十三日明治天皇陛下の大葬二就きての訓話及天皇陛下の御聖徳二関して話せり、明十三日より十五日までの大葬中の準備をなせり、黒幕一個奉悼灯提二個及其竿二本蠟燭等を買ひ求む

十三日

金曜日

補習生を田中校庭の■遙拝式二列せしむ

一、本日■余、浅井宅ニ於て講金賁務者最高者（五万円貸し附）河合弁次郎氏と面会し本年中二全部返金あるべきことを約せり

【九月十三日

九月十三日明治天皇陛下の大葬実ニ愁日竊冥慘雲陰鬱たり 今上天皇陛下御内帑金百万円を下賜せらる。此金全

国二分分配せらる。京都府は一万六千八百円■】

十四日

土曜日

大葬の為め夜学は休み

【九月十四日

九月十四日日本号外一、乃木大将夫人と刺違「自刺」へて死す先帝靈輜発引の号炮を聞きて決意を實行せしもの、如し。同大

将は先二日露大戦の際には旅順庄堡を踏れ其の際二子を失ふ今や天皇崩せられ我任終へたりと思ひしならん。十四日余七条駅まで崩御帝の靈輜拝觀に行く第二列車の中央に御靈輜安置しありたり拝觀人東京より京都駅まで人出を築きし由。帰宅後寝に就崩御帝、「乃」乃木大将の自殺等思ひ浮べて寝ねしに遂に夢を見たり 或る二階の一室に乃木大将夫妻と外に白衣を着けた

る人二人余と五人對話中乃木大将條に殉死の意を述べられ、し

きりと飯を食せらる余大将二向ひ大将の切腹前二あま飯を食ふ

と切腹後飯が腹から出て醜態が見へますぞと言つてカラ／＼と

笑つたすると大将はそれでハこれからヤルカラ長の御暇ジャと

厳然座ニ就きて夫妻共短刀を抜かれた側居つた白衣の二人も

早やヤツツケタ余は大将ニ向ひ心静かに陛下三途の■お供をし

て下さい余はまだ此の世に仕事が残つて居る（其の仕事とは夜

学がまだしつかり整頓して居らぬ講の話も中途新平民の開発事

業が前途遼遠を心中思つて居つた）からも三、四十年生きるそ

れがすんだら陛下の御前でお目にか、ろうと言つた大将もほ、

笑みて咽喉を突いた妻君は既にうつきになつて死んで居る「余」

白衣の二人（白衣の二は誰とも知れなんだ）と大将夫妻と四人

は皆死んだ余は其中間独り立つて居つた余は四人の屍を見て実

に武士だと言、言つて■見て居つたが夢はなくなつた（一寸

違はぬ實際見た「覺」夢）

十五日

日曜日

記事なし

十六日

月曜日

記事なし

十七日

火曜日

本日余京都市立女学校校長清水儀六先生の宅ニ行く 西山すて（■夜学出身）の在学せる菊花女学校廃校となりし為め、当女学校へ入学希望を願はん為め二年生なれば入学させるも三年生は人員超過の為め

一、本日警察より講帳簿を調査に來れり

十八日

水曜日

本日青年会人力車の前半期分税金配布来る そ

れそれ引子ニ通知せり

○ 「野」乃木大将殉死切腹ニ対する諸感

一、大将の割腹状態

三十余枚の書遺をなし先帝の御写真を床ニ祭り腹を左ヨリ右へ一文字ニ切り咽喉を突きて薨ぜり、婦人は乳下心臓ニ達する迄突き返し刃に咽喉を突けり 何れも切腹の法に違はざりし由

二、余評 死は人生の大試験なり其の死の如何ニより其の人の修養を知る「洋人は自殺は蛮行なりと言ふ」西洋人やヤソ教信者は曰ク自殺は罪惡なり

蛮行なりと、然らば生なるものは何ぞ徒に軀幹の生を以て生の本領とするか軀幹は靈に使○○役せらるものである 靈的活動靈の嚴命の為に軀幹を殺すも、敢て罪にも蛮行にもあらず軀幹如何に長命すとも百年を過ぎず軀幹の愛にをばれて靈の命を無視し靈的活動を止めんか、其の生や百年を出でず死所其の宜しき得万代に訓を垂れが其の靈的活動たる生前ニ優る則ち軀幹の死を以て万代の生を得たるものなり、翻つて乃木大将の自殺たるや実に其の及ばす無言の教化又万代に亡びず則乃木大将の切腹は死せるにあらざる生ける切腹なり切腹ニよりて不死の生を得たるなり

【三、四年前本夜学の為熱心ニ尽力ありし元大学生（現住友鉱山技師何盛三君来る 兵庫県武庫郡精道村字打出小堤八番地何盛

三、】

十九日 木曜日 記事なし

二十日 一、金曜日 本日青年役員数名と会長候補者に就きて評議する

二、二十四日 役員会を開く事を決議す

二十一日 土曜日 補習生看護當番ニ就きて訓示す、青年会役員召集回章を送れり

二十二日 日曜日

二十三日 月曜日 秋季皇靈祭

二十四日 火曜日 本日青年会評議會を開く

一、会長候補者選定に就きて選定六名、現副会長評議員 幹事二名の内

二、二十七日総選挙の事

二十五日 水曜日 青年会会費徴収員召集 二十七日総会の言渡しをなし会員全部ニ通知せしむ

二十六日 木曜日 本日校庭器械体操金棒ブランコをの腐敗せるにより之れを倒す

【二十六日本日校庭器械体操金棒の木腐敗せる故抜き取る■ブラコの木も抜き取る——茲に一ツのおかしき事起れり 元來此の金棒を利用して近隣の嫁さん立ちがいつも無斷むつきほしに致し居り（為めに夜学は非常に見苦しかりき）しが不意■に抜き取りし為め不便を感じ遂ニ校僕さとを相手取り女喧嘩起り先生の金棒を取りしは校僕が吾等を困らせん為め先生ニ申し出で取らしめたるなりと、と言ひ遂ニ喧嘩をせしと ひがむも甚だしきかな近所の小供が腐敗せる金棒をもて遊びて傷でもしては大變

と思ひて取はずせしに」

二十七日 金

本日青年会々々長副会長選挙す、集会員約七十名

当選者 会長 篠原重三郎

副会長 小林勘藏

就任は大正二年一月一日よりとす

二十八日 土曜日

本日修身訓話 儉約と産業

二十九日 日曜日

三十日 月曜日

女子入学一名 井上やす十歳頭二四人の小供父

は長き病床母の手一ツニ育つ由 昼間登校する

不能為入学を許可す、「前」夜学出身現在菊花

女学校在の西山すてを京都市立女学校へ転校の

手続きをなす

拾「九」月

一日 本日青年会人力車々夫を呼び集む税金一件ニ就きて尋ねる

二日 水曜日 記事なし

三日 木曜日 記事なし

四日 金曜日 記事なし

五日 土曜日 記事なし

【二日、京都日報五日ノ京華新聞ニ田中校長渡辺氏の人身攻撃的の記事ありたり茲に忌はしきは其の記事の投書人は余の仕事なりとの疑ひをかけられ校長よりは直接郡視学よりは人を以て余をさぐりに来れり「呵」疑ひも又甚だしきかな色鏡を脱して人

の真意を視よ呵々大笑攻撃を受くるは其の人の大二よると校長

大得意余も疑はるだけ■人物が大なるか益々呵々大笑……】

六日 日曜日 記事なし

七日 月曜日 「記事なし」東松君欠勤

八日 火曜日 東田中夜学発会式余出張、東松氏欠勤

九日 水曜日 三条天部貧民夜学校を參觀ニ行く中々規律あり

たり（十二年とか継続せるよし

十日 木曜日 記事なし

十一日 金曜日 ■本日生徒平田河合喧嘩を

なせり監護の命従はざりし為訓誨す

十二日 土曜日 田中校教員竹内「郡」君參觀ニ来校、他に記事

なし

【十二日 山城八郡教育会松ヶ崎ニあたり】

十三日 日曜日 記事なし

【余の宅へ河内千早村「叔」尾坂叔母娘栄子来る】

十四日 月曜日 記事なし

十五日 火曜日 記事なし

十六日 水曜日 記事なし

十七日 木曜日 「記事なし」補習生女子部西村このえ死去す、

新嘗祭

【近頃土児耳国対黒山国初め少国三ヶ国と戦争中土児耳軍振はず

土児耳は先ニ伊国と戦ひ】

十八日 金曜日 記事なし

十九日 土曜日 記事なし

二十日 日曜日 記事なし

二十一日 月曜日 本日青年会役員会開催、議事 二十三日祭日青年会比叡登山に就きて

二十二日 火曜日 比叡登準備

二十三日 水曜日 本今朝六時半出「登」発、人員三十八名 青年

会員 夜学五、六年生 沿道新田、山端、高野、

八瀬、八瀬より登山す十時比叡山上の寺院に着

中食 名所旧跡をさぐり十二時シメガ岳二至る

岳上より■京都市琵琶湖の八景を眼下二見下

し二時半頃まで遊ぶ 宝さがし ■旗取り 二

時半下山の途につく 修学院村二下る 四時帰

校す。

【十五日二十三日本日又田中校長渡辺氏不評判の記事新聞紙に表

はれたり此れにて少か余に對し疑ひも解けしならん】

二十四日 木曜日 祭日後苑の為休み。

二十五日 金曜日 本日青年会夜学生の為講演会開催 講師松川清

風

一、お伽ばなし一ツ

二、忍耐ニ就きて 木村長門守講談

三、「夜」夜学百名ばかり 青年五十名ばかり

集まれり

【十月「五十」二十五日夜大学二大火ありたり】

二十六日 土曜日 記事なし

二十七日 日曜日 記事なし

二十八日 月曜日 校内記事なし

本日新聞紙上ニ元本夜学生たりし児童にして市内商店の金庫（三円入り）を盗み警察拘引せられたりとありたり

二十九日 火曜日 記事なし

三十日 水曜日 本日女子裁縫部督促ニ行く女子風呂場ニ掲示し一言入浴者其旨言ひ渡したり

【三十日本日愛宕郡各小学校（十三校）運動会ありたり田中校は

選手一等を■とりたり】

三十一日 木曜日 記事なし

十一月

一日 記事なし

二日 土曜日 明日旧天長節なるを以て御聖徳ニ関する講話を

なせり

【十一月二日朝京都祇園甲部二大火ありたり焼失二十余屋】

四日 月曜日 記事なし

四日 月曜日

本日小使長田さと君と其繼母と大喧嘩をなせり、罵り雑言をしあひ遂ニ腕力沙汰となり頭髮を以て引き合ふなど実に蛮行の極ニ達せり、病身のさとの父栄蔵（繼母の夫）中ニ立ちて泣き附く、悲慘の極なりき繼母は近村切つての横着婆なり、喧嘩の元因は病身の父の所置につきて余喧嘩の中ニ入「中」り言ひ聞かせんとせしも兩人の狂



人の如く何を言ふ聞き入れざりき 深夜さと君  
我が家来り身不幸と父の哀れを余二訴へ泣けり。  
又其の明朝継母我が家二来り前のわびをなせり、  
悲惨なるは病身の栄蔵君なり（栄蔵君一家の悲  
劇は四年前より余二訴へ来り居り）（何か良策  
なきかと思へども致し方なし）

【近頃青年間ニ海外移住の思想「熱」はつ然として起り余に渡航  
の手段方法を尋ね此れが■先発者となり監督引率の任ニ当れと  
迫り来れり】

五日 火曜日 記事なし

六日 水曜日 記事なし

【明治天皇陛下百日祭ニ当る】

七日 木曜日 本日生徒喧嘩をなせり

八日 金曜日 本日記事なし

九日 土曜日 記事なし

【近頃寺維持講閣着其の頂きニ達し会頭既に出走せし由】

十日 日曜日 記事なし

十一日 月曜日 東松君欠席……

十二日 火曜日 記事なし

十三日 水曜日 記事なし

十四日 木曜日 記事なし

十五日 金曜日

本日本校世話人坂田吉松氏毒を吞みて自殺せし  
珍事■ありたりたば、やはり頼母子講びんら  
んの結果の由聞き及ぶ

十六日 土曜日 本日坂田吉松氏の葬儀につき香料を送る 補習  
生より壱円職二名より五十銭

十七日 日曜日 記事なし

十八日 月曜日 本日より文具商人を呼び毎週月水日に文具を売  
り込み「ミ」に来るよう約せり

十九日 火曜日 本日玉村丑之助氏来校青年の為場の演説をして  
帰る

【十九日玉村丑之助氏来る】

二十日 水曜日 本日故坂田吉松氏よりとて紙「五百」八百枚夜  
学生徒の為寄せられたり、思ふに故坂田氏は覚  
悟の上の死と思はる、則ち此の世の名残り二夜  
学生への片身の為め紙も買ひ置き死せし者の如  
し、本日直に此れを生徒諸子へ分配せり

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

記事なし

二十七日 水曜日 記事なし

二十八日 木曜日 記事なし

二十九日 金曜日 本日寒さ甚だしき故ストウプヲ入る

三十日 土曜日

日曜日 (十二月一日)

記事なし

【上原陸相の一箇師団増設主張より遂に内閣主相西園寺侯初め総

辞職せりと】

十二月二日 月曜日

記事なし

十二月三日 記事なし

十二月四日 水曜日

十二月五日 木曜日 記事なし

十二月六日 金曜日 記事なし

【近頃内閣後継者なき故元老諸氏は大ニ困難せる故松方侯を推す

も侯は老軀(七十八歳)此の難に当り誰しとて固辞せる故大正

早々此の政変■誠ニ畏れ多し】

十二月七日 土曜日 記事なし

十二月八日 日曜日 記事なし

十二月九日 月曜日 記事なし

十二月一〇日 火曜日 記事なし

十二月十一日 水曜日 記事なし

十二月十二日 木曜日 記事なし

十三日 「木」金曜日 記事なし

十四日 土曜日 今を去二百十年前の本月今晚赤穂浪士四十七人

主君の仇吉良上野の首級を討ち取り武士の鑑と

後世までも誉められたり、依て我が夜学及び

青年会も少か義士会を開けり、夜学生青年会員

参集

一、義士ニ関する話をなす

山鹿甚吾左衛の教育興つて力あること 義士  
的精神を絶へす忘れず万事ニ処すること

(上田)

二、神崎与五郎の幼時 (松川君)

三、神崎与五郎の堪忍袋 (ウカリ節)

四、其他 (ウカリ節)

十五日 日曜日 記事なし

十六日 月曜日 記事なし

十七日 火曜日 記事なし

【十七日内閣組織大命桂公ニ下る出】

十八日 水曜日 記事なし

十九日 木曜日 本講法事務遅なりし故、一時間授業をなせり

二十日 金曜日 学校上ニ記事なし、本日浅井せい殿来る其の要

件は先般来の講法一件ニ就きて先日■より講法十組

「は」の内四組は柳原「明氏」明石氏ニ持つてもらひし

も不許可、一組は早瀬氏副会頭故早瀬氏ニ持つてもらひ

又西村寺田氏の法講預り分一組返却致したれども残る四

組み（明石氏の分■借て置き）持ち行く所無之前世話人  
諸「氏」氏持ち行く「より」よう取り計ひ下されと言ひ  
来れり猶同様寺田氏にも頼みに行きたり

○二十一日 土曜日 学校記事なし

○二十二日 日曜日

（イ）本日余寺氏の宅ニ行き前日の事ニ就き打ち合せに  
行けり、寺田氏「の」に意見ありしも余は其れを  
認むる不能遂ニ警察署長ニ行く、署長警部補川口  
氏の所ニ行つてくれと言ひし故又川口氏宅ニ行く  
而して同伴ニ就き種々談ず、余の要件は警察より  
少強制的ニ前世話人ニ会主「を」とならしむる  
「は」事出来ざるか否や、又寺田氏の推察当るか否  
かを確むる為め迂回的ニ此れをさぐりしに「やは  
■」やはり当らざりき、此の前後色々考へて帰る

「（ロ） 本日は」

（ロ）本日弁天夜店の際夜学生酒井庄助夜学外数名とに  
て夜店の絵葉書店屋と喧嘩をなせり

二十三日 月曜日 本日昼間「警」刑事二名田中校ニ来■り「小学」

田中校生徒酒井幸次郎、酒井為次郎、寺田喜一  
を「警」川端警察に引き連れ行きたり 余は一寸  
運動場まで引致して「事の」何事か尋ぬるなら  
んと思ひしに、前夜喧嘩の一件より警察ま引致  
せる事知れ（余此の時前夜の喧嘩を初めて聞け  
り）夜学生も既に引致せられ居る由聞きたり

依つて学校の責任上直に川端警察ニ行け■り  
以て色々聞き合せたり（小学生は暮れ方婦村せ  
り、夜学生酒井外数名は止め置かれたり、警察  
数丁前多くの村民■集り来り事の如何になるか  
を案じ居れり余聞きし、大要を述べあまり多く  
警察ニ押しよせるの不利なる事を言へり六時帰  
夜校、学校へも「衆」多く「集り」事の次第を  
尋ね来たり……………

本日夜学□の大掃除をなせり

「喧嘩を次第を聞くに夜店の葉書屋が酒ニ酔ひ居故へ葉を買ひに  
行き（小供が）あやまりて店のらんぶを倒し茲ニ店屋と小供の  
喧嘩起り遂ニ其の兄親が加勢せる由其の大勢の見物人もあやむ  
やの内ニなぐり合ひ店もひっくり返し遂ニ夜学も酒井外数名警  
察ニ引到せられし由」

二十四日 火曜日 本日第二学期閉会式を挙行す

二十五日 記事なし

（以下三十一日まで記事なし）

大正二年一月一日ヨリ

一月一日 水曜日

【近頃ノ政局「天下ノ志士憲法」天下ノ志士憲政擁護閣族打破ノ  
説ヲ唱へ長州派の専横桂、山縣公等の■横暴ヲ鳴らし各所ニ同  
士会ヲ開き盛ニ演説をなし居れり 曰ク第二維新の建設なりと  
（余の意見明治二十二年憲法発布が一滴の血も流さずあまり事

やすく出来上りすぎたから斯くあらん何れ文明ニ向ふ過渡期の  
歴史を演ずるにはまだ／＼やらぬといかんと思つた」

一月一日 水曜日 本年一月一日ハ諒闇中の事故総て挙行事を止め  
たり

一月二日 木曜日 記事なし

〳 三日 金曜日 記事なし

〳 四日 土曜日 記事なし

〳 五日 日曜日 記事なし

〳 六日 月曜日 「記事なし」

本日又前一件夜学「学」講法の事ニ就き郡役所ニ行き郡  
長ニ種々話す、兎に角八日を期して郡役所郡長以下四名  
と村長警部補と余と協議会を開くこととせり

〳 七日 火 記事なし

〳 八日 水曜日 本日午前十時より役所ニ於て前協議会を開く話  
まち／＼遂ニ開散す

〳 九日「金」木曜日 記事なし

〳 十日 金曜日 本日より夜学第三学期開始す

〳 十一日 土曜日 記事なし

〳 十二日 日曜日 記事なし

〳 十三日 月曜日 本日青年会役員会を開く

〳 十四日 火曜日 記事なし

〳 十五日 水曜日 記事なし

〳 十六日 木曜日 本日青年会「役員」総会を開く

松下清三郎

早瀬円藏

吉田幸次郎

十七日 金曜日 記事なし

十八日 土曜日 記事なし

十九日 日曜日

本日夜学西部垣政策の儀ニ就き浅井氏評議す。

二十日 月曜日 記事なし

二十一日 火曜日 記事なし

二十二日 水曜日 記事なし

二十三日 木曜日

記事なし

【二十三日本日夜学校南部の一小家屋ニ老人の病ニ呻吟する声す  
るより行きて見しに七十有余の老人兼ねてより病氣ニ侵され此  
の節余程重態となし居る由然に看護人なく只独り苦しみ居れり  
依つて種々いたり■卵湯を与へる婦れり】

二十四日 金曜日 本日青年会評議員廣崎広吉氏より青年会へ美濃

経紙百寄附せらる

【二十四日日本日午后二時頃隣家ニ「賭博」ばくちをなし居る所へ  
巡查来り非常の混雑を來たし逃ぐる者道ニまよひ余が家ニ隠れ  
に來り押入の中ニ隠れたり家内小供の驚き一方ならざりき（色  
々の事もあればあるものかな）

二十五日 本日夜学校へ参観人来る田中校長、渡辺竹次郎氏一名

「本」放課後青年会評議員会を開く

一、青年会基本財産を作らん為め電灯料を徴集し其の手数料

を得る可否（否決）

二、役員者二会費徴集法を明かに示めすこと「否」

三、会員手帳製作ニ関する件（百五十冊五円以内なれば製作すること（可決）

四、「佳」前年度会費未納者に対する処分法（来る三月までに集め得らる、だけ集めて処分すること）

二十六日「土」日曜日、記事なし

二十七日 月曜日 本日田中校長上加茂校長二名、視察の為（郡役所）来校

二十八日 火曜日 記事なし

二十九日 水曜 本日補習生と余生徒督促二行く

三十日 水曜 本日又督促同前

三十一日 金 記事なし

【東京焼打騒動起りたり閩族征伐的運動変節代議士邸の襲撃】

二月

一日 土曜日

二日 日曜日 本日農林学校ニ於て愛宕郡

一、青年会開催ありたり本支会より廣崎政吉君会長代理として出張

二、本日慈善教育夜学「校」講関係者集会、四糸縄手魚新ニ於て決議本講五講分休会と定まる

三日 月曜日 本日節分として生徒出席甚だ少し

四日 火曜日 記事なし

五日 水曜日 記事なし

六日 木曜日 記事なし

七日 金曜日 記事なし

八日 土曜日 本日青年会評議員集り会旗製作ニ就き提議せり

九日 日曜日 記事なし

【九日東京ニ於て国民の群衆閩族の専横を憤り交番所官領隊代議士邸を襲へり】

拾日 月曜日 記事なし

拾壹日 火曜日（紀元節ニ当る諒闇中故略式）

【十一日大阪市にも同様騒動おこりたり】

十二日 水曜日 記事なし

十三日 木曜日 記事なし

十四日 金曜日 記事なし

【二月十四日「兵」神戸市にも変節代議士邸襲撃の騒乱起りたり京都もそろ／＼やち馬達が手はじめ居る由】

十五日 土曜日

十六日 日曜日 記事なし

十七日 月曜日 「本日三条柳の馬場青年会館ニ於て立憲青年会大「説」演説開会ありし為本夜「生」学生の青年十名ばかり聞きに行けり其の帰途」

記事なし

【十「八」七日京都市民も立憲擁護閩族打破の大演説を三条柳の馬場ニ開かけり閉開後民衆約一万五千円山公園ニ会合（殺氣満々たり）「日出新」其れより日出新聞社駐在所電車官領隊代議

士邸を襲へり】

浜岡、中安邸へ襲撃せしりと負傷巡査多くありし由——本村内  
住人若井福吉君市内通行中或巡査の爲める抜打ちせられ二ヶ所  
の重傷を負ひたり」

十八日 火曜日 本日柳原明石民藏氏「土」寺田清四郎兩氏昼間

夜学ニ来る、余と三名本夜学修繕ニ関する協議

す

一 夜学周囲ニ木柵すること

二、夜学南北「根分」根石を据へること

三、校舎、立具、壁、門等の修繕

四 校内の地盛をすること（出来得べくんば青年会  
員に）

五、電灯設置ニ関すること

六 小使室を教室にすること

右総費用約四百円の見積り

出金方法 夜学積立金より二百円出金

第八、九、十、十一、講より二百円出金

講関係者を集めて新に相談すること

電灯調査の件 余、明日（十八、十九日）中二研究

することを寺田氏ニ委託す

◎前夜（二月十七日）三条柳の馬場青年会館ニ於て  
立憲青年会大演説会開催ありたり、本夜学青年生  
徒十数名傍聴ニ行けり然るに閉会■市民民衆の騒  
動あり大坂、■神戸ニ劣らぬ大混乱を來たし警察  
ニ引到せられしもの五十名ばかり有りたり我が夜

学青年三名未だ帰らず、或るひは其の党に与して

引致せられ居らざるかと父兄連中夜学ニ尋ね來た

れ依つて余柳駐在所「より」を経て中立、五条警

察二問ひ合せたり（未だ帰らざる青年 吉田平三

郎平田仙三郎）

十九日 水曜日 「記事なし」本日関係者の集会を通知せしも集

る人一人ありしのみ散会す

「十」二十日 木曜日 記事なし

二十一日一、金曜日 本日兼ねてよりの宿題なりし夜学修繕ニ関する

件ニ就き早瀬門藏氏宅ニ行き相談す、早瀬氏の

主張ニは講法が会頭副会頭死し其の後休会まで

なし居る位なるに夜学「学」諸請などすべき時

ニあらずと言へり、余の主張「夜」其の主張一

理あるも現在校舎を此のまゝ、二置けば破損非常

にしてとても「ふるあははす又其の出金たるや

現在継続し会頭■副会頭ある部分よりするなれ

ば敢て差しつかへなしと主張せり其の後何とも

話まともらず終れり

二、十七日立憲擁護青年会演説後の京都市騒擾の際

平田仙三郎■其の一人として警察ニ拘引せられ

しものと思ひしに、同君は神戸より葉書よこせ

り則ち「十分」以前より南洋移民の挙ニ出でし

ならん

二十二日 土曜日 本日和田鯛次「郎」氏夜学ニ来る、前々來の夜

学修「膳」繕二関する相談す、則ち早瀬円蔵氏の修繕反対説二関し和田氏は私「受」引受けて承託致せる故着手してくれと言へり、依つて愈々修繕着手と決心せり

二十三日 日曜日 記事なし

二十四日 月曜日 本日前日死亡の深本宗三郎氏の遺族より香銭取し金六十銭送り来れり

二十五日 火曜日 本日兼ねよりの夜学教室拡張の件二就き和田綱次郎氏ニ其の件を談ず、則ち四月より田中校欠席生徒五十名を本夜学ニ引受けるニ就き教室を増かせざるべからず、故ニ小使室を教室ニせんとする件(又四月より全部「火」電灯ニする故小使を特設する必要なき■よりも)和田氏此れに同意す依つて其の■小使長田弥次郎氏通ず又同旨浅井せい氏ニ通じ各其の準備ニ取りか、らる、様通知して置かれたしと「言ひ」伝ふ

【小使妻太愚痴をこぼし余までも非常ニうらみ居る由又いろいろな流言をす由中々度し難し】

二十六日 水曜日 本日早瀬円蔵氏宅ニ行き「同」前日同伴を語る同意を得たり

二月二十七日 木曜日 一、本日青年会員吉田仙次郎氏病気の為め死亡せり本日吉田仙次郎氏の葬式青年会より花一對を送れり補習生より別香銭を送「る」り送葬す

「三月一日」二月二十八日 金曜日

記事なし

三月一日 土曜日 記事なし

三月二日 日 記事なし

三月三日 月曜日 記事なし

四日、火曜日 記事なし

五日、水 明石氏前件ニ就き来校

六日、木 記事なし

「七日 金」 本日兼ねて「軽」騒擾事件ニ拘留せられたる吉田平三郎無罪となりて帰る(本日寺田清四郎氏青年会の評議員辞職届持ち来る)

記事なし

七日 金曜日 記事なし

八日 土曜日 記事なし

九日 日曜日 記事なし

十日 月曜日 記事なし

十一日 本日本校南、西、北部欄設文を大工幸吉氏ニ為

ス総金高百四十九円二拾七銭五分本月二十八日まで仕上の約束し

同註文書見積

杉二間丸太末口三寸二百六十本 単価三〇〇 一金七十八円也

同二間四八式拾六枚 一八〇 一金五円六十八銭也

同四枚半 〃 一金八拾七銭也

洋釘壹貫三百匁 六〇一金七十八銭(南側柱)

杉二間丸太末口三寸十一本 三〇〇 一金参円参拾銭也

両面焼板八寸五分拾四枚入十三坪半二坪 一、七〇〇

一金拾毫円四十七錢五分

杉二間六割十四本

八〇 一金毫円拾貳錢也

〃二間四八六枚八十本

一八〇 一金毫円八錢也

釘 一寸三百目 二寸二百目

七〇 一金參拾五錢也

栗セレ

一金五十錢也

コールタレ

一金毫円拾錢也

根焼薪

一金毫円也

右南、北、西側垣材料

大工料

一金貳拾円八拾三錢也

手伝料

一金貳拾円二十五錢也

焼手間

一金參円也

合計

一金百四十九円二十七錢五分

右、

十二日 水曜日 記事なし

十三日 木曜日 記事なし

十四日 金曜日 記事なし

十五日 土曜日 記事なし

十六日 日曜日 本日夜学生徒賞品を買ひに行く

賞品左の如し

一、一冊參錢ブック 四十七冊 金毫円四十毫錢

一、一冊拾五錢ブック(改良経紙)

一、一個拾八錢ブンコ

一、一個貳拾參錢針箱 一個

一、一個貳拾錢紙ハサミ 一個

一、一冊九錢(改良経ブック)冊冊

一、証書用紙一枚六厘四十五枚

一、のし紙五枚

一、一冊五錢ブック 冊

一、三十三錢 証書四十五枚及びノシ紙五十枚

十七日 本日本校電灯設置す

十八日 記事なし

十九日 本日青年会評議員を開く

會員死亡者 追弔会及会旗製の件、右経費三

十円 寄附を仰ぐこと

二十日 木曜日

二十一日 金曜日 春季皇靈祭

二十二日 土曜日 余東田中講演会出張

二十三日 日曜日 大工辻井清吉氏校舍修繕見積りの為来る(小川  
通上御陵前上る辻井清次郎)

【二十三日四条大橋新築落成式渡初めありたり】

二十四日 月曜日 本日証書授与賞品授与式举行

見積

一、間中戸 八枚(教室中しきり戸下) 金拾貳円也

一、間中戸 八枚(全 上) 金八円也

一、長サ四間巾二寸五分と四寸 敷居四本 金拾円也

一、毫間大かま地五丁 金貳円五十錢

一、杉四分板巾五尺 金九十錢



一、釘大工手間トモ

金八円

右の通り註文せり

金「参拾八」四拾円九十五銭

二十四日 月曜日 本日証書授与賞授与を行

ふ

|        |    |        |
|--------|----|--------|
| 補習生男特別 | 一等 | 浅野秀吉郎  |
| 〃      | 一等 | 酒井庄助   |
| 〃      | 一等 | 早瀬仙三郎  |
| 〃      | 二等 | 篠原信次郎  |
| 〃      | 二等 | 上田梅吉   |
| 〃      | 二等 | 鎗田多三郎  |
| 〃      | 二等 | 佐々木宗三郎 |
| 〃      | 二等 | 藤井儀一   |
| 〃      | 二等 | 山崎徳兵衛  |
| 女      | 一等 | 九十九静枝  |
| 〃      | 二等 | 平田きぬ   |
| 〃      | 二等 | 増田かね   |
| 〃      | 二等 | 平田さき   |
| 〃      | 二等 | 梅井たね   |
| 尋常科 特別 | 一等 | 吉田喜一郎  |
| 〃      | 一等 | 伊藤多三郎  |
| 〃      | 一等 | 伊藤多三次郎 |
| 〃      | 一等 | 和田信一   |
| 〃      | 一等 | 西村勘造   |

|        |               |
|--------|---------------|
| 一等     | 高松伊三郎         |
| 一等     | 村上由太郎         |
| 一等     | 河合時次郎         |
| 一等     | 小寺源之助         |
| 一等     | 川合はる          |
| 二等     | 河合さよ          |
| 二等     | 平田光蔵          |
| 二等     | 篠原亀吉          |
| 二等     | 丹波仙太郎         |
| 二等     | 森川市松          |
| 二等     | 篠原亀吉(チェック印有)  |
| 二等     | 山崎ふく(チェック印有)  |
| 二等     | 伊藤小うた         |
| 二等     | 北村小うた(チェック印有) |
| 二等     | 増田うさ(チェック印有)  |
| 記事なし   |               |
| 記事なし   |               |
| 二月二十五日 |               |
| 二十六日   |               |
| 記事なし   |               |
| 記事なし   |               |
| 二十七日   |               |
| 二十八日   |               |
| 二十九日   |               |
| 三十日    |               |
| 三十一日   |               |
| 〃      |               |
| 〃      |               |
| 〃      |               |
| 〃      |               |
| 〃      |               |
| 四月     |               |

一日 記事なし

二日 生徒保護召集の通知書配布す

三日 記事なし

四日 金曜日 本日始業式父兄会を開く

生徒合計 百五十名

父兄 五十名

明石民藏氏来らる 心眼ニ就きての講話

本日夜学南、北、西部の本棚出来上る及教室内二教室の所を三教室ニしきる事其他修繕出来上る、電灯 書

メートル法ニて出来上る

一、修繕木柵全部総費用金貳百四円也

二、電気焼設置買取費金參拾六円也

五日 土曜日 本日本校訓導東松弘一氏退職

在職中慰勞として金貳円を送る本日東松氏の代りとし

て田中校訓導井上定二氏を■本校訓導ニ属託す

六日 日曜日 記事なし

七日 月曜日 記事なし

八日 火曜日 記事なし

【八日本日】

九日 水曜日 記事なし

十日 木曜日 記事なし

十一日 金曜日 記事なし

十二日 土曜日 記事なし

十三日〔月〕日曜日 記事なし

十四日〔火〕月曜日 記事なし

十五日〔水〕火曜日 記事なし

十六日〔木〕水曜日 記事なし

十七日 木曜日 本日ストープの上塗りをなす

十八日 金曜日 記事なし

十九日 土曜 記事なし

二十日 日曜日 記事なし

二十一日 月曜日 記事なし

【此】近頃加洲ニ於ける土地案益々行惱み日本人排斥の声高し

一面ニ於て此れが抗議を申し出ずる「物」者又多し

二十二日 火曜日 記事なし

二十三日 水曜日 「記事なし」青年会旗の註文の為出張

二十四日 木曜日 記事なし

二十五日 金曜日 本日■青年会「員」評議員四名旗、註文の為出張

会旗金十六円七十五銭の者註す内手附金五円を出

す

二十六日 土曜日 記事なし

二十七日 日曜日 記事なし

二十八日 月曜日 記事なし

二十九日 火曜日 記事なし

三十日 水曜日 記事なし

五月

一日 木曜日 記事なし

二日 金曜日 記事なし

三日 土曜日 記事なし

四日 日曜日 記事なし

【○四日日本武石飛行家飛行中着陸地点ニ於て瓦斯爆発し死亡せり同氏米国飛行学校を卒業し斯界ニ望を属せられ居りしに死去せしは斯道の最をしむべきことなり】

五日 月曜日 記事なし

六日 火曜日 本日教員家屋の畳十二畳表かへしをなせり

七日 水曜日

本日青年会旗出来たり、其の費用金拾六円貳拾五銭

也

八日 木曜日

記事なし

九日 金曜日 記事なし

一〇日 土曜日

本日評議員会を開く

議事

会員死亡者弔ひに関する件

其の計費各評議分担 会員より徴集すること

十四日迄に徴集のこと

余興挙行の事

十一日 日曜日 記事なし

【十一日本日補習生一同浅井氏の宅ニ行き小使室の一室を青年誤樂場ニ借り受けたき儀申し出でたり【裏面ニは何か考へあるも

のらしき模様なり】

十二日 月曜日

十三日 火曜日 記事なし

十四日 水曜日 記事なし

十五日 本日は加茂祭日の為休み

十六日 金曜日

本日青年春季大会を開く

一、諸報告

二、会の主意説明

三、余興を挙行ス ウカリ節

【十七日 休み】

【十八日 日曜日】

三非常の盛会をきはめたり

十七日 休み

十八日 日曜日

十九日 記事なし

二十日 学校の方別ニ記事なし

青年会ハ開光寺ニ於て「会員」死亡会員九名の追弔会を開く

死亡会員 前会長 浅井清三郎氏

全 幹事 吉田寅吉氏

全 全 三浦清三郎氏

全 会員 吉田弥三郎氏

全 篠本宗三郎氏

全 吉田仙次郎氏  
全 佐々木はる氏  
全 西村このえ氏  
全 森 小ぎく

右九名

二十一日 記事なし

二十二日 木曜日 記事なし

二十三日 金曜日 記事なし

【二十三日頃近頃天皇陛下御不例急性肺炎と拝診の由】

二十四日 土曜日 記事なし

二十五日 日曜日 記事なし

二十六日 月曜日 記事なし

二十七日 火曜日 記事なし

二十八日 水曜日 記事なし

二十九日 木曜日 記事なし

三十日 金曜日 記事なし

三十一日 土曜日 記事なし

六月

一日 日曜日 記事なし

二日 月曜日 記事なし

三日 火曜日 記事なし

四日 水曜日 記事なし

五日 木曜日 記事なし

六日 金曜日 記事なし

七日 土曜日 記事なし

【七日本日余帰国す（妹チエ死去の爲）帰途大坂愚妻兄玉村氏の家ニ立ちよる 其の件本夜学講会中より壱万円ノ金子を某土地

二番抵当ニテ貸せしに其の土地「売■■■■」競売となりし故】

八日 日曜日 本日講「法」会の世話人下鴨ニ於て

集会せしよし

【九日 月曜日 記事なし】

【十日 火曜日 記事なし】

【十一日 水曜日】

【十二日】

八日 日曜日 余本日国元を出で途中大坂玉村氏の家ニ立ち寄

る其の件は左記

一、本夜学講会中より金壱万円を某土地家屋を二番抵当に取り貸し居りしに、此の度其の土地家屋競売となるを以て若其の競売にして二番抵当金額まで上らざれば大なる損失あるを以て、如何にもして我が希望までせり上ぐる■■買手を得■■んとて相談に行けり（総額七万五千円まで登れば本夜学損失なし）五時快託別れを告げて帰る

九日 月曜日 前日の次第浅井氏に告ぐ

十日 火曜日 記事なし

十一日 水曜日 記事なし

十二日 木曜日 「記事なし」

「十三日」 金曜日 本日浅井氏を府立病院内ニ尋ぬ（浅井氏の一族

中ニ病ニありし故）以て前記一件を談じ「其の」其れ

より大坂ニ至る玉村氏に面会し前件競売に■七千余円

の保証金を積みて主席してくれる者ありや否や又一転

して八万五千円位で全部買手ありや否や、玉村氏曰く

両手に手を廻して居れば何れなりと応じると断言せり

十三日 本日帰京其の由浅井氏に告ぐ

十四日 土曜日 記事なし

十五日 日曜日 本日浅井氏余同道大坂ニ行き万事打合せをなす、

則ち愈々玉村氏の固絶ニより山田市次郎氏なる人を以

て競売保証金七千五百円を以て十八日競売当日出席■

の事を決定す

十六日 ■月曜日 本日玉村氏、大坂より来る、愈々落札の時には

支払金の納達金出来るか否かに就きて■然る話一転し

て其の競■売をあぜかやす大々的もぐりの者出り来り、

そがいせんとせすよる直ちにそれを見方ニ引き入れん

と浅井氏其の方ニ談ずる事となり故ニ大坂の方は一

変不用の「由」傾向を示めすに至れり（其の大々的も

ぐりをこちらに引き入れざるも競売の「碍」障礙物な

れば一層の事と思ひしなりしなり）

十七日 火曜日 本日玉村氏前日の雲行を伺ひ帰坂す

【十七日日本井上廣崎両教引率生徒全部疏水地方ニ螢狩り】

十八日 水曜日 本日競売日誰れ一人競売ニ入札するものなかり

し由戸田一部売入たる由

十九日 記事なし

二十日 金曜日 記事なし

二十一日 土曜日 記事なし

二十二日 日曜日

本日余講法整理の為午后浅井氏内ニ行きて事務を取る、

本日過日やけどせる生徒山田松之助死去す、本日六年

生佐々木宗三郎病死す

二十三日 月曜日 本日「死」前記兩人の葬式あり

たり

二十四日 火曜日 記事なし

二十五日 水曜日 記事なし

二十六日 木曜日 記事なし

二十七日 金曜日 記事なし

二十八日 土曜日 記事なし

二十九日 日曜日 記事なし

三十日 月曜日 記事なし

七月一日

一日 火曜日 記事なし

二日 水曜日 記事なし

三日 木曜日 記事なし

四日 金曜日 記事なし

五日 土曜日 記事なし

六日 日曜日 記事なし

【六日本日有栖川宮殿下薨去セラル】

七日 月曜日 記事なし  
八日 火曜日 記事なし  
九日 水曜日  
一〇日 木曜日 記事ナシ  
十一日 金曜日 記事なし  
十二日 土曜日 記事なし  
十三日 日曜日 記事なし  
十四日 月曜日 記事なし  
十五日 火曜日 記事なし  
十六日 水曜日 記事なし  
十七日 木曜日 記事なし  
十八日 金曜日 記事なし  
十九日 土曜日 記事なし  
二十日 日曜日 記事なし  
二十一日 月曜日 記事なし  
二十二日 火曜日 記事なし  
二十三日 水曜日 記事なし  
二十四日 木曜日 記事なし  
二十五日 金曜日 記事なし  
二十六日 土曜日 記事なし  
二十七日 日曜日 記事なし

【二十七日日本日村長花井氏「より」浅井氏宅ニ行き余ニ規定以外の報酬を出すや否やを尋ねに行きし■との事 又近頃余は本夜

学教員廣崎氏の報酬中幾分さき取るかと花井村長疑ひ居る由聞きたり疑ひの甚だしき〔渡辺氏より〕愚も又言ふに足らざる村長なり 故なき金銭を貪るは己が良知を曇らす甚し

二十八日 本日第一学期の終業式を挙行す、本日より向ふ九月二日

まで夏休み

八月十四日 余帰国す多少夜学用事を兼ねて

十七日 帰宅す

八月二十拾日 本日「催」夜学場に於て講演会を開く青年会員四十九名

集会一般二十名ばかり

八月二十六日 本日余柳原明石民藏氏宅ニ行く其の件、九月より村役場

よりの補助金約五十五円減少ニ就き夜学経費の不足上、

各方面の支出「力を」方法調査の爲め

【本日森田氏（愛知県豊橋「教」師範教諭）来宅話中軍隊予備設備は第一戦二出ずるとの事話す（六週間現役中緒感）

八月二「九」八日 浅井せい君来る余との協議今後夜学経

費ニ就き村役場の補助金減少と現在有金の「遽」漸次減少とニ就き今後の維持ニ就き議す所あり、余の發議現在明石民藏氏の■依託せし四ヶ講金利殖金は満講まで貯績し夜学負債の万一二両へ現夜学■「の者」経費現在金二百円は明石四ヶ講満期及び現在回収しつゝある債権の回収まで残し置き本年九月よりの夜学維持は貸金利子回収ニ務めて其れにて維持する及び現経費の節減ニありせい氏も同主張ニなり依つて明二十九日負債者の家は利子金回収の件ニ就き二人出張することを約せり

同日、本日夜学教員廣崎政吉氏病氣九月一ヶ月欠勤を申出でたり、依て其の代理者として白川校訓導中山ミ乃雄氏ニ属託す

八月三十日

本日村長より全村夜学ニ対する管理監督規定制定し一片の規則書を廻し来り余ニ此れが調印を求めたり

其の箇条中ニ本夜学の教員を三名とすとか村長夜学の管理監督すとか田中小学校長教員を監督管掌すとか夜学教員は小学校長の申出ニより村長之れが解除囑託すとか夜学には裁縫部を置かずとか規定しありたり「而して之れが調

【裏面の黒幕を如何にせん】

余一読意外ニ思ひたり此の規則規定は村の公設夜学ニ応用すべき規則にして我が夜学の如き私設の夜学に■応用すべきものにあらずと思へり依つて兎に角余は「夜学」講会関係者ニ談じ然る後調印すべきものなれば調印致さんと手紙を添へて返却せり、其の手紙

云云……愚見申し度儀有之候故明後

日役場へ出頭の上調印仕るべく候

返却するや直ちに村長花井龍郎氏より公文書を以て左記意味の文来る

此れまで貴夜学ニ補助致し居り候「金全部」

補助金全部支払停止致すべく及通知致し（補助金額は一カ年二百三十一円）

他二花井氏の添書として勝手独立せらるべしと言ふ意味の手紙

来る愚見具申を異議と解したるなり

「拝啓貴職ハ西田中夜学校ノ為メ非常ナル御奮勵其部落ノ為メ前途好良ニ赴クヘシト慶賀スル処ニ御座候今般村費ヲ以テ夜学教員ニ給スル手当金ノ義ニ付別紙ノ通管理及監督規程ヲ定メ着々好果ヲ得ント存候ニ付各夜学会長ノ認諾ヲ受ケ候間貴部落ノ方モ会長ノ認諾相成候様致シ度候間ク処ニ抛レハ目下貴部落ニハ会長タル者有名無実ノ実況ニ□□候趣ニ付貴職ガ其事務ヲ執行相成候ノ由就テハ貴職ニ於テ御承認相成候テ可然候条別紙記入御調ノ上被返戻相成度も先ハ要件ノミ得貴意早々

八月三十日

村長花井龍郎

上田静一殿

【○八月二十五日余突然役場ニ行きしに小学校校長渡辺竹次郎氏学夜規則の原稿を村長と二人作り居り其の時漏らせし語に私にも一人分の夜学手宛金を下さ■れは各夜学を見巡り管掌すると言

へり」

八月三十一日

本日早朝村長花井氏の宅ニ行きしニ不在依つて又午后二時頃■行きたり、前日公文書を以て夜学補重金停止ニ就きての理由を聞きに來たれりと言ふ、村長曰ク、君は彼の規定ニ異議ありて「尊」守らぬと言ふから勝手獨立して然るべしと思ひ停止せるなりと、余曰く左ニあらず余が独断的調印は夜学設立者關係者ニ対して専横の所置かと心得■調印せずして返戻せしなり愚見云云は少か意見ある併し意見あると言つて直ちに彼の規則ニ異議をさしはさむニあらず、弁明再三村長もあやむやの内ニ其の日は別る

「乙第五八〇号

大正二年八月三十日

田中村役場

「京都府愛宕郡田中村役

場印」

西田中夜学会々々長代理

上田静一殿

從來貴部落夜学会教員手当トシテ毎月支出致シ來り候処取停止夜学会管理及監督規程ヲ設定シ之ニ拠ルヲ要スヘキノ処此規程ニ対シ御異議アリテ御遵守無之趣就テハ自今夜学校員手当金ノ支給ヲ停止候条御了承相成度此段及通知候也」

「会長代理トシテ愚見アリトノ趣右ハ如何ナル義ニ候ヤ村費ヲ以テ教員ノ手当ヲ受クヘキ御見込ミ無候モノト存候果シテ然ラハ西田中ノ分ハ「之ヲ」此規程ニ拠ルヲ要セス任意獨立相成り可然共為念申進候也

八月三十日

会長代理」

村長花井龍郎

九月一日

本日十時頃役場ニ行き昨の件ニ就きて申し上度又調印も■■仕りましようと言つて行きにし村長曰ク前日の通りなり則ち公文書の通りなり余曰ク然らば補助金は停止ですか

村長 如何にも其の通り

余 如何なる理由の元ニ停止せらるゝや

村長 君は異議を唱ふる以てなり

余 異議ニあらず彼の規則を守らぬと言ふにあらず只独断的調印「の者」

他を憚る事と少か愚見を述ぶるに止まるなりと言ふ

村長 迷ニ顔色を變し君は余を有給村長と思ひ、或ひは他より入り來たる村長と思ひか、る事を言ふならん、又言ふ事あるなれば校長を

經由して來ればよい君はいつも何事でも校長を経由せずして直接

ニ來るのはいかんとし立腹せり

余曰ク本日は小学校の訓導として來て居りません、又貴殿も先ニ夜学規定を送りし時夜学代理として処されしや之れまで云云小学校訓導なれば法ニ従ひ校長經由すべきものは經由し他ニ青年会とか夜学一件ニ就きて經由する必要あらず、併し左様の事は偕て置き先は件は如何になるや村長益々立腹君はかくまでしても六円の金がほしきや

余曰ク然らば如何に説明しても弁明しても補助金の方は停止致さるや村長曰ク出せません

余曰ク よろし一厘の金も受けません独力やりますと言ひつと立つて出



す

余は断然彼れ等厄介二ならぬ此の度制定の規定にも従はぬ独立独行にて  
も夜学を開始すると決心す

余直に学校ニ帰り渡辺氏ニ補助金停止ニより此れより余独力夜学をやる  
と語れり、渡辺氏直ちに役場ニ行き何か談ずる所ありしか婦校余ニ向ひ  
村長断呼として応ぜずと語れり

【村長元固ニ補助金停止を言ヒ余が三回足を労して説明するも聞  
入なく言ひ張るは既ニ規則を作る前二期する所ありしならん

八月二十五日ニ役場ニ於て渡辺氏の漏らせし言益々思ひ当れ  
り】

【村長斯く傲慢ニ長官的官吏風を吹かすは彼れの性格上（元税務  
官吏なりし故）さもあるべきことながら裏面ニ黒幕「あり」の  
人物有りと益々疑はれたり】

【村長余ニ誨辱を与へたり余又立腹す】

九月二日

余本日郡長宛ニ左記「手」書面を出せり、申上たき儀有之候故至急召喚  
下され度し、渡辺氏此の件ニ就き郡役所ニ行き何か話せし由

【郡長は本件を郡視学ニ託し調査せしめたる由】

九月三日

本日余夜学を開始す廣崎教員病氣ニ就き本月一ヶ月欠勤依つて臨時一ヶ  
月だけ白川校教員中山三乃雄氏ニ本月一ヶ月を囑託す

九月四日

記事なし

九月五日

本日夜学規定の承「知」認を早瀬円蔵を会長とし浅井せいを浅井清三郎  
死亡ニ就き代理として調印せるもの学校宛ニまはし来る

【渡辺校長調印済の規則を余の前ニ置き君よりおせいさんの方  
らいわいとさげしみたる風ニ余示めせり余無言】

余早瀬氏の調印ニ驚きたり又浅井氏も如何なる考へにて調印せしかを疑  
へり、午后浅井氏宅ニ行き其の次第を聞くに左記今朝七時頃村長来たら  
れ夜学規則制定せし故此に調印せよと言へり 浅井氏は一説後先生ニ  
（余の事）相談の上調印すると言ひ調印せず間もなく余の宅ニ来たりた  
りと余不在然るに其の未だ帰らざるに村長早瀬氏宅ニ行き「君も夜学ニ  
門」如何なる相談ありしか早瀬円蔵氏を夜学会長とし調印せしめたり而  
して直に又浅井氏に行き早瀬が調印せし故貴女も調印せよと殆ど強制的  
ニ調印せしめたりと（余は此の調印済み規則書を見て夜学校地校舎の所  
有権ある浅井氏の調印を見るより斯くなれば既ニ夜学は村長の手ニ帰せ  
しもの故ニ彼の校舎を使用する事不能と思ひ「夜」茲ニ現規定の夜学を  
辞任するより道なしと思ひ辞任を決す）

【校長渡辺氏は余と向ひ（他教員も居る前）村長は君が西田中夜学  
の経費を乱用して居る廣崎教員手宛宛金の上部を取り居るとか  
裁縫教員の名前を詐称して居るとか言へりと言へり……………】

九月六日

本日郡役所ニ於て郡長、郡視学、田中校長協議せり 郡長より余ニ対す  
る伝言

毀誉訪傍をなげ打ち君は彼の為めに尽すあらずや兎に角一度彼の夜学  
をやれ君を特ニ保護するは夜学をやる為めなり若し些ニたる感情ニ走  
り夜学をやめることあれば如何なる手数ニ出するやも知られずと（如

何る手数とは小学校■も転任或は又其れ以上かもしれん)

余は直ち思ふ左記、如何なる鉄槌頭上に下らんも名分明かならざる事を如何でなさんや

【余の決心如何る鉄槌余の頭上二下らも余は逆境ニ踏入りて一家を離しても余の在学來の素志は撓げぬ余は免職となりても余の主義を貫かざれば此の地は去らぬ】

元來現規定の夜学を見るに全く村立の公設夜学二見受られ又会長の選定の如き如何なる理由ありて早瀬氏会長「なるや」となせしや實際設立者を設立者經營者を經營者とし村長校長の如きも町村設小学校令ニある権限に止ねるべきに彼の規定の如き名分の立たざる会長を定め村長校長は設立經營者の権限内ニ立ち入りたる規定なり、日々一丁字なき而も「理由も」名分明かならざる会長を独断的ニ選定し婦女子を攻めて強制的調印をなさしめ、以て夜学の実権を握る此れが會計も經營も將た榮祥も彼れ等掌中ニ収めんとする惡辣なる計画ならずや、然れども今や調印済みとなり実権は村長校長の手ニ歸したるを以て如何ともする不能故に余は断然決心す現規定現夜学の教師として出ずる事を辞す、本日午后余郡役所ニ行き郡視学ニ面会す、現夜学の教師として余は出ずる事出来ず本日より辞任す、村長校長の管理監督の元ニ余の教師として出ずるは現夜学の為不利なることを明言せり

郡視学は今一度考へてやつて■くれと言はる

【渡辺氏の行為を總合して想像するに此れまでの夜学を価値なきものと言ひふらし余の行為を専横的とし利慾的として彼の夜学の管理監督の必要を極言し然して己れは其の事ニ当り其の手数料手宛金を食らん心底鏡にかけたる如く見たるなり 村長の言ふ所

皆彼れより出ず又一面村長を扇動して余を転任せしめんとする手□なり】

七日

本日浅井氏宅ニて浅井氏寺田氏余と偶然会合し其の節余は辞任の理由を述べ

則ち、校長の余を侮辱せしを各所ニ種々惡評の流言なせしこと校長の裏面ニ惡辣なる腕を振るひと居ること、会長の名分明かならざること方我等と共に余の出ずるは夜学の為めなざること

九月八日

本日又々郡役所ニ行き郡視学ニ面会夜学辞任の理由を述べ 郡視学は然らば其の理由を簡条書きにして出せ郡長二見せるからと

一、本日余三条余郡夜学校長小西新太郎氏宅を伺ふ 則ち同氏夜学の視

察 夜学を私立学校ニする具備すべき条件調査の爲、

「我が夜学の者」帰路浅井氏寺田氏（寺田氏は同氏等の經營の講法満諱故其の利益金を夜学ニ寄附する関係者アリ）宅ニ行き夜学財産目録■を尋ねたり 考ふる所今少し積立金あれば私立夜学校として設立する事を得るなり（余の意中は夜学を私立慈善夜学校として認可を實際尽せし人忠実ニ夜学の為に働かし人をして受くべき榮誉を受させ■公然私立学校として確實なる官庁の管理監督を受け永久ニ夜学の基礎を定め永久ニ此の村下の貧民児を救済せんとするにあり）

一、本日前夜学生現青年会評議員連余ニ異動なきかと尋ね来る

一、本日余現夜学の辞任状を郡長視学ニ届け出す及辞任の理由を簡条書きとして出せり

九月九日

本日渡辺氏より聞き及びしこと、村長は余の現住家屋の屋賃を取るか立ちのきを致すか言ひ居れりと 校長一先雲行きの定まるを待ちて言はんと言へりと余二伝言せり

【九月九日本日渡辺氏より聞き及ぶ左記

一、村長長の浅井氏宅にて「余の■対」種々流言せしは早瀬氏

二聞きたる其の儘なりと

二、渡辺氏又此の件ニ対し僕は何も関係ないだら何の飛火も来

ないだらうと言へり

【三、村長は】

九月十日

本日夜学辞任を夜学関係者及び村内知人に通知す及前夜学生徒佐々木浅吉氏現夜学生篠原信次郎氏総代にて通知す

【九月十日辞任通知書を廣崎氏持ちて早瀬氏宛二行きしに 今日

の夜学辞任は時期早しとか或は役場二既二三名の教員定まれり

とか如何二すると言へは十人中六人の賛成二つとか意見まち

／＼なりき】

九月十一日

本日 浅井氏を余の宅ニまねき今後の意見を聞く、同日夜学有価物の管理監督を受けずと、余曰ク其の他二役立経営上二も管理監督を受くべきものにあらず只補助金を有効に消費するやせざるやは管掌するも此れとて経営上二関しては受べきものにあらず無効なれば補助を停止すれば役場としては事足るなり

【察する所現生徒、前生徒村内有志其れ／＼意見ある由】

本日現夜学を■辞任し告別式を行ふ

列席者

現生徒、前生徒、現生徒父兄、外二

篠原、寺田、吉田、浅井、諸氏

余辞任告別を述ぶ 廣崎氏告別を述ぶ、井上教員、上田女教員も余二辞任を届ケ出ず、教員全部辞任す、最後二誠の唱歌を歌ひて別る、夜学は閉校となりたり、本日女子部裁縫生二向ひ現夜学としての裁縫は本日限り■辞してしまふが私の勝手の裁縫として此れ迄通り「開」教授する故女生徒は同じく「登」来なさいと言渡す

【九月九日本日浅井氏役場二行きしに村長机上二渡辺竹次郎氏宛

にて夜学「管」教員官理の■名目の元に金六円を支給すると言

ふ囑託書ありたりと 茲二至りて余想像愈々当嵌まり依て十

三日彼れは鐘紡会社の夜と二重の収入を致さん心算故と余は之

れ諷せん為め渡辺氏二貴殿は鐘紡の会社を止められしやと尋ね

しに彼れは氣も附かざりしか鐘紡は同じく出勤致し居れりと】

九月十二日

一、本日役場へ浅井せい氏出頭す、帰路余の宅ニ寄り如何にすれば夜学の成立が出来るならんと 余は直ちに一度大雨でも降らざれば土地が柔かだから成立しますまい則ち前貴女等の調印を取り戻して改めて夜学の基礎を堅める二あり、本日午后「九月十」二時渡辺氏役場より帰校し余二密談を求め村長は貴殿に対して小学校を転任してくれと言へり「と」就きて貴殿の意見を伺ひたし、余曰ク余は教員をするなら止めるまで同一校ニやる「考へなり」意見なり但し村長が斯くの如き事を言ふは論ずる限り二あらず 余の決心を更に述ぶ

九月十三日

記事なし

九月十四日

本日廣崎政吉氏役場ニ聞左記聞き及ぶ、今後上田氏の他二教員行きて夜学を始め此れが就学生の邪魔するものあれば警察二訴へると(■■■■■)

九月十五日

本日夜学一件二対し君の一件僕二まささんかと渡辺氏が言へり 余は之れ二答へ貴殿ニ「ま」委かす事かなはぬ(渡辺氏不興顔をなしたり)

本日他教員の(他の夜学)夜学囑託書村長より来る 余は見るより直ちに渡辺氏に向ひ貴殿も囑託書を受けられしや、渡辺氏曰ク受たり、余然らば拝見と手を出だせしに渡辺氏是不興の顔を作り否夜学の一件落着の曉二見せんと言へり、本日川合弁次郎氏紙一東夜学ニ寄附せり

【愈々彼れの策略あらはれ来たり先に本村白川校長(元田中学校長)鐘紡の夜学を受け持ち居りしに渡——此の記事書き終りて東天を見れば中秋十五夜の月古句を思ひ浮ふ 月東山出松間双龍如玉爭 但今晚七時半より月蝕我が夜学も一種の月蝕ニ相ひたり「大」一笑す——辺氏は本村民をべてんにかけ遂ニ之れを奪ひ取りなりと聞く今又鐘紡の余暇を利用し視察だの管掌だの名目を作又々六円を食らんとせり】

九月十六日

本日郡役所ニ於て浅井、早瀬、花井村長渡辺校長視学諸氏の夜学今後の事ニ対し協議する由なりしも「早瀬氏」都合十八日延期、本日午后八時より余と浅井せい氏と川合弁次郎氏方二行き夜学維持金請求す二十二日を約して十五円を徴達する也「余」此の日三円受取り帰れり、本日夜学補習生七名村長宅を伺ひ早く夜学を開かれたしと迫れり 村長菓子など

出してもてなせりと又其の時村長の言にこんどは上田の如き貳拾余の教員より郡一番の四十円の教員が来るから余程よい教ゆる事も何もかも改めると、又今後青年会も改める 村税徴収も青年ニ頼みて多く集めたら賞を与へるなど言へりと補習生婦村大笑せりと猶乗馬の例を引きて余を罵倒せりと

九月十七日

記事なし

九月十八日

本日の協議会又々明十九日に延期せりと本日渡辺氏人ニ語りて曰ク、明日協議会ニは上田君を参加させぬと語れり

九月十九日

一、本日郡役所ニ於て例の協議会を開く

出席者 浅井せい 早瀬円蔵 花井村長  
渡辺校長 郡長代 川島視学

中途より余も出席

余の出席せざる迄二何か談じたる由経営上ニ就きて……、余至れば四面より今一度夜学ニ就任せられたしと、余曰ク現在の夜学には断じて出ずる事出来ず其の理由は此の度定められたる夜学中樞の人物に余は信用なき故なり 其の信用なき簡条は前記の流言及び云云 故ニ夜学の強固を計らんとせば……と言はんとせしが村長及び渡辺氏等君は一教員として出るか出ざるかを言ひ玉へと余曰ク然らば断然お断りなり、郡長代視学曰ク何でも宜しから語り玉へ

【余の此の言をなすは誠意赤心此の村ニ尽すの精神】  
全ク宜しく信用ある渡辺氏夜学ニ行き実は貴殿の鐘紡夜学ニ行かん然ら

ば村経費もことさらに校長管掌手宛の事六十六円は「経済なり」減ぜらる、なり（勿論ひやかし半分より言へり）渡辺氏直ちに君はおかしき事言ふ物かな余も断じてあそこはやらぬ

【渡辺氏ニあれば彼の夜■学をやるべきなり則ち精神の含まざる

計画なることを調せり】

浅井氏然らば如何致しようやつて下さる人はなしさばと言つて夜学を止めるも、余曰ク宜し村長より金さへ受けなければ余はあくまでやります、と言へり、視学曰ク兎角今一応「用」考へ明日回答せらるべしと皆解散す

九月十九日

本日前日の回答二行く、私は夜学や彼の村は余の好む所素志なる故夜学は明晩より開始す而し明分の立たざる村長校長の管理も監督も囑託も解除も受けぬ兎に角開始す 視学曰クよしやればよし郡長も村長：言ふ所あるだろうと

二十一日

本日川合弁次郎氏方二行き夜学維持金催促をなす明日を約して別る、本日浅井氏方二行き余は当分夜学経営の委を行く「本日」口約にて（そは前日役所ニ於て夜学経営上の事を言へば君一教員としてと打ち消■されたれば「今後形式的ニも此の■」なり）

二十二日

本日渡辺氏又又学校転云云を言へり、余は論ずる限りにあらずと言へり本日川合氏宅二行きしに川合不在、本日夜学を開始することを見童二通知す、其の時夜学より児童宛紙一人十枚宛百余人ニ与ふ、本日夜学教員二向ひ余は夜学を勝手ニ開く事なれば報酬は出するや否やは未定なりと

うか其の積りにてお願い致します云……

二十三日

本日又又渡辺氏より左記聞き及ぶ、近く貴殿ニ対し小学校転任辞令来るやも計り難しと村長は君の欠点をさがしきりに上申に及んで居ると、余曰ク貴殿校長として如何渡辺氏一応の援護はするも其以上は致し方なしと、余は曰ク如何ようなりと主義の為主張の爲め「正■る」こと不能「敢て辞せず、渡辺氏例の多弁を以て千言万口自己を弁明「余」す 余曰ク余は全く貴殿を疑へり 併し余をして疑はしむるニ至りたるは余の心より出でしにあらず外部より入り来たる事ニより斯く余をなさしめたり 依つて貴殿も誠意あれば村長をうあらみ玉へと言へり猶ほ余主張を弁明せん、余のあくまで強性にして一步も譲らざるは正義の主張と信じ居ればなり、本日夜学放課後川合二行き例の催促をなす川合不在妻君より金「円」参円を受く十二時半帰宅

「本」二十四日（秋季皇霊祭）

本日前夜川合より受け取し金子を浅井氏ニ渡す

二十五日

本日午后九時より又々川合氏宅二行きたり、金子を受け取らず

【本日小学校内酒宴の時（余不在中）二十三日余の職員ニ語りし（渡辺氏の疑はしき点）事皆渡辺氏ニ語りし者あり】

二十六日

本日渡辺氏余二向ひ前日職員ニ聞き事柄ニ就きて余ニ詰問せり（渡辺氏を疑ふ点）余曰ク余の貴殿を疑ふは止を得らざるに出ずと此れまで疑ひ居りし点を具体的二箇条を挙げて言へり（則ち本件の渡辺氏ニ対するはらを割る積りて過日職員ニ漏らせしなり）相互ニ得る所あしたる如し本

日夜学教員ニ手宛金を渡す本日は夜学一件ニもさ／＼せし故村長は役場より手宛金を出さず依つて夜学より手宛金を渡せり、井上、廣崎、上田（女教員）三名ニ各参円宛余は無論ロハなり

【二十六日本日本小学校男子職員（余ヲ除ク）下ニ発□り】

二十七日

本日又々川合氏宛ニ行金五円を受け取る、此れにて本月初めより拾貳円五十銭受け取りたり

二十八日

本日昨夜受取りたる金子を浅井氏ニ渡せり、本日「本」白川校長伊佐氏ニ送るべき手紙を認む

其の文意

一、余の夜学ニ対する主張を明かにせるもの

二、当局者は余が主張を誤解せること

三、余の主張を明かに当局者伝へて下されと頼むこと

四、余の主張と村長規定の夜学規定との対照表

二十九日

本日前日認めたる手紙を伊佐氏ニ渡す、本日浅井氏田中村「ニ来る」学校ニ来る、渡辺校長余と三名夜学一件を語る、結局村長くわこの性質故夜学独立か余は総て彼の意ニ従ふより外なしと余は如何ニしても夜学の不利なれば当分一任せりと言へり、但し余の潔白を知らせん為ロハにて夜学に出でんと言へり

【二十九日渡辺氏より聞き及びしこと 村長は余が彼の部落民を

きようさせんとせりとの事より警察の手ニ調査せりと】

【此の場を此れにておさむるも後日村長と浅井氏と必ず「紛」争

ひ起らんと予言せり】

三十日

本日■渡辺氏余ニ向ひ君が前日の如く出ずれば言はん、元来村長はあくまで■■■■■■頑固ニして君が夜学をやるニ就きては絶対ニ後日異存を言はぬと言ふ一札を書けと、余曰ク村長何の權威ありて斯く言ふ又其れだけの權威あれば余を斯く恐る、か余はかゝる事を成さずと言へり  
渡辺氏殆ど此の件ニは手を置けり、本日夕方浅井氏宅ニ行き曰ク最早彼等ニ談ずる勿れ

拾月

一日 記事なし

二日

本日中山三乃雄氏田中ニ来る渡辺氏ニ向ひ上田君の小学校転任事なりや否や、余は夜学一件より小学校ニ及ぼすことは断「なし」てせぬ太鼓の判でもして見せると中山曰然らば小生も（中山の事）其の一札を書かれまし則ち上田氏にして転任の場合は一ヶ年前ニ予告す、ること「小学」……………明日を約して書かんと言へりと

【二日本日渡辺氏より聞き及びし事 村長は貴殿を新平民と■思ひ国元の役場ニ戸籍謄本を取れりとか 又或る人の言にと言ひ貴殿は昼間女を連れて市内を散歩しず／＼しき行為ありとかハ……………何を聞くやら近頃は中々忙はし】

三日 金曜日

本日暴風雨の為電灯破損夜学を休む 二年生井上重三郎病死ス

四日 土曜日

記事なし

五日 日曜日、

本日余講法帳簿計算記入の爲め浅井氏宅へ出張

六日 月曜日

記事なし

七日

記事なし

八日

記事なし

九日

記事なし

十日

記事なし

【拾月拾日午後十一時五十五分桂公爵薨セリ】

十一日

記事なし

十二日 日曜日

本日余明石民藏氏宅ニ行き此の度開かる、内務主催全国感化救済事業ニ関する講習会ニ就き聞き合す

十三日 月曜日

記事なし

十四日 火曜日

本日午後九時京都発東京ニ向ふ

十五日 水曜日

本日午前十一時東京新橋着す上野公園前旅館投宿

十六日 木曜日

本日午前九時内務省ニ出頭す 余は直に我が教育ニ関する■経験談と題する演題を申込む

十七日 金曜日

本日内慈善事業ニ関する学校病院を參觀視察す

十八日

本日電報ニ接し直ニ帰宅す（旅行延期許可セざりしたため）

十九日 日曜日

本日午前五時半京都着帰宅す、余は実ニ残念なりき余の意見も発表出来ず講習全部終へざるが誠ニ残念なりき

二十日 月曜日

記事なし

二十一日 火曜日

記事なし

二十二日 水曜日

「記事なし」本日川合氏宅ニ例の夜学金催促ニ行く不在

二十三日 木曜日

本日は村祭りに就き休み

二十四日 金曜日

記事なし

二十五日 土曜日

記事なし

二十六日 日曜日

記事なし

二十七日 月曜日

記事なし

二十八日 火曜日

記事なし

二十九日 水曜日

本日浅井氏田中学校長ニ面会夜学今後ニ対して議せり其の要ニ浅井氏は村長規定の夜学規定ニ従ふべく故此れまで通り補助金を受けたしと 校長然らば来月一日を期し更ニ村長の要求を定めて上田氏を夜学教員ニ推薦すると同日余に其の旨を伝へ来る、余は之れに答へ余は余の主義通りに「叶へば」かなへば其の推薦ニ応ず或は余の主張を無ニして村長の要求ニ応ずとせば更ニ一ツの要求あり其の要求を入らるれば余の主張も無ニせんと 双方入れられざれば余は村長校長の主張及推薦は断然応せず又浅井氏とも提携せせず単独行動をとると明言せり

二、本日余浅井氏ニ約せしを以て川合氏宅ニ「行き」天長節祝満頭の請求ニ行けり又又不在

三十日 木曜日

本日生徒一般ニ天長節心得を言ひ渡し校内式場準備をなす 及び其れ／＼通知を發す

三十一日 金曜日

本日天長節祝賀式を挙行す。生徒百四十名ばかり、青年会員六十名ばかり

式順

一同敬礼

二、君が代二回

三、勅語奉読

四、余の祝辞

(イ) 天長節の意義由来 本日の天長節

(ロ) 我が国の万国と異なる点

(ハ) 我等此の国ニ生れし幸福

(ニ) 生徒として君国ニ対する心得 (勉学忠孝)

青年として 全 国家を忘れぬこと則ち愛郷的精神

(ホ) 財産家才能学者軍人万般の国家ニ対して則ち分ニ応じて貴賤

貧富賢愚長幼其の能力ニ応じて国家ニ尽すること

(ヘ) 今上陛下の御親筆を示めす (朝日新聞社発行) 終始一誠意万

事誠意を持つてすること 其の例話

五、祝ひ満頭の分配……………青年会評議員職員来賓の祝

六、散会

十一月一日 土曜日

一、本日式場の後しまり補習生職員だけ

二、本日前件 (夜学一件) ニ対し小学校長より夜学教員推薦ニ対する何の通知もなし

十一月二日 日曜日

記事なし

三日 月曜日

記事なし

四日 火曜日



記事なし

五日 水曜日

本日より廣崎教員向ふ一週病氣保養「の為」入湯の為（城ノ崎温泉ニ行く）欠勤す

六日 木曜日

一、記事なし

七日 金曜日

一、記事なし

八日 土曜日

一、記事なし

九日 日曜日

一、記事なし

十日 月曜日、

一、記事なし

十一日 火曜日

本日何処の青年二名なるか小使を通じて余の修身訓話中同話を聞きたく旨申来り、一時間其の話を聞き居れり放課後何処より来られしか又何処の学生なるや（高等学校か大学生かと尋ねたり）と尋ねしに本年大学教員を卒業せりと諸種教育上の話をなして別る（後に聞けば元小学教員をなし居り大学ニ入り教育科を卒業せしこと判明せ「其は」篠壁光重氏なりと）

十二日 水曜日

記事なし

十三日 木曜日

本日浅井氏より田中校長ニ夜学一件の何とか話のまとまりしやに就きて電話をかけたたりと田中校長余ニ其の由ニ告げたり 又ハ同じ話を繰り返せり

十四日 金曜日

一、本日同余田中校渡辺氏ニ向ひ曰くいつも同話を繰り返すより貴殿も責任を以て本月中ニ貴殿の責任ニ関する話を附けられたしと言へり 依つて本月中を期して何とか話を定むると約して別る

一、本日廣崎教員病氣転地養生地より帰村す

一、本日廣崎政吉氏より更ニ二三週間転地養生の為欠勤を申出ず

十五日

記事なし

十六日

記事なし

十七日

記事なし

十八日 記事なし

十九日 記事なし

二十日 記事なし

二十一日 記事なし

二十二日 記事なし

【二十二日徳川前十五代将軍慶喜公薨去】

二十三日 本日青年会評議員会を開く

二十四日 本日補習生へ夜学ニ尽力せし慰勞として「酒」「内」酒の

饗応をなす出金は廣崎君の手宛中より（欠勤ニより補習生

代用せし故)

二十五日 火曜日 記事なし

二十六日 水曜日 「記事なし」入営兵送別会開会

二十七日 木曜日 記事なし

二十八日 金曜日 記事なし

二十九日 土曜日 記事なし

三十日 日曜日 記事なし

十二月一日

本日渡辺校長ニ左記事尋ぬ、去る十四日夕約束になる貴殿の夜学ニ対する「夫」解決を責任を以て確答ありたしと迫る、同氏回答あいまいもこれとして何の捕ふる所なかりき 只前例を繰り返すニ止まれり、依て余は午後五時浅井氏宅ニ行き其の結果を言ひ貴女より交渉ありたしと言へり

二日 本日浅井氏より渡辺氏ニ夜学の解決を迫れり(電話にて) 依つ

「同」渡辺氏より余はどうしても■現「規」規定の夜学をやらぬかと言へり、余は直ちに勿論余を圧倒せんとする夜学規■定の夜学をやることは断じて出来ぬ(之れは余の想像にて圧倒と見るにあらず村長圧倒しと公言せるによる)

三日 水曜日

本日浅井氏宅ニ行きて明日を期して最後の解決を提議あるべきよう言へり

四日

木曜日 本日浅井氏田中校ニ来り渡辺校長ニ面談 一時間余ニ向ひ浅井氏曰先生にして(上田余の事)夜学ニ出でられざれば夜学が立ち行かず何■卒何もかも忍び夜学の為めと思ひ彼の村

の為めと思ひ今一度彼の規定ニ従ひ夜学に出でられたしと懇願せらる、余は曰ク 御厚意は有難きも余を圧迫せんと公言せる

規定■又其の人等の元々出ずるは余は忍ぶとしても夜学将来の為めにならず断じ此の儀は御断りすると言へり、浅井氏は御主張理由理屈は多々有るならんも今日の場合如何とも致し難かければまげて御忍びをと言葉を尽して頼まれたり

余は此れニ答ふるの言葉なく然らば総てを流して貴意ニまかさん 則ち今一度夜学ニ出ずべしと言ふ、其の後浅井氏役場ニ行き村長ニ会し九日を期して談合するとして別れたり■

五日、本日余渡辺氏ニ向ひ若し余を夜学教員として選出せらる、なれば余の希望としては井上定次氏廣崎政吉氏を選出ありたしと希望を述べ 渡辺氏は何思ひしか左の言をもらせり、自分は君と今後共ニ夜学の事をするは都合よくはかどるまい余は辞■するやも知れずと言へり

六日 記事なし

七日 本日廣広崎教員転地養生地より帰村せり

八日 月曜日 記事なし

九日 火曜日

近頃補習乙組六年組は夜学ニ熱心ニなり以下の欠席児童督促ニまはり居れり

十日 水曜日 記事なし

十一日 「金」木々 記事なし

十二日 金々 記事なし

十三日 土々 記事なし

十四日 日曜日 記事なし  
十五日 月曜日 記事なし  
十六日 火曜日

本日浅井氏宅ニ行きストープ石炭買入れ「ニ行き」交渉ニ行きしニ最早其の資金なしと 又夜学小使室も抵当ニ入れ金をかり  
■講員支払いニ当てたりと又やがて教員住宅も売却せん心算なりと（今後は如何ニ維持すべきか案じられたるものなり余は大ニ決心せり）

十七日 水曜日 本日何盛三氏ニ出□□す

十八日 木曜日 記事なし

十九日 金曜日 記事なし

二十日 土曜日 記事なし

二十一日 日曜日 記事なし

二十二日 月曜日 記事なし

二十三日 火曜日 「第日」 本日第二時限より第二学期終業式を学行す

二十四日 記事なし

二十五日 記事なし

二十六日 記事なし

二十七日 記事なし

二十八日 記事なし

二十九日 本日補習生の一部しめか■ざりをなす

三十日 同前

三十一日 「記事なし」

本日浅井氏余ニ向ひ此れまで。夜学教員住宅夜学会計上四百

円にて浅井名義にて買取り■タリ依つて今後毎月貳円五十銭の家賃を頂きたしと余之を承託す（余帰宅後諸／＼考ふるに此の家ニして四百円は半価額ニも足らず又此の家の屋賃二円五十銭は安けれど四百円ニ対する二円五十銭は高きものと思へり若しや彼れ「等」は慈善夜を笠ニきて私腹を肥やさんとするなるやも知れず或は他ニ何かの理由あるにや何れ尋ね見んと思へり）

大正參年

一月一日 記事なし

二日 本日新年回礼の廻り浅井氏宅ニ行き諸種打ち合せをなす

一、夜学小使給料を廃して此れ迄通り使ふ事

二、夜学裁縫部ニ対し村より支出金なき時は金貳円を支出する事

三、夜学教員ニ対し村より支給なき時は参円宛支■給する事

他ニ教員住宅家屋売却ニ就きて出問をなす彼の家四百円の見積は誰れがせられしやと言へば彼曰ク早瀬氏なりと 余、早瀬氏如何なる見積をなせしや四百円半価額位なる（疊立具附付き）浅井氏勿論安価なり今若し高く買ひ取りならば其の金額は講の方繰まざるべからず依つて安く「価」買ひ取り置き後日高く売りにて四百円以上の金は夜学ニ投す一札を早瀬ニ入れての■買取りなりと、■余然らば後四百円以上ニ売れたる場合ニ其の四百円以上の金額は夜学ニ出金致さる筈なると念を入れて別る

三日 記事なし

四日 記事なし（日曜日）

五日 月曜日 記事なし

六日 火曜日 記事なし

七日 水曜日 記事なし

八日 木曜日 記事なし

九日 金曜日 記事なし

十日 土曜日 本日■補習生師員集夜学開始諸準備を成す

十一日 記事なし（日曜日）

【十一日曉ころ九州桜島大噴火灰燼大坂ニまで及ぶ安永（今ヨリ

百三十四年前）の大噴火ヨリ厳しきよし】

十二日 月曜日 本日より授業開始

十三日 火曜日 本日青年会評議員会開催す

十四日 水曜日 記事なし

十五日 「金」木曜日 本日青年会総会を開く

十六日 ■金曜日 本日休校す（小正月故）

十七日 「金」土曜日 記事なし

十八日 日曜日 記事なし

【（本日小使へ炭俵一俵を渡す）】

十九日 月曜日 「記事なし」本日よりストープを入れる

二十日 火曜日 （本日にて青年会諸帳簿を整理す）

二十三日 水曜日 本日浅井氏前夜学一件二就き（夜学補助金支出停止

云云の件）役場二行けり村長（花井氏）校長（渡辺氏）三人

協議せり 二十七日上田対村長会合の上和解なりと

本日、余浅井氏宅ニ行きしに浅井氏余ニ向ひ此ノ度ノ件は貴

殿が（余ノ事）謝罪して下されずば彼の如き村長故事落着す

る見込なし決してあなたの謝罪が謝罪でない方便ですからた

のむと切ニ余ニ迫り来れり 余曰く私は謝罪する理由は勿論

なきのみならず私が言葉を低くすれば彼村長の言が「信と」

結果として信となり余はどこまでもぬれぎぬを着ざるべから

す、余は断じて低き言葉を出「すのみ」さずのみならず村長

より余ニ向ひ謝罪でなくとも君を誤解して居つたとの一言を

発せざれば余は断じて彼れらに囑託も受けず彼等の定めたる

規定ニ従はず、故ニ今後此の件ニ就き中間的の労は私として

は御断り致し度し

二十四日 本日浅井氏宅ニ行き前の如く話を繰り返せり

二十五日 日曜日 記事なし

二十六日 記事なし

二十七日 本日青年会より夜学一件二対する交渉員を定め会長篠原氏賛

助会員寺田氏二人と定む

二十八日 本日篠原、寺田両氏役場ニ至る。田中校長渡辺氏夜学一件ニ

対し中間的の労を辞退さる本日寺田氏青年会前後評議を集め

て何か協議せらる、本日六年組補習乙組より夜学の為灯提一

個寄附せり、近頃六年及補習乙組は毎週水曜日を期して欠席

生督促ニ巡れり

二十九日 木 本日寺田氏を経て青年代表を以て前後評議連名の上請願

書を持ち来たり開き見れば今日の場合忍ぶ不能当るも何卒

先生の主張をまげて村長の言ふがま、になし置かれたし黒白

は何れ判明せん只勘忍の二字をお守りありたしとの意なりき、

余は此れニ答ふる言葉なく青年会代表者の意に従へり

「本日」三十日 金曜日 浅井氏田中校ニ行きしに■校長は私は最早中間の勞を辞したれば本件ニ対して語るを要せずと 浅井氏更ニ役場ニ行き「ぬ」しに村長「曰く」は浅井氏を目■げきしなが只郡視學と談じ下さいと言ひてろく／＼談ぜずして帰宅せりと 浅井何談ずる事なく帰れり

「三十日」金本日浅井氏学校役場ニテ 三十一日土、二月一日日曜日 二月二日 二月三日 廣崎氏二日よ欠勤(ヌイ氏授業)井上君退職ヲ申出ズ 二日三日中ニ府庁學務課長視察……來ラズ 三日川口ヲ密使トシテ廣崎ノ動靜ヲ……」  
三十一日 記事なし

二月

二月一日 日曜日 記事なし

二日 月曜日 記事なし(井上廣崎欠勤)

「三日」火曜「日」本日京都府庁より學務課長今明日中本夜學を視察ニ來ると郡役所より通知來れり本日廣崎井上兩教員欠勤依つて裁縫教員上田ヌイ氏ニ學科授業をなさしむ

「四日」水曜日「三日」本日井上教員辭職を申出ず余色々談じて一時休職となし置けり本日補習生篠原信次郎氏を補助教員として一時教員として採用す、一二學年を担当せしむ従つて廣崎教員を三、四、五年を担当せしむ

四日 水曜日 本日節分にて欠席生多きため休校す

五日 木曜日 記事なし

六日 金曜日 記事なし

七日 土曜日 記事なし

八日 日曜日 記事なし

九日 月曜日 余本日余郡役所ニ至り「郡」夜學一件ニ対し述ぶる所あり則ち此れまでの事は全部水に流し或るべく早くありたしと全部なげ出したリ

「九日」郡役所至る(余)

十日 火曜日 本日寺田氏浅井氏兩人郡役所ニ行き夜學解決ノ件ニ就キ交渉ヲナセリ、郡視學ハ明後十二日ヲ期シテ村長校長ヲ呼び■解決ヲ付クルト明言セリト

「十日」寺田浅井氏郡役所ニ至

「十二日」六

「青年評議員請願書を役所ニ提出」

「十三日……」

「十日」村長ハ篠原氏ニ向ヒ夜學ノ一件早く解決ヲ付ケラレタシト言ヘリ然ルニ十二日果然其ノ態度ヲ變ゼリ此レ何故ナルカ明カナラズ或ハ又村長ヲシテ少興奮セシムル材料ヲ誰カガ言ヒシニアラズヤ」

十一日 水曜日 (本日紀元二千五百七十四年目ノ紀元節ナリ)

十二日 木曜日 本日青年会評議員一同ヨリ夜學一

件ニ対し此レガ希望ヲ郡長宛ニ請願書ヲ出セリ 其ノ内容ハ 夜學ニ対シ村費補助金停止ハ夜學ヲシテ困難ニ

躍ラシム我等ハ母校ヲ思ヒ貧困児童（昼間就学シ不能者）

思ヒ青年補習教育ヲ思ヒ■又恩師ノ素志ヲ思ヒテ一日モ安ズル不能依「つて」ツテ一日モ早ク此レガ良解決ヲ定

メラレ夜学ヲシテ確立ヲ永遠二期スコト

本日ヲ期シテ解決ナル筈ナリシニ何ノ便モナシ村長又又

何カ興奮セル由

十三日 金曜日 記事なし

十四日 土曜日 記事なし

十五日 日曜日 記事なし

十六日 月曜日 本日夜学ニ於て青年会評議員会ヲ開ク（桜島災害

者ニ対し送金の件）

十七日 火曜日 記事なし

十八日 水曜日 「記事」

十九日 木曜日 記事なし

二十日 金曜日 記事なし

二十一日 土曜日 記事なし

二十二日 日曜日 本日青年会員四名斎藤政吉酒井庄助、篠原信次郎

廣崎政吉諸氏村長宅ニ行けりと（夜学一件ニ就きて）色

々出問せし由此れに答へて大要左記■村長曰ク私は夜

学ニ対し支出する金だけしまりするのだから教員の事や

他の事 小学校長次第なりと言へり、次ニ又出問せり村

長様は上田先生ニ対し夜学経費の乱用とか教員手宛の上

部「とか」を取ると言はれしや、村長之ニ答へて自分は

左様の事言つたる覚へなしと、青年しからば話はまとも

二十三日

り居れりと明日校長ニ面談せんと言ひて帰れり

月曜日 本日■前青年中三名小学校ニ行き校長面談せり、

青年曰ク。昨夜村長様の宅ニ行き聞きたるに夜学一件は

校長様次第と申居られたり故ニ「本日此」其は事実なる

や否やニ就きお尋ねに参校せしなり、校長曰ク私は一月

以来此の話に聞せず

青年 併し村長様には校長次第と申し居られたり（あち

らへ行つてもこちらへ行つてもそけられて困る）

校長 併し此れには非常ニこみ入りたる事状あるなりと

言ひて此れまでの経路を語る（其の経路を語る内稍々

もすれば余の（上田■）をして夜学規定ニ異議を主張し

たように務め居れり）

余中間ニ出ず

校長殿の説明ニよれば余は夜学規定ニ「定めより」異議

を申し「上」たる如き■様ニ遠廻しに主張せらるゝ、が其

は少々異なれりと言へり

青年 経路はよく存じて居りますが上田先生の最も御立

腹は夜学経費乱用教員手宛の上部とか名前詐称とかの件

にて併して村長様に聞けば村長様は一言も左様の事を言

はずと言ひ居られたり之れより推せば誰れか其の申事言

ひたるか或は上田先生の作り事ニ帰するかなり「而して

■上田先生■校長様より」若しや校長様が言はれたるに

あ■らずや

校長 猛然立つて余は左様の事言ひたる事なしと

上田 余は直ちに否と不然余は今日まで本問題二就きて

困しむ其れを明かにせんが為めなり其の言は確かに校長殿より村長斯く言へりと直接余二伝へられたりと小細其の現時を述べしに校長は遂二言ふた事もあるかな——と空とほけをなせり、青年等は益々校長を疑ふ状ありき、兎に角帰て他青年にも談ずると言つて別れたり

# 「二十四日 火曜」

○本日前記青年等婦村夜間「更」評議員会を開き明日を期して更ニ校長ニ談■判せんとて開散す

二十四日 火曜日 本日左記青年更ニ校長ニ談じたり、佐々木浅吉君

篠原勇三郎君、鎌田清三郎君、西村岩藏君、佐々木治三郎君、斎藤政吉君。

青年挨拶の後

夜学一件二就きて此れまでの事は水ニ流し解決を就けられたし■村長は既ニ上田先生の御立腹の事項を言はずと申さるれ「ば事情解決したるなり」夜学「は校」教員の方は校長次第と言ひ居れし故茲ニ校長殿の御推薦により全部解決する筈になりと迫れり

校長 其の事二就き今朝村長ニ相ひ尋ねたる所村長は左様の事は言はぬ郡役所ニ行き然る後校長ニ談ぜよと言つたるなりと則ち郡役所の一ツが諸君にぬけたるなりと

青年 村長殿は二枚舌を使ふものなり郡役所の一言あれば我等昨日郡役所ニ行く筈なり全然校長次第と言はれし故昨日も本日も校長殿に談じるなり而も村長宅ニ行きし

は四名も行き聞誤りなき筈なり然らば更ニ村長二面会せん(但し役場は既ニ村長退出故其の場二面談する不能き)

此の談判中……校長渡辺氏が青年諸氏ニ向ひ此の件のかくまで長引きしは色々の事あり……中ニは上田氏が僕だなければ彼の夜学が「あ」やれぬとか何とか言つたとか何とか言つて(事をあやむやに附しつ、其の間彼の青年にまで余の信用を破■壊すると務めつ、あるかの如く則ち裏面ニ余の彼の夜学をやるの非常ニ■恩ニキセ■てるかの如く言ひ其の觀念を与へるニ務めたり)故ニ余は猛然立つて貴殿は此れまでかかる言を以て絶へず関係諸氏ニ接し裏面ニ余の不信任を売るべく務めらるなり如何ニ恩を受くとも茲ニ於て貴殿の言はる、如く恩ニキせ傲語すると聞かば其の人何と思へるか現在青年を前ニ置き余が■茲ニ於てかゝる傲語をするに聞かは如何なる感じをなすか則ち之貴殿の心中余の不信任を売るべく務めらる、ニあり先ニ郡役所ニ於て早瀬氏を前ニ置き言へる言語の如き(之は早瀬氏余、村長、浅井校長視学)差し向ひの席ニ於て(君は早瀬氏の会長が嫌と言ふのだから云云)皮肉なる言をなせし事「此皆」之れ等を以て「中間的」中済の人■と言へますか寧ろ本件ニ対し益々紛擾を来たす行為なり面前ニ於て斯く如くなれば余の居らざる裏面ニ於ては察する余りありと怒れり校長は遂ニ余ニ向ひ其の言の過言を謝罪せり

青年等は更ニ村長宅ニ行きたり

村長は今日は最早夜学一件の問題のみと青年等は帰村有志集り期する所ありしもの如し

二十五日、青年有志評議會を明晩を期して夜学「先生」父兄会を開催する事ニせり

二十六日 本日青年有志生徒父兄を集め有志代る代る村長小学校長の無責任と言を左右ニして信を置くに足らざるを論し猶上田先生その他ニ転校あれば夜学の不利を激論し茲ニ父兄青年協力して郡長ニ宛て上田先生の留任と夜学の良解決を連名の上請願する事ニ決したり

二十七日 金曜日

本日生徒父兄五十余名青年七十余名調印請願書を作れり

二十八日 土曜日

本日請願書を提出せり(郡長直接に)

三月

一日 日曜日、記事なし

二日 月曜日、記事なし

三日 火曜日 記事なし

四日 水曜日 記事なし

五日 木曜日 本日田中学校長余ニ向ひ職員が君ニ対し心よからざる感じを抱き彼是れ言つてこまるとなど言ひへり

【校長渡辺氏先ニ村長をたきつけ己れの意を達せんとせしが効ならず今や又学校職員をたきつけ居れるようなり】

六日 金曜日 本日余前日校長より聞きしことを職員全部ニ言ひ

且ツ諸君ニして余ニ対し氣に入らざるかとあれば遠慮なく申されし余にして反省すべきは反省もし謝罪することあれば謝罪せん「余は只」諸君「の」にして反感あれば或は夜学一件より無名投書などの事より何か思はるなり余は只夜学の隆盛を計ると青年会の確立と則ち彼部改善ニ他二何の思ふ所もなし此の他投書ニ不信あれば説明せんと言ひて彼れ之れ例を引けり、教員諸氏は何と反感的事もなきよう言ひ居れり、

○本日浅井、寺田氏役所ニ行き郡長ニ面談する所ありき郡長は九日を期して関係者を呼びて解決を附くると言へり

七日 土曜日

本日校長余に向ひ貴殿は前日職員ニ向ひ自分の悪口を言ひし由と言ひて談じれり 余は之れニ向ひさにあらず職員之余に対する悪感は何処ニあるや余ニ欠点あれば反省も謝罪もせんと言ひて諸君の疑ひを解かんせるに止まると言ひ数言をついやせり

八日 日曜日「記事なし」郡役所より注文の夜学規定の草稿を作り寺田氏の処へ清書をまはせり

九日 月曜日

本日郡長ヨリ浅井氏宅ニ夜学解決来る十六日まで延期の通知せり

十日 火曜日 本日金巻円無名ニて寄附ありたり、其の内容夜学今日の場合何かの御用ニ立てられたしと察する所補習生



徒の一人「らしく」ならんかく生徒にして夜学を思ふ念厚きかに感泣せり

「十一日」本日余又職員松川氏ニ対し前日余の言ひしことは校長の悪口ニあらず諸君の疑ひを解かんとするにあり諸君にして何か疑はしき点あれば申されたし 兎に角余は只諸君に對し何の心もなし貴殿より諸君に對しよろしくお伝言ありたしと言ひ猶諸君にして余ニ反感を持たるゝは最早余の罪ニあらず貴意ニまかさんと言ひて別る、松川氏無言何の答ふる所もなかりき

十一日 水曜日 記事なし

十二日 木曜日 記事なし

十三日 金曜日 本日田中小学校職員全部より（但シ校長を除く）

余ニ對し転任「勸」勸告書を提出せり、余直ちに其の理由を尋ねしに職員総代として松川氏曰ク箇条として、

一、傲慢無礼なること

二、長たる者を罵る傾きあること

三、言語居動野卑にして師表の価値な「きによる」し

右三ヶ条の理由ニより勸告するなりと

一、余曰ク右之理由として余ニ勸告されしは勿論捺印の上なれども真実全部の衷心より出づる言なるか否や

殊ニ女子諸君等は決して頼動的でなきか一言こゝに

詰問する、数十分もたつも■女子諸君は無言

二、男子諸君は決して頼動的でな■いだらうが而し各自、自己を「顧みて」顧みて自己自身「が分」の居動が

師表の価値ありと信じて余に勸告されしか否と詰問せしに此れ又弁明の限ニあらずとて回答せず

三、然らば余は諸君にして自信ありとすれば余は大ニ諸君の居動ニ■就きて尋ぬる所あり又諸君の■言動を社会に發表して諸君は苦しくなきかと強く詰問せしに何れも無言になれり、諸君の勸告書は勸告ニあらず■して人身■攻撃なり

四、余「直ち」急ち和風甘雨の如き色を著はし、諸君諸君にして何の考ありてかく余を極言せしや余は諸君に對し可もなく不可もなしだ諸君角ばりたる事をせず置き玉へ「何」まづ／＼よく考へて何にかによらずやり玉へと言ひて帰る

一、本日本村内卒業生は全村卒業生ニ談すべく他字卒業生を訪問せし由、其の■旨意とする所は我等の部落にして上田先生を他ニ転ぜらるゝの不利を思ひ他字卒業生談じ所謂輿論ニ訴へて師ノ転任を防止せんとせしなり

十四日 土曜日 本日 青年（卒業生は）は又他字ニ出張せし由

（○本日本村中校ニ於て職員（男）校長、村長午後九時半頃まで何か相談せし由）

十五日 日曜日 本日卒業集會を（全村）開きたり（本字卒業生主催）何か郡長宛ニ訴ふる所ある由

十六日 月曜日

本日浅井氏寺田氏郡役所ニ行きしに郡長又も不在郡視学ニ談じ更ニ校長ニ面會の為小学校ニ行き二時間ばかり談

ちたり

一、校長は校長次解決つくと言ひ郡視学は本月一日より解決の筈などと言ひ何れも語あいまいにして帰する所校長二あとと言ひ校長自身は又郡視学二ぬりつけ又村長の不信を言ひ互二ぬりつけあひの如しと兎に角更二十九日を期して総会合をすると「言ひ」言ふことになれり本日青年諸氏は本日の結果の延期「を」二不満を抱ける

■もの、如し

十七日 火曜日 記事なし

十八日 水曜日 記事なし

十九日 本日夜学一件二就き各関係者郡役所呼ばる

一、郡長は鈴木学務員より村長校、余、視学其れ／＼の意見を聞き取らる

二、其の後直ちに村長校長視学三名は鳩首一時間余別室二談じ居れり

三、次二視学より余二向ひ後日の為一札書かれたしと余は直ちに左様の一札は書くにも及ばす余は断じて書かぬと言へり然らば郡長二語らるべしと余直ちに郡長二語りしに郡長二は余の意見を至当と見られたり、何れも開散せり

【十九日役所行 二十一日 二十二日】

【一札云云は師として立たしめざる如き簡条を書かしめとせり又夜学問題の罪は余一人二婦せしめんとする簡条をあり】

二十日 「記事なし」 二十一日 二十二日 記事なし

【二十一日余学務員河窪氏を尋ね学務会の模様を尋ねん学務員会

二於て校長は虚偽言を多く言ひまわし居れり】

【二十一日】二十三日 本日夜学一件二就き寺田氏小学校長渡辺氏を尋ねらる、其の時校長の言二夜学問題解決つとも此ノ「度」四月よりは村補助十二円なり則ち教員二名分なりと而して代用教員廣崎氏の待遇は村有志の事もあれば半額に致さん見積りなりと村長は言へりと語れり 余にもかく語れり

二十四日 火曜日 本日校長より余二向ひ貴殿一度村長二語られたし

と言へり故二余村長二面談す 夜学解決如何と尋ねしに村長は未だ誰れも余二向ひ君が夜学規定を認めると言ひ来らず余直ちに認める云云は去年九月既二貴殿を再三尋ねて之れを言へり「村長之れ二対し然れトモ貴殿は郡役ニ於て之か」村長……………遂二日を争ふ様二尋れり

二十五日 「記事なし」

【二十六日】 本日六年組補乙三人より金五十銭夜学二寄附せり又浅井せい氏より金一円夜学二寄附せり

二十六日 本日卒業終業式を挙行す、前無名寄附金一円及前日の寄附一円五十銭と合して二円五十銭を以て出席精勵者二対し賞品を授与せり

○本年度中就学者二百六名なり

二十七日 本日校僕長田弥次郎暇を取りて転居す

二十八日 記事なし

二十九日 記事なし

三十日 「記事なし」

「三十一日」 本日余府庁二行「本夜」府視学二面会を求め本夜学ノ窮  
状を訴へ本村細民教育ニ関する件ニ就キ就キ相談す府視学は手  
続きをふみて府補助を受けらるべしと言へり

三十一日 記事なし

四月

一日 本日浅井せい氏寺田清四郎氏余と三名府庁ニ出頭種々協  
議す（府視学と共に）

二日 本日青年会主催村民大会を開ク明細は青年会日誌ニ記載  
せり

三日 記事なし

四日 夜学始業式をなす

五日 日曜日 記事なし

六日 月曜日 記事なし

「八」 七日 火曜日 記事なし

八日 水曜日 記事

本日松下篠原両村会議員来校明晩村民集会のはこびつけ  
られたしと言はれたり依つて其の手續きをなす

九日 木曜日 本日村民大会を開ク

一、夜学を村■役場ニ■貸すの一件延期となる（勿論  
下相談ニ止る）

二、夜学計費交渉の報告

三、更ニ前決議文を提出することを交渉委員ニ迫れり

十日 金曜日 本日松下篠原両氏交渉の結果を伝へくる……

十一日 土曜日

記事なし

【十一日皇太后陛下崩御せらる】

十二日 記事なし

十三日 月曜日 記事なし

十四日 火曜日

本日村内有志田中小学校長の不信任を鳴らし同校長の転  
任勧告書を出せし由

十五日 水曜日 記事なし

十六日 木曜日 記事なし

十七日 金曜日 本日交渉員松下、篠原、寺田外浅井四氏明日村長  
ニ対する答弁ニ対する協議会を開ク（毎日新聞記者来た  
る）

十八日 土曜日 同交渉ニ出でたり然るに村依然上田氏の此の規定  
を認むる調■印の必要を迫れり

十九日 日曜日

本日柳原助役渋谷万一郎氏来る其の言ニ先月渡辺校長我  
が村ニ来り上田氏の転任■を此村ニ受けられたしと言へ  
りと「村」其の理由ハ上田氏と田中学校長と中悪しき故と  
渋谷氏村長より貴殿ニあらずと言ひ又本町学校ニ上田  
氏を迎ふるは同氏の承任後ニあらざれば迎へ難し■依て  
同氏ニ談ぜんと言ひしに渡辺氏は否上田氏ニは必密■の  
事なりと言ひて来れりと同氏より言はれたり

二十日 月曜日 記事なし

二十一日 火曜日

本日夜学一件ニ対する記事大坂毎日新聞記事ニ現れたり

二十二日 水曜日

本日同続き記事新聞紙ニ現はる

二十三日 木曜日

本日も新聞記事現はる

本日は毎日時事新聞

〔二十四日〕

本日村長より余ト廣崎二名ニ対し夜学講師の推薦書来る

二十四日

本日廣崎ハ夜学講師の辞任ヲナス

二十五日 土曜日

二十六日 日曜日

二十七日 月曜日

余本日村長ニ向ひ、

貴殿は余を特殊部落の出身故其の積ニて彼の性格を判断下されたと云つて毎日新聞社へ行かれし由同社員より

余は聞きたり事実なりやと尋ねたるニ村長之れを否定し

余は断じて左様の事言つたる覚へなしと言へり故ニ余は

抗議を申し込むニあらず若しか様の事を言はるとせば我

が出身地の名誉を陥損するのみならず余が師として■し

て立つに被害を受け引きては村長自身より村の秩序を乱

すると思はる而し否定されるれば抗議を申し込むにあら

ず……………(いろんな噂が立つて世は面白いものである)

【村長ハ校長渡辺氏の口上手にして誠実なきを知りたる模様見ゆ】

二十八日 火曜日

記事なし

二十九日 水曜日

記事なし

三十日

木曜日 本日生徒伊藤、丹波喧嘩をなし、伊藤が丹波の頭

を「頭」硯石ニて撲打し鮮血□ニ出血ニ及びたり、直ち

に緋帯をなし与へたり

【四月三十日 丹波、伊藤喧嘩ヲナス】

五月

一日 夜学世話人「開」会を開く

【五月一日世話人の集会】

二日 記事なし

三日 記事なし

四日 記事なし

五日 記事なし

六日 「記事なし」 本日奥村郁太郎君を本校教師ニ嘱託

す

七日 記事なし

八日 記事なし

九日 記事なし

一〇日 記事なし

十一日 「記事なし」 本日寺田氏田中校ニ至り夜学教員推薦一件ニ

就き交渉ニ行かる

【五月十一日又モ余の不信任を郡役所ニ投せしものと而し

て投書者白の三すち生とありたりと】

十二日 記事なし

十三日 記事なし

十四日 記事なし  
十五日 記事なし  
十六日 記事なし  
十七日 記事なし  
十八日 記事なし  
十九日 火曜日 記事なし  
二十日 水曜日 「記事なし」

本日本学全部トラホーム患者治療ニ関し有志の家を巡れり、日を期して集会を開き協議せんと、

二十一日 木曜日 記事なし  
二十二日 金曜日 記事なし  
二十三日 土曜日 本日生徒余を集め明日憲照皇太后陛下の御葬式ニ就き一場の訓話をなす

二十四、二十五、二十六日三日間廢朝ニ就學校を休む

二十七日 水曜日 記事なし  
二十八日 木曜日 記事なし  
二十九日 金曜日 記事なし  
三十日 土曜日 記事なし  
三十一日 日々 記事なし

記

一金六十三銭 預 大正二年 十二月初め 浅井氏より  
内支出 一金二十三銭 正月しめかざり  
七銭 井つるべ縄

八銭 ストープおつけ  
九銭 朱一個  
〃 式拾銭也 職員出勤簿  
支出會計ノ六十七銭也 不足四銭也  
「一金老円也無名寄附金預り大正三年三月一四、支出内一金四銭也前分不足支払ひ「内」一金八拾九銭也 他部落卒業生徒集会代」

「丹波いく 以上八名浅井氏より  
丹波岩蔵 の香錢返し一人紙  
大島愛之助 二十枚宛渡し住  
増田富松 所不明の為め未だ  
篠原亀吉 渡さず当分夜学  
小寺円之助 内預り  
丹波定吉  
松田ゆめ 相済み」

【補習生販売部】

| 預金月日      | 預金高   | 支払高   | 差引残高   |
|-----------|---|-------|--------|
| 四十四年十月〇日  | 一金貳拾五錢  |       | 一金貳拾五錢 |
| 〃 十月〇日    | 一金拾五錢   |       | 一金四拾錢  |
| 〃 十一月二十五日 | 一金拾錢  |       | 一金五拾錢  |
| 〃 十二月二十九日 | 一金拾錢  |       | 一金六拾錢  |
| 〃 十二月八日   | 一金拾錢  |       | 一金七拾錢也 |
| 〃 十二月十二日  | 一金拾錢  |       | 一金八拾錢也 |
| 四十五年二月十五日 | 一金拾七錢   |       | 一金九拾七錢 |
| 〃 三月四日    | 兼原寅吉ストープニ<br>て負せしを以て其の<br>代葉代及母へ合計八<br>拾錢与へたり | 一金參拾錢 | 一金六拾七錢 |
| 〃 三月五日    |   | 一金五拾錢 | 一金拾七錢  |
| 大正元年      |   |       |        |
| 〃 十一月二十日  | 一金五錢  |       | 一金貳拾貳錢 |
| 大正三年一月    |   |       |        |
| 〃 二十八日    | 一金壹錢  |       | 一金貳拾參錢 |

「一金「五」八拾錢 兼原氏寅吉の葉代の為寄附せり及び五拾を母へ  
与ふ」

【広田伊三郎 明治四十五年】

(以下抹消)

| 預金月日   | 預金高    | 支払高 | 差引残高    |
|--------|--------|-----|---------|
| 一月二十九日 | 一金七錢也  |     | 一金七錢也   |
| 一月三十日  | 一金參錢也  |     | 一金拾錢也   |
| 〃 〃    | 一金四拾錢也 |     | 一金五拾錢也  |
| 二月二日   | 一金貳拾參錢 |     | 一金七拾參錢也 |

|       |       |        |         |
|-------|-------|--------|---------|
| 二月三日  | 一金貳錢也 |        | 一金七拾五錢也 |
| 二月五日  | 一金參錢也 |        | 一金七拾八錢也 |
| 二月十二日 |       | 一金七拾八錢 | 零       |

【木下吉松 明治四十五年】

(以下抹消)

| 預金月日   | 預金高      | 支払高   | 差引残高    |
|--------|----------|-------|---------|
| 一月二十七日 | 一金拾六錢也   |       | 一金拾六錢也  |
| 〃 二十九日 | 一金拾壹錢也   |       | 一金貳拾七錢也 |
| 二月二日   | 一金「參」五錢也 |       | 一金參拾貳錢也 |
| 二月五日   | 一金貳拾錢    |       | 一金五拾貳錢也 |
| 二月二十二日 | 「一金」     | 一金貳拾錢 | 一金參拾貳錢  |
| 三月十四日  |          | 一金拾貳錢 | 一金貳拾錢   |
| 三月二十二日 |          | 一金貳拾錢 | 零       |

【宇津木ハル 明治四十五年(大正元年)】

(以下抹消)

| 預金月日   | 預金高   | 支払高     | 差引残高    |
|--------|-------|---------|---------|
| 一月二十日  | 一金五拾錢 |         | 一金五拾錢也  |
| 大正元年   |       |         |         |
| 八月二十二日 | 一金參円也 |         | 一金參円五拾錢 |
| 十一月 日  |       | 一金參円五十錢 | 差引零     |

日誌

高向村字高向

曾和熊造様方

曾和登太郎様

高向村字瀧畑

正膳 方

正膳瀧之助様

田中親友夜学校

【凡例】

- 一 原文の旧字・俗字は常用漢字とした。
- 一 判読不能または難読字は□とし、文字数分置いた。また抹消字で判読不能の場合は■とし、文字数だけ置いた。
- 一 訂正された文字は「」中にいれ、訂正した文字をその下に置いた。
- 一 欄外の記述は【】の中に入れ、当該日と思われる横に記した。
- 一 原文は一行罫紙を使用しているが、罫紙の枠などは無視した。
- 一 誤字・脱字などがあるが、特に正字の訂正はしていない。
- 一 月の変わりは、原文が一行あけていなくとも一行あけた。
- 一 原文の中で、一部に現在では差別のおよび不適切な表現があるが、歴史的資料としてそのままとした。

大正参年六月以降

日誌

親友夜学校

蒼天如圓蓋

陸地如基局

世人黑白分

往来争榮辱

榮者自安々

辱者定碌々

南陽有隱君

高眠臥不足

大正三年

六月

一日 月曜日

明二日、青年大会及夜学講演準備を成す

二日 火曜日

本日午后七時半より青年大会講演会を開く

1、集会人員 青年会員 男七十二名

夜学生 約百名

青年女子 約二十名

一般人 約三十名

右外小供 約五十名

2、講師 西本願寺布教師 加藤徹玄師

余興 薩摩琵琶演奏者 清水秀次郎君

外一名

3、会後、青年会員の打ち合せ

例会の打ち合せ

夜学題問ニ関する報告

前評議員会の報告

会員募集ニ関する件

会員善行者者ニ関する褒賞之件

4、本日 会費

一、金壹円 講礼金

一、金二十七銭 茶菓子蠟燭通信等 青年会費より

右

【本日、田中校訓導柴原氏が生徒をなくったとか何とか言ひて其父夜学ニ来る。諸種話す。】

三日 水曜日 (暴風雨 少か電燈ニ故障生じたり)

1、会場の後じまりをなす

四日 木曜日 記事なし

五日 金曜日 記「曜」事なし

六日 土曜日

本日、話ヲ成ス

一、伽嘶話 王子の蛙

二、雄飛 蜜地ニ入りたる青年 喰人々種との奮闘

七日 日曜日 記事なし

【七日 本日元鞍馬口村長榊野氏余ノ宅ニ来ル。田中村長候補ノ運動

ラシク見ヘタリ】

八日 月曜日

廣崎教員忌引欠勤 奥村教員欠勤

本日、大暴風雨ニテ電燈ニも故障生じたり

【本日、村内土方喧嘩ヲナシ頭蓋骨ヲ打タレ、生命覚ナシト】

九日 火曜日

廣崎君忌引欠勤

十日 水曜日

廣崎君忌引欠勤

十一日 木曜日 記事なし

十二日 金曜日 記事なし

十三日 土曜日 本日、波部貞次郎(現在は小西姓。余の同窓)參觀ニ

来る。

本日、六年生丹波仙三郎、授業中不行儀の事ありし為、

訓誨す

十四日 日曜日 記事なし

【十四日 本日、新聞紙上ニ本郡長兼田義路殿依頼免職の事記載ありたり。同郡長は本部落の為、他部落ニ比し殊ニ尽力せられし人なり

し故、何謝意を表せんと考慮せり】

十五日 月曜日 記事なし

十六日 火曜日 本日、生徒篠原亀吉を厳しく訓戒す



十七日 水曜日 本日、郡長辞職ニ就き何か餞別をと思て二三協議す。

同意を得たるを以て 回章を作る

十八日 木曜日 本日、元自彊会役員ニ対し回章を巡付したり。賛成、

不賛成交ニありたり

十九日 本日、松下、篠原、岡村、西村和諸氏郡長餞別一件ニ対し不賛

成の理由を申し出でらる。則ち前署長庵「長」谷、前校長木村

氏ニ対しては何の餞別もなし居らず。然るに郡長「に」のする

は先の人ニ対し少か面白からず。而も前夜夜学一件ニ就きては

郡長として誠意乏しきかと思へり。茲ニ同伴は見はすこと、

せり

二十日 土曜日 記事なし

二十一日 日曜日 記事なし

二十二日 月曜日 記事なし

二十三日 火曜日 記事なし

二十四日 水曜日 記事なし

二十五日 木曜日 記事なし

二十六日 金曜日 記事なし

二十七日 土曜日 記事なし

二十八日 日曜日 記事なし

二十九日 月曜日 揖野氏来る

【六月二十九日、揖野氏来る】

三十日 火曜日 元本郡長兼田義路氏宅ニ行、御在職中我が夜学ニ対す

る御尽力謝礼ニ行きたり（但シ余個人として）

【六月三十日、兼田元郡長宅ニ行く】

七月

一日 水曜日 記事なし

二日 木曜日 本日、田中校長、渡辺氏、松川氏、外ニ東松、上月氏

来校せり

【七月二日、渡辺校長、松川訓導参観の為来校】

三日 金曜日 記事なし

四日 土曜日 中山氏来校。一場の話をなす

五日 日曜日 記事なし

【本日（六月五日）高左右氏の飛行器、京都を経て本村空上ニ来る】

六日 月曜日 記事なし

七日 火曜日 記事なし

八日 水曜日 本日、奥村君欠勤の為め中山君ニ教授依頼せり

九日 木曜日 記事なし

【九日、本日内閣総理大臣大隈伯入洛。議堂ニ於て国民教育ニ就き演

説ありたり（伯爵歳既二十七、中々元氣者なり）】

十日 金曜日 記事なし

十一日 土曜日 記事なし

十二日 日曜日 記事なし

十三日 月曜日 記事なし

十四日 火曜日 記事なし

十五日 水曜日 記事なし

十六日 木曜日

十七日 金曜日 記事なし

十八日 土曜日 記事なし

十九日 日曜日 記事なし

二十日 月曜日 本日、村内住民にて親戚なく、身寄なき孤独のものにて極貧者（五十八、九の「母」女）ニ病氣ニかかり困窮名状すべからざる者あり。依て青年会より金壹円を与ふ。猶、無代医師にかゝり得る様、手続き中。

【近頃八十七年振りの暑さにて、夜学も随分暑くて困りたり】

二十一日 火曜日 記事なし

二十二日 水曜日 本日、夜学集会に関する集会の通知を發す

二十三日 木曜日 本日、夜学世話人会を開く

決議

一、夏季休業、例年通七月二十五日より九月四日までとす

一、夜学維持費ニ関する件

（イ）年額八十円とす（但し時二より多少増減あり）

（ロ）年額収入方法

一、金貳拾四円也 夜学借屋 屋賃

一、金貳拾貳円也 教員寄付（但し教員有増かつ□ニ於て）

一、金參拾四円也 青年会より補助を迎へてを結ふこと

右、

二十四日 木 記事なし

二十五日 土曜日 本日より夏季休業とす

二十六日—三十一日ニ至る記事なし

【七月三十一日、休暇のため余、故郷ニ帰省す】

一日ヨリ—二十六日ニ至ル事なし

【八月十九日、余、帰省中、余の郷里を去る二里余、南新堂なる細民部落ニ行き同部内ニ於ける改善事業ニ就き視察せり（同部内泉原氏ニ面会す）】

【八月二十五日、帰京す】

【八月二十三日、日本ハ独乙国ニ宣戦せり】

【欧州大戦乱中、独塊ニ対する仏、英、露、白塞而シテ我が日本、我が軍の向ふ所は支那膠州灣の要塞独乙軍なり】

二十七日 木曜日

本日、浅井氏ヨリ夜学維持費皆無のため九月ヨリ夜学を閉校あり  
たしと申し来る

二十八日 金曜日

本日、余、浅井氏宅ニ行き、従来よりの維持費皆無にて開校出来ざれば、余ハ村内青年会と計り、維持せんと言ひて兎に角、従来通り開校する事ニ決せり

今や夜学の現状ハ講会整理の不調ニ就き、既ニ校舎を抵当として壹千七百円の負債アリ。維持費ハ皆無にて、且ッ去年九月以来夜学問題未だ全部解決せず。僅かに村費教員手宛拾貳円を受くるのみなり

【二十八日、田中村村長改選となる。非常の入り込みたる諸問題起り、種々協議の結果、郡役所首席書記平井次之氏ニ当選せり】

【欧州戦乱益々發展し、英仏連合軍不利にて仏国巴里既ニ危し】

二十九日 記事なし

三十日 記事なし

八月

三十一日 記事なし

九月

一日 火曜日 記事なし

二日 水曜日 記事なし

三日 木曜日 本日、夜学大掃除をなす

四日 金曜日 本日も夜学大掃除をなす

五日 一、土曜日 本日より前奥村訓導退職。其の代りとして田中校訓

柴原廣太郎君を囑託す

二、本日、青年会評議員を開く

夜学維持方法ニ就きて

前夜学世話人会同様

三、「岡」■本日より夜学開始す

六日 日曜日 記事なし

【四日、六日二回、我飛行器より膠州湾市街の上ニ飛行し、爆弾を投下し敵軍を寒からしめたり】

七日 月曜日 本日、委員会を開き夜学維持費有志とおぼしき人を四十名ばかり選定す

【七】八日 火曜日 記事なし

九日 一、本人、我が夜学ニ対し兩傘式拾五本寄付を申込む無名人ありき。依て右寄付を受くる事とせり

二、評議員会開催せしも不參者多き為流会す

九日 本日、左記要項を記載せる配布、村有志ニ配布す。

拝啓、夜学校其の後益々維持困難を來たし、今や閉校か又諸賢

の御援助如何ニより開校を続行し得るかの運命ニ相成り候、就きては来る十二日午后七時夜学ニ於て諸賢と共に協議会開設致し度候故、御足勞ながら同刻御集り下され度願上候

九月十日

親友夜学校

殿

配布人名左記 殿 大島末吉 殿

鍵田伊兵衛 〃 山崎庄次郎 〃

全 谷藏 〃 〇井上末藏 〃

全 民之助 〃 吉田仙松 〃

全 亀次郎 〃 佐々木由松 〃

大島音次郎 〃 長谷川勝次郎 〃

〇木村小三次郎 〃 佐々木藤五郎 〃

〇廣崎鉄藏 〃 若井梅藏 〃

大谷弥三吉 〃 斎藤治三郎 〃

篠原梅藏 〃 井上弥助 〃

〇篠原重三郎 〃 朝岡実藏 〃

笹村常藏 〃 朝田幾之助 〃

酒井民之助 〃 井上筆松 〃

川口松次郎 〃 西松善助 〃

平田寅吉 〃 〇石島安吉 〃

〇西村和藏 〃 野村音松 〃

榎本岡藏 〃 西村新太郎 〃

全 円之助 〃 仲原平三郎 〃

和田直藏 〃 佐々木藤三郎 〃

全 鯛次郎 〃 斎藤幸次郎 〃

○吉田由松 〃 松村円三郎 〃

早瀬仙之助 〃 平田定次郎 〃

全 円蔵 〃 川合弥三吉 〃

笹村新工門 〃 松浦慶之助 〃

中川吉次郎 〃 井上民蔵 〃

○浅井「みね」せい 〃 寺田清四郎 〃

○岡村音次郎 〃 長田幸次郎 〃

吉田清三郎 〃 岡本喜三郎 〃

山田幸次郎 〃

十一日 金曜日 記事なし

十二日 土曜日

本日、有志「集」集会を計りしも、集る人催かに四「み」名のみ。

松下清三郎氏、寺田清四郎氏、吉田由松氏、榎本円三郎氏なり。

故二明日委会を開くを期して流会す

十三日 日曜日

本日、委員（夜学世話人側 松下清三郎氏、寺田清四郎氏、青年会側 佐々木治三郎氏、西村岩蔵氏）会を開くべきに又々集るもの催かに一人。依つて流会す。

#### 一、余の諸感（上田静一）

先二花井村長、渡辺校長（田中小学校）の攻撃を受けて之れ「を」と戦ひ、花井村長の元迷をくちき、渡辺校長の私欲を逞せんとする録を屈服せしめ、本夜学の安泰を計「りしに」る事を得たりしに、今や又、此れが維持と戦はざるべからず。

今日、四十余名の集会を催せしに集まるもの僅かに四名。抑も本村内教育状態たるや、通常一学年二入学するもの六十余名あるに、六年生に至れば僅かに二、三名の少なきに減す。則ち完全二義務教卒（尋常小学卒業のもの）業するもの二十分の一二過ぎず。かゝる現状（否、過去永々ニ於て皆かゝる有様なりき）を傍観視し、当局其の責任を果さ「す」ざるか。実ニ慨嘆の至りに堪へざるなり

#### 二、

親しく村内輿論を総合するに、四十名の集会ニ僅かに四名の集り。此の間、其の集らざる理由として、

1、本夜学は慈善教育講の創「役」設にかゝはれり。講会半ば終りを告げしと言へ、彼の講の純益たるや巨額の金あるべき筈なり。正金なしとするも、何か有価物のあるべき筈なり、又百歩百十歩も譲りて右価物なしとするも、本夜学の土地建物永遠維持すべき責任「ある」なかるべからず。然るに講員ニは多大の損害をかけ「今や」夜学は抵当ニ入れて金をかり、猶維持困難なりとて直ちに之れを村内ニ負担せんとする。猶ほ之れも百歩二百歩を譲りて之れが負担ニ堪ふるとするも、本夜学校舎、建物抵当ニ入れたる者なれば、何時如何なる結果ニなるやも知れず。吾れ等かゝる浮雲の如きものに僅か十銭の金にても出金するに心よしとせずと言ふが如し。

本日、柳原町ニ出張す。藤岡方、浅井氏ニ面談の爲め出張せしも不在の爲め其の意を得ざりき。

十四日 月曜日 記事なし

十五日 火曜日

一、本日、斎藤政吉氏ヨリ紙二百四十枚寄付せらる。

本日、村内各個ニ就きて意見を纏めんとせしも果さざりき。故ニ更ニ明晩を期し、世話人召集の手續きをなす

十六日 水曜日

一、本日、夜学世話人会開催すべく其れノ通知せしに集るもの只三人

人（■佐々木、篠原勇、寺田三氏）のみ、為めに流会す

十七日 木曜日

一、記事なし

十八日 金曜日

一、本日、兼てより再三登校を促がせし浅井せい氏來校。（夫、藤岡

豊三郎氏同道にて）（浅井せい氏は現今藤岡ニ嫁き居れり）

余、浅井氏ニ向ひ、左記忠告をなす（藤岡氏も此れを聞き居れり）

（其の場の列席者は教員柴原、廣崎、藤岡、浅井、余と五人）

本日、貴女の登校を促せしは夜学の「処」所決ニ就きて申し上げたき故なりと先づ言を開く

一、夜学ニ対して如何なる所決ニ出するやニ答へて、維持金なく村内有志金を得られずとすれば休校より止むなしと答ふ。而して其の後如何ニ所置せらるゝや、と言ふに答へて、如何にもして本夜学を浮物ニして提供したきも止を得ざれば廢校の悲運も致し方なし……と答ふ。

二、茲ニ余、忠言を入るとして左記事項を語る

1、余、つらく考ふるに貴女が此の度取るべき万善の策は只一つあり。曰ク、自己財産中ヨリ貳千円の金を出し、夜学ニ対する借金を支払ひ夜学建物備品全部を西田中村の公共物として提供

するニあり。（浅井氏、藤岡氏驚然たる態度「にて」をなす。

浅井氏は此れまで講法ニ対し夜学ニ対しての苦心を語りて講会ニ対する他役員の無責任を述べ、自分独りかゝる難事を受くるの不当らしき語句「列を多語」とに多言を列挙す。藤岡氏も自分も浅井氏と姻戚となりし為め、多大の迷惑を蒙れりと述ぶ。

余、曰ク。藤岡氏の御迷惑察するに余りあり。■個人として同氏ニ対する御迷惑は万々察すれども此れを以て本夜学ニ対する確立策を變じ難しと言ふ。

2、余、此の忠告を成するは只夜学のみ確立を計り、他の総てを顧みざるかと言ニはあらず。総てニ於て最善の策と深き思慮より「立論」遂究せる結果なり。若し此の夜学をして維持金なしとして休校し、貸し金徴達出来ずとして廢滅せしめたりとせんか。先づ

第一、二百有余の不就学細民■児童は将来殆ど無学の徒となりて当人の不運は言ふに及ばず、此の村の改善は如何ニして成し得らるか、実ニ傍觀視する不堪なり。

第二、貴女が父、細民救済を標榜して斯く大仕掛けの講法を組織し、今日までの苦心水泡とならん。貴女が此の素志を「慣」貫徹してこそ父も安らかに永眠出来得る筈ならずや。若、此の校を廢滅せしめんか、父は何を以て地下ニ永眠出来得るや第三、本校をして廢滅せしめか、世人は貴家の父子則ち貴女と貴女が亡父を目して何と評するや。浅井父子は貧民を種二使ひ、慈善を笠二かぶり、救済を標榜して講法を結び、何の成す所なく只自己の腹中を肥やせし者なりと言はん。

第四、本夜学ニして一物を残さず廃滅したりとせんか、村内細民は貴家を目して何とのろふや。則ち彼れは「等」吾等細民をして自己■腹中を肥さん道工ニ使ひ、今や甘き汁の出でざるだしからとなれば顧みざるなりとして永遠貴家は細民怨府の中心とならん。

第五、嘗て本校創立の際、青年会員百五十名ばかり夏八月、酷熱をも意とせず夜学の創立を喜びて加茂河より砂利を選びて地盛をせしにあらずや。又夜間作業を成して本夜学の為め尽せしにあらずや。此れ「の」皆、夜学創立を喜び、殆ど己れを忘れて働きたるにあらずや。今に至りて貴女が所有権を以て本校を廃滅せしめたりとせか、青年生徒は如何■なる感じや。浮ばん子孫永遠ニ貴家をのろいて止まざるなり。慈善救済の標榜なればこそ青年生徒も斯くまで致せしなり。

第六、本校ニして廃滅せんか、■五千有余の講員は如何なる感を成すや。抑も本講会拾壹組講会の金を動かす、実に四、五拾万の巨額ならずや。此の大金を運転して「猶具」一物も残さずとせば、会員は何と思ふや。猶ほ会員ニは其の掛け金の半額を渡して開散せしにあらずや。「例へ」例へ貸付金に損失を生じ、廻収意の如くならず「とするも其は貸付け当時ニ於ける先見の明なき責めを免れず」と弁明するも永久疑念を以て貴家を目するにあらずや。

第七、先に貴女が父命旦夕ニ迫れる時、余如何にもして其の筋の表賞を受けんと思ひ■ホン走する所あ「る」りしも、其の筋はやはり疑念を以て注目し居れたり。為二其の表賞も受く

る不能き。然る今、本夜学さえも無きものにせんか、「全く」貴家は全く■其の筋よりも疑念の中心とならん。

浅井氏つく／＼聞き居たりしが、口を開きて：

先生の言の如く思へばこそ、父死後今日まで維持せしなり。又、今日式千円の金を出し、且ツ夜全部を提供せよと申さるも、私の家財産は皆無ニして、生活ニも遂はる状態なり、と言ふ。故ニ余又曰ク、貴女の謙遜の辞も甚だしきかな。貴家にして生活難は実ニ取受れざる話ニして、論外の事なり。而し此れも遂究せんか。

第一、若し貴家ニして生活難に達はるとせば、貴「女」女曾て壹万円か「の」らの金を立ち所ニ徴達せしにあらずや。貴女皆無の財産ニて何を以て壹万円を借り入る、信用ありや。又、父存命の時ニも父は「直ち」立ち所ニ数万の金を徴達せし人なり。無資産ニして出来不得現象ならずや。

第二、貴家の家屋、服装、生活万般を目して無資産人の成し得る限ニあらず。

則ち、之れ等を證議的ニ述ぶるは時間を徒費する愚論なり。■然し余の斯くの如き忠告を成すは敢て貴家出来得ざる難題を持ちかくるものにあらず、祖先伝来の財産を傷け出金を忠告するものにあらず。

1、抑も本講会ニ於て集りたる巨額の金を更ニ他ニ貸し付くる場合ニ於て、其の金の世話料として貴家は「多」必ず若干の金を受けしならん。之れ実は何も人に恥づる収入ニはあらず如何。

△浅井氏之れ二答へて、其れは当然の事故、受けたり

2、然らば、何程の歩合にて受けしや。世間普通最低「2%位」貸金ニ対する2%位と聞きしが如何。

△浅井氏及藤岡氏同音にて、其れは金の運用当時の「融」融通難易、金の必迫如何ニより手「数」数料ニ高低あり。

3、兎に角、貴家は其の金を貸付くる場合、其の中間者、則ち世話人として手数料を受けしならん。

△浅井氏、其れは当然受けたり。

4、然らば今其の手数多少く受けたりと思ひ切らば、出金し得る筈なり。

△浅井氏、左様ニ簡單ニ申さる、も、其れには其れとして費用も入る事なり。又、此れだけの大事は速座に答へ難し。兎に角、未だ本夜学を売却すると言ふ事は念頭ニあらず。

5、其れは最も事なり。速座ニ「回答」快答を求むるものにあらず。貴女も十分ニ考へ、余が御忠告の当然と余の衷心より出する万善の策なることを理解せられたし。

7、若し之れを容れられ、夜学校全部を提供せらるれば、貴家永遠の幸福と村民の喜び、又、貴家「は総ての疑念」二集「中」注せる総ての疑念晴れて貴家は暗雲晴れて青天白日の如く万代ニゆるぎなき家の基を定めらる、ならん。其の筋も貴女の父が功を表せらる、ならん。

△浅井氏、私より若し提供する■彼の無責任、不熱心なる他世話人と揚賞を供にするは実ニ残念なり。

8、否々、しからず。余は後日此の事あらんことを斯し、三年

前貴女の父、臨終の時、各世話人の功績を明記し有り。若し

■余が忠告を快託せられし曙あらんと思ふ。余、責任を以て各世話人の功を正し、真ニ功績ある人を功労者として公明なる載断を敢て成す事を引き受くるなり。

9、兎に角、熟慮して此れが決心■有りたし。依つて余、其の熟慮中として其の期間、余本夜の維持を引き受けん。先一ヶ月間其の期間「として」とせん。

10、猶ほ其の後、更に定まらざれば今一度忠言を申さん。其の時は今日より以上ニ深く広く申上げん。

△兎に角、本夜学を継続成し居られたし、と言ふへり。

「時々ニ」時、既に拾貳時を告ぐ。会谈二時間半ニ及ぶ。「散」■共ニ散会す。

十九日 記事なし

二十日 日曜日 記事なし

二十一日 月曜日

本日、青年会■役員会を開く

本日、青年会役員会開会

#### 議事

今や親友夜学校は維持困難ニて閉校するか廢校するかの場合となりたり。依て本会は夜学ニ対方針を定めん為協議す。

1、本会は夜学維持ニ先ち夜学根底を定め為、夜学として村及或る「共供所公供」公共物となすこと

2、公共物となさんには現所有者たる浅井氏ニ対し、公共ニ提出することを勧告すること

### 3、勸告委員として

青年会長代理 副会長 寺田清四郎

評議員総代 評議員 佐々木治三郎

幹事 〃 会計 廣崎政吉

会員 〃 会員 篠原勇三郎

二十二日 火曜日

一、記事なし

「二十三日 水曜日」

「一、記事なし」

「二十四日 木曜」

「本日は秋」

二十三日 水曜日

本日、前評議会ニ於て勸告委員を定めたる青年会副会長寺田清四郎

「来る」外三名来る。

一、寺田氏は勸告の理由明かならざりしと見へ、一、一反問ニ及びたるが、其の理由とする所を明言せり。勸告出張は来月早々すること

ニ決す。

二十四日 木曜日

本日は秋季皇霊祭ニて休む

二十五日 金曜日 記事なし

二十六日 土曜日

一、記事なし

二十七日 日曜日

本日、講法条令を■研究す

二十八日 月曜日

一、記事なし

二十九日 火曜日

本日、斎藤氏ヲ半日雇ひ入れ、夜学校庭を掃除す

三十日 水曜日 記事なし

拾月壱日 木曜日 記事なし

貳日 金曜日 記事なし

参日 土曜日

一、本日、帝国公道会講師岡本道壽氏来る。

則ち、「会」全国「特」細民部落改善を目的とせる会なり。諸種改善の意見を戦はし、本月二十三、四日頃開催すべき青年会總會ニ来会講演を約す。

二、本日、余柳原藤岡豊三郎氏方ニ出張す（同氏は浅井せい氏の嫁せる内）

「要」用件は左記

過日、浅井せい氏ニ夜学全部提供を促せしに、少か逆意を以て仰ふるの感あるかの如く見へ、或は其の意見たるや余は誰れ「れ」かに施動せられて言へるかの如き誤解あるらしく見へたるを以て、同氏ニ対に余の本件たる余の真意たること及氏の意見たるや万■善の策たることを、更ニ同氏より浅井氏ニ言含められたしと述べ、又今日浅井氏女子の身を以て此の局解決の決「乏」心乏しけ「は」れば、同氏よりよきに思慮を与へ■られたし。又、学今日ニ及べる諸般の会計報告を致すよう浅井氏ニ伝へられたしと伝言し「し」



て来る。

四日 日曜日 記事なし

五日 月曜日

本日、榊野氏より自強会再興、貧民児童就学奨励ニ関する件、衛生実  
施ニ関する件、道路改修ニ関する件、等ニ就きて精査「を」■と意見  
とを依頼せん為め来る（之レ■議員村長ニ提出して此れが道を計らと  
期せるもの、如シ）

六日 火曜日 記事なし

七日 水曜日 記事なし

八日 木曜日 記事なし

九日 金曜日 記事なし

十日 土曜日 記事なし

十一日 日曜日 記事なし

十二日 月曜日 記事なし

十三日 火曜日 記事なし

十四日 水曜日

本日、京都市寺町今出川下ル扇町今井榮吉氏より金貳拾円夜学の為寄  
付せらる

（今日夜学維持費皆無の折り柄、実ニ感謝ニ堪へざりき）

（直ちに領収書と感謝状を出せり）

十五日 木曜日 記事なし

十六日 金曜日

本日、廣崎政吉氏ヲ以テ前寄付者今井榮吉氏方へ領収書及ビ感謝状を  
持ち行けり

十七日 土曜日 記事なし

十八日 日曜日 記事なし

十九日 月曜日 記事なし

二十日 火曜日 本日、青年会評議員を開く

秋季総会ニ就きて

二十一日 水曜日 記事なし

二十二日 本日、総会諸準備

二十三日 金曜日 本日ハ本村祭日ニテ休学

本日、祭日なるを以て本村青年会秋季大会を開催す

会順

一、開会の辞■ 会計 廣崎政吉

一、君が代唱歌 二回 一同

一、戊申詔書奉読 会長代 上田静一

一、開会の主旨及び本会大略 〃 全

一、来賓演説 柳原町長「帝国公道」明石民藏

一、全 公道会講師 岡本道寿

一、薩摩琵琶 清水外二名

一、講談 世続 一

一、茶「話」菓配布 一同 〃

右

本会来賓名簿

郡長代理郡首席書記、田中村長、小学校校長、光福寺住職、柳原町長  
明石民藏、帝国公道会講師岡本道寿、高野河原夜学教師、榊野朝則諸  
氏

会員 百名ばかり

一般人 百名ばかり 他部落会員五、六名ばかり

本会開会中会員、一般人共嚴肅に盛會を極めたり

二十四日 ■土曜日

二十五日 日曜日

二十六日 月、本日、柳原町小学校ニ於て「落」■部落改善ニ関する

講演會ありたり。講師として大江天也師(卓三)、岡本道寿師等。帝

国公道會の發起ニかゝる

右、招待を受け「余(上田)」上田(余)、広張夜學として出張

本村内青年数名參席せり

同會ニは「地名」知名の人多く集り居れり

【大江氏ハ維新當時の一明星として夙ニ其の名高く、旧穢多民族を廢

することに尽力せられ、其の後政界ニ一角を著はし、今や社会改善

ニ尽瘁せらるゝ人】

二十七日 火曜日 記事なし

二十八日 水曜日 記事なし

二十九日 木曜日 記事なし

三十日 金曜日 記事なし

【三十日 本日、夜學ガラス全六枚半、四枚修繕ス】

三十一日 土曜日 本日は天長祝のため休み

拾壹月

一日 日曜日 記事なし

二日 月曜日 記事なし

三日 火曜日 記事なし

四日 水曜日 記事なし

五日 木曜日 「記事なし」本日、神谷、丹波、笹村喧嘩を

なしたり。依つて訓誨す

六日 記事なし

七日 一、土曜日 本日、膠洲青嶋陥落せり。依つて之れが唱歌

を教ゆ

二、本日、教室ニ入りしに生徒學用品及教員室鉛筆二十本

程、及雜記帳十冊、白墨、紙はさみ、朱墨等を盜まれ

たり。何れの者とも明かならず。多分昼間小供の入り

て盜みたるならん。

三、本日、五、六年生より白墨一箱寄附せり

【大正三年十一月七日 膠洲濟青嶋陥落せり】

八日 日曜日

九日 一、本日、田中村全村ニ関する各部落「貝」創立委員會を

を本夜學ニ開く

二、本日、前々日、土曜日盜まれたる師用物品、其の他生

徒學用品殆ど返る(誰れも知らぬ間に盜み、又、誰れ

も知らぬ間返り來たれり。則ち良心の光明ニ照らされ、

其の否を知りたるならん)

十日 火曜日 記事なし

十一日 水曜日 記事なし

十二日 木曜日 記事なし

十三日 金曜日 記事なし

|      |     |   |
|------|-----|---|
| 十四日  | 土曜日 | 記事なし  |
| 十五日  | 日曜日 | 記事なし  |
| 十六日  | 月曜日 | 記事なし  |
| 十七日  | 火曜日 | 記事なし  |
| 十八日  | 水曜日 | 記事なし  |
| 十九日  | 木曜日 | 記事なし  |
| 二十日  | 金曜日 | 記事なし  |
| 二十一日 | 土曜日 | 記事なし  |
| 二十二日 | 日曜日 | 記事なし  |
| 二十三日 | 月曜日 | 記事なし  |
| 二十四日 | 火曜日 | 記事なし  |
| 二十五日 | 水曜日 | 記事なし (本日、入営兵送別会を開く)                         |
| 二十六日 | 木曜日 | 記事なし  |
| 二十七日 | 金曜日 | 記事なし  |
| 二十八日 | 土曜日 | 記事なし  |
| 二十九日 | 日曜日 | 記事なし  |
| 三十日  | 月曜日 | 「記事なし」 本日、青年会員大島、井上、山中、篠原四名入営祝の為、四ヶ所巡はる (余) |

十二月

|    |     |      |
|----|-----|------|
| 一日 | 火曜日 | 記事なし |
| 二日 | 水曜日 | 記事なし |
| 三日 | 木曜日 | 記事なし |
| 四日 | 金曜日 | 記事なし |

【四日、本日、本校教員廣崎政吉氏の結婚ありたり】

|  |  |
|--|--|
| 五日   | 「本日、本校」土曜日 本日、休校す                          |
| 六日   | 日曜日 記事なし                                   |
| 七日   | 月曜日 本日、村上由太郎他生と争ひ、親来校。種々の争ひ起れり。漸く論じて帰宅せしむ。 |
| 八日   | 火曜日 本日、補習生全部二■小学校学齡調査をなさしむ                 |
| 九日   | 水曜日 記事なし                                   |
| 十日   | 木曜日 記事なし                                   |
| 十一日  | 金曜日 「曜日」記事なし                               |
| 十二日  | 土曜日 記事なし                                   |
| 十三日  | 日曜日 記事なし                                   |
| 十四日  | 月曜日 本日ハ赤穂四十七義士の討入せし日故、本校ニ於て義士談をなす          |
| 一、日本魂、我が国歴史の裏面ニは一ツの正氣流れ時ニ噴火の如く突出して我が国の精華を致す。則ち赤穂義士の如き之れなり。 |  |

右

二、勝田新三左門「の如き」の義談

前本校教員奥村

|     |                      |
|-----|----------------------|
| 十五日 | 火曜日 本日、ストウ■ブ用石炭を買ひ入る |
| 十六日 | 木曜日 本日記事なし           |
| 十七日 | 木曜日 記事なし             |
| 十八日 | 金曜日 記事なし             |
| 十九日 | 土曜日 記事なし             |

二十日 日曜日 記事なし

二十一日 月曜日 本日、夜学大掃除をなす

二十二日 火曜 本日、夜学第二学期終業式を挙行す

二十三日 休業中

二十四日 〃

二十五日 〃

二十六日 〃

二十七日 〃

二十八日 〃

二十九日 〃

三十日 〃

三十一日 〃 「本日、本校教師柴原広太郎退職ス」

(抹消)

「二月

一日 記事なし、前休職中ノ奥村郁太郎氏本日ヨリ出勤スルコト、ナル

二日 記事ナシ

三日 〃

四日 〃

五日 〃

六日 〃

七日 〃

」

一月

一日 本年ハ諒闇中を以て拝賀式を略す

二日 記事なし

三日 記事なし

四日 記事なし

五日 記事なし

六日 記事なし

七日 本日、青年会評議員選挙を成す

八日 記事なし

九日 記事なし

一〇日 日曜日 記事なし

十一日 月曜日 本日、浅井せい殿来る。

夜、小使、家屋の屋賃、此れまで夜学維持金の内ニ繰り入れありしを、本月より講会借金の利子金の内ニ繰り入れたしと申し来る。余、夜維持金困難故、維持方ニ持続したしと主張

すれども、講会の方も困難とて遂ニ先方ニ譲れり(之れにて夜学維持として入金の口皆無となれり)

火曜日 記事なし

十三日 記事なし

十四日 記事なし

十五日 金曜日

十六日 土曜日 (本日、青年会員七十名鬼狩ニ行く)

十七日 日曜日

十八日 月曜日 記事なし

大正四年

十九日 火曜日 〃  
 二十日 水曜日 〃  
 二十一日 木曜日  
 二十二日 金曜日 「二月」(向フ三十一日ニ至ル間記事ナシ)  
 三十一日 本日、本校教師柴原広太郎氏退職ス

二月

一日 月曜日 本日ヨリ前休職中ノ奥村郁太郎氏出勤ス

(向フ十日間記事なし)

十一日 木曜日 紀元節ニテ休学

十二日 金曜日 記事なし

十三日 土曜日 記事なし

十四日 日曜日 記事なし

十五日 月曜日 記事なし

十六日 火曜日 記事なし

十七日 水曜日 廣崎政吉君「妻病欠勤」ノ妻死亡ノ為メ欠勤(忌引)

十八日 木曜日 廣崎政吉君欠勤

十九日 金曜日 記事なし

二十日 土曜日 記事なし

二十一日 日曜日 記事なし

二十二日 月曜日 本日、夜学校庭ニ青年会より桐苗十八本を植ゆる

本日、浅井宅ニ行き慈善教育講の出納決算表を受け取る。但し、あまり簡単にして要領を得がき故、更

ニ明細なる表を作るべく約し居れり。

二十三日 火曜日 記事なし  
 二十四日 水曜日 記事なし  
 二十五日 木曜日 記事なし  
 二十六日 金曜日 記事なし  
 二十七日 土曜日 記事なし  
 二十八日 日曜日 本日より「奥村教員休職ス」

三月

一日 「火」月曜日 記事なし

二日 「水」火曜日 〃

三日 「木」水曜日 〃

四日 「金」木曜日 〃

五日 「土」金曜日 本日、浅井せい氏来ル。兼て申送りたる講法、

最初よりの金銭出納明細書を迫りたるに、本月末日まで猶

予を申し出でたり

六日 「日」土曜日 〃

七日 「月」日曜日 〃

八日 「火」月曜日 〃

九日 「水」火曜日 〃

十日 「木」水曜日 〃

十一日 「金」木曜日 〃

十二日 「土」金曜日 〃

十三日 土曜日 本日、柳原明石民蔵氏宅ニ行き、夜学教育講(同氏

残部引続講)より出金ノ道無きかを尋ねに行けり

同氏ノ言ニよれば、浅井氏より引続き債権ノ回収不十分ノ

為メ、支出ノ道なきのみらず、却て多大の損害を受けんとしつゝ、ありと言へり。

更ニ夜学対明石氏ニ対する債權債務上の關係を、尋ぬ

十四日 日曜日 記事なし

十五日 月曜日 記事なし

十六日 火曜日 記事なし

十七日 水々 々

十八日 木々 本日 氏より杉木本校ニ寄付せり

十九日 金々 本日、浅井氏宅ニ行き夜学講法計算ニ就きて出張せり

二十日 土曜日 記事なし

二十一日 日曜日 本日、補習生一同より学年末生徒賞品寄付金申し込

来る

二十二日 月曜日 記事なし

二十三日 火曜日 「月」火曜日

二十四日 本日、夜学「終」卒業及修業進級式を行ふ

補習科甲組修業者 十二人 證証受領者 一人

全 乙 全 十八人 全 九人

尋常小学科六年々 「五」七人 全 五人

全 五年全 二十人 全 七人

全 四年全 二十三人 全 七人

全 三年全 二十五人 全 十人

全 二年全 二十九人 全 二十四人

全 一年全 十八人 全 十人

賞品授領

特別賞(最高出席者) 男一(賞品硯箱一ツ) 女一、(全フニコ箱)

一等賞 三人(賞品授与録記入)

二等々 十八人

三等賞 十一人

右、賞品購入は上級生徒及び本校出身青年の寄付による

二十五日 記事なし

二十六日 記事なし

二十七日 記事なし

【二十七日より三十日まで余、帰国す】

二十八日 記事なし

二十九日 記事なし

三十日 兼て浅井氏へ言ひ置きたる慈善教育講金銭出納清算表、清算の上、持ち来る

【本日より篠原重三郎氏娘疳痴童児の教育を委託さる】

親友夜学校経営費

収入之部

一、金貳千「壱」壱百八拾五円拾四錢也

内訳

一、金壹百七拾五円也 第五之講有志金

一、金壹百九拾円也 第六之講有志金

一、金六百六拾円也 第七之講有志金

一、金 四拾円也 第壱之講ヨリ寄付

一、金 拾円也 第貳之講ヨリ寄付

|                      |                                |                   |                 |
|----------------------|--------------------------------|-------------------|-----------------|
| 一、金 六拾円也             | 第參之 全                          | 収入之部              | 一、金五千六百五拾四円四拾錢也 |
| 一、金 七拾円也             | 第四之 全                          | 内訳                | 一、金八百八拾六円六拾七錢   |
| 一、金 五拾円也             | 第五之 全                          | 一、金七百七拾壹円〇九錢      | 第老之講ヨリ受         |
| 一、金 七拾円也             | 第六之 全                          | 一、金參千八百円也         | 第貳之講ヨリ受         |
| 一、金 五拾円也             | 第七之 全                          | 一、金參千八百円也         | 一時借入金           |
| 一、金七百拾円也             | 第八、九、十、十一之講ヨリ寄付                | 一、金壹百円拾四錢         | 各講ヨリ受           |
| 一、金壹百円拾四錢也           | 第三、四、五、六之講ヨリ共同掛込ノ募集費及菓子料ヲ以テ寄付  | 一、金拾四円五拾錢         | 他講十三口ヨリ受有志      |
| 支出之部                 |                                | 一、金參円也            | 上田静一ヨリ有志        |
| 一、金貳千壹百八拾五円拾四錢也      |                                | 一、金五円也            | 鹿ヶ谷町中村其ノ他三名ヨリ有志 |
| 内訳                   |                                | 一、金壹円也            | 白川村ヨリ有志         |
| 一、金六百八拾壹円七拾壹錢五厘      | 明治四十一年九月ヨリ大正參年八月申經營費           | 一、金參円也            | 大工浅野ヨリ有志        |
| 一、金貳百〇四円也            | 木柵及修繕費                         | 支出之部              |                 |
| 一、金 七拾円也             | ラルガン購入                         | 一、金五千六百五拾四円四拾錢    |                 |
| 一、金 參拾六円也            | 電灯架設費                          | 内訳                |                 |
| 一、金壹千〇拾五円六拾錢也        | 明治四十二年八月ヨリ大正元年十二月申(三千八百円之利子支払) | 一、金六拾七円六拾七錢       | 明治四十一年度以前備品買入費用 |
| 一、金壹百円拾四錢也           | 夜学校舎建築中へ寄付                     | 一、金五百拾參円也         | 教員住宅買入費用全部      |
| 一、金七拾七円六拾八錢五厘        | 大正參年八月現在金                      | 一、七百七拾壹円九拾錢       | 夜學場買入費用全部       |
|                      |                                | 一、金參千壹百円也         | 校舎及附属建物費用       |
|                      |                                | 一、金壹百四拾九円拾六錢      | 井戸及井戸屋形其他雜費用    |
|                      |                                | 一、金參百四拾九円貳拾參錢     | 備品買入費用          |
| 明治四拾貳年 全四拾參年         |                                | 一、金參百七拾「九円」貳円四拾四錢 | 校舎及附属建物新築ニ付雜費   |
| 夜學場及教員住宅買取并ニ新築費収支明細書 |                                |                   |                 |

一、金貳百九拾壹円參拾錢  
一、金參拾九円七拾錢

用  
教員住宅雜費用  
落成式雜費用

收入之部  
一、金貳万貳千九百〇九円也

内訳

一、金壹万六千六百五拾八円也

諸貸金返戻

一、金四千〇七拾貳円也

講則貸返戻

一、貳百七拾九円也

利子掛立替返戻

一、金五千円也

川合弁次郎へ貸

一、金壹千八百円也

一時貸返戻

一、金壹千百円也

早瀬繁藏へ貸

一、金壹百円也

資金一時借入

一、金八百五拾壹円也

和田太三郎へ貸

支出之部

一、金六百円也

和田鯛次郎へ貸

一、金貳万貳千九百〇九円也

一、金壹百參拾六円也

丹羽平三郎へ貸

内訳

一、金壹百拾円也

仲原平三郎へ貸

一、金貳万〇八百拾壹円七拾貳錢

通帳譲渡（六百九拾七円）

一、金壹百円也

柿本綱次郎へ貸

一、「金壹百貳拾七円也

債権取立費（金五百三十八円七

一、金六拾五円也

和田太吉へ貸

十錢）

一、金參千五百參拾參円也

講則貸金

「通帳引取二付諸入費（四百四

一、金壹百八拾參円也

利掛立替貸

十三円廿九錢）

合計 金壹万壹千六百七拾八円也

負債之部

（二丁落丁）

一、金六千六百七拾七円也

講員掛込（百三十口

一、金壹百貳拾七円也

通帳募集費（一口二付金廿錢）

一、金貳千円也

夜学建物ノ債務

一、金九百八拾壹円九拾九錢

債権取立費（金五百三十八円七

合計 金八千六百七拾七円也

十錢）

差引 金參千〇壹円殘

通帳引取二付諸入費（金四百四

慈善夜学講決算書

一、金九百八拾八円貳拾九錢

通帳引取資金借入利子及手数料

十三円廿九錢）



右之通候也

大正四年三月調

(欄外記載)

「終末ニ記する分

損益決算書

一、金壹万八千六百七十九円參拾錢也

一、金壹万〇參百七拾円也

一、金壹千八百八拾六円也

【損益決算書附ヶ落】記入の事

慈善夜学講第參之講貸借対照表

収入之部

一、金貳万七千八百貳拾六円也

初令ヨリ七十二回ニ至ル掛  
込高

一、金五千四百貳拾九円五拾參錢

一、金壹百參拾四貳拾參錢

一、金壹百〇壹円五拾五錢

一、金壹千參百八拾七円拾貳錢

一、金貳百五拾四七拾五錢

一、金壹千円

合計 金參万六千參百貳拾五円拾八錢也

支出之部

一、金四千五百九拾七円也

一、金壹千百貳拾八円五拾五錢

通帳引取利益金  
諸貸金欠損

利子掛立替欠損」

一、金參百六拾參円拾參錢

一、金貳万〇百貳拾貳円也

一、金七百六拾六円也

一、金七千七百九拾六円也

一、金九拾五円五拾錢

一、金貳百七拾壹円也

一、金九百八拾六円也

合計 金參万六千參百貳拾五円拾八錢也

慈善夜学講第四之講貸借対照表

収入之部

一、金貳万五千六百八拾円也

初回ヨリ六十一回ニ至ル集  
金高

一、金四千七百七拾円五拾七錢也

一、金壹百五拾九円參拾錢也

一、金壹千參百六拾九円廿八錢也

一、金壹千〇拾五円五拾四錢也

一、金五百四円五拾八錢也

一、金六円五拾壹錢也

合計 金參万貳千九百〇五円七拾八錢也

支出之部

一、金四千貳百參拾四円也

一、金壹千〇貳拾貳円七拾八錢

一、金壹千七百円也

雑支出

退会者掛戻

講則貸出金

特別貸出金

本日手元金

当回未集金高

講元帰属分

諸貸金利息  
利子掛利息

入札所益金

帰属分所益

雑収入

一時借入

割増金及花金

經營諸費

第七之講掛込

一、金九千貳百拾円也

退会者掛戻

一、金壹千八百七拾九円也

講則貸出金

一、金八千五百九拾四円也

特別貸出金

一、金四百七拾壹円也

当回未集金高

一、金五千七百九拾五円也

講元帰属分

合計 金貳万貳千九百〇五円七拾八銭也

慈善夜学講第五之講貸借対照表

収入之部

一、金貳万〇百七拾円也

初回ヨリ四十五回ニ至ル集

金高

一、金壹千八百九拾壹円拾六銭

諸貸金利息

一、金壹百六拾四円貳拾六銭

利子掛利息

一、金壹千六百七拾壹円〇九銭

帰属分所益

一、金六百參拾八円貳拾銭

入札所益金

一、金壹百七拾五円也

有志金

一、金九百七拾貳円七拾五銭

雑収入

合計 金貳万五千六百八拾貳円四拾六銭也

支出之部

一、金參千五百円也

割増及花金

一、金八百貳拾七円參拾壹銭

経営諸費

一、金貳百貳拾九円也

雑支出

一、金壹千六百四拾円也

第七講掛込金

一、金參千九百七拾円也

退会者掛戻

一、金壹千五百七拾四円也

講則貸出金

一、金參千九百円也

特別貸出金

一、金壹千七百八拾貳円拾五銭

本日手元金

一、金五百拾五円也

当会未集金

一、金七千七百四拾五円也

講元帰属分

合計 金貳万五千六百八拾貳円四拾六銭也

慈善夜学講第六之講貸借対照表

収入之部

一、金壹万九千四百貳拾六円也

初会ヨリ四十三回ニ至ル掛

込金

一、金壹千四百拾壹円貳拾貳銭

諸貸金利息

一、金壹百參拾八円七拾七銭

利子掛利息

一、金四百八拾貳円九拾壹銭

入札所益金

一、金壹千七百參拾九円五拾八銭

帰属分所益

一、金壹百九拾円也

有志金

一、金七百四拾九円參拾五銭

雑収入

一、金八百円也

一時借入金

合計 金貳万四千九百參拾七円八拾參銭

支出之部

一、金參千參百八拾九円也

割増金及花金

一、金九百參拾六円卅九銭

経営諸費

一、金貳百拾円也

雑支出

一、金壹千七百円也

第七之講掛金

一、金参千貳百五拾八円也 退会者掛戻  
 一、金壹千七百八拾円也 講則貸出金  
 一、金貳千五百五拾円也 特別貸出金  
 一、金壹百九拾五円四拾四銭 本日手元金  
 一、金四百八拾円也 当会未収金高  
 一、金七千七百参拾七円也 講元帰属分  
 一、金参千百円也 不動産所有

合計 金貳万四千九百参拾七円八拾参銭

慈善夜学講第七之講貸借対照表

収入之部

一、金参万壹千五百七拾四円也 初金ヨリ三十四回ニ至ル集

金高

一、金貳千百〇八円貳拾九銭 諸貸金利息

一、金九拾七円八拾六銭也 利子掛利息

一、金六百六拾六円六拾銭 入札所益金

一、金壹千四百拾六円貳拾八銭 帰属分所益

一、金六百六拾円也 有志金

一、金九百〇八円四拾銭也 雑収入

合計 金参万七千四百参拾壹円四拾参銭

支出之部

一、金五千八百参拾円也 割増及花金

一、金壹千貳百四拾五円拾七銭 経営諸費

一、金六百八拾円也 雑支出

一、金参千五百五拾四円也 退会者掛戻  
 一、金壹千六百八拾七円也 講則貸出金  
 一、金壹万貳千五百五拾円也 特別貸出金  
 一、金参百四拾貳円貳拾六銭 本日手元金  
 一、金四百貳拾八円也 当会未収金  
 一、金壹万壹千五百拾五円也 講元帰属分

合計 金参万七千四百参拾壹円四拾参銭

三月三十一日

1、四月より夜学経営維持費として村役場より毎月五円宛、前年度分より増加して受くる事となる。

2、本日、浅井氏来り、夜学校舎土地、建物ニ関し債務の返金眼前ニ迫り、如何ともする不能を以て、何とかの方法を講じられたしと申し来らる。

依つて余は左記申述ぶ。

余は先ニ講の利害損失の有無ニか、はらず、貴家私財を以て提供さるべしと言へり。

今「や」■も同意見なれば斯く出来ざるや。若し全部出来ざれば幾分ニてもなされたし。他ニ当るとしても貴家ニして債務の半額以上出金せざれば他ニ当り難し。故ニ先づ自己の覚悟を早く定められたしと言ふへり。

四月一日

一日 記事なし

二日 本日、夜学関係者を集む

集会者五人、故二更二七日を期して集会すべく、且ツ浅井氏の出言の意を述べて開散す

三日 本日、1、本日、夜学掃除をなさしむ

2、本日、補習生ニ全部生徒を分「担」担して就学督促の道を講ぜしむ

3、本日、篠原重三郎氏前集会の意を尋ねに来らる

四日 「記事なし」 本日、柳原浅井氏まで出張す

五日 本日より夜学を開始す。集る生徒百余名

六日 記事なし

七日 本日、夜学関係者を更に集む

集会、慈善教育講働

早瀬門蔵、和田鯛次郎氏

同、補習講北部側

松下清三郎、川口松次郎氏

同、補習講南部

寺田清四郎氏

生徒、青年選出、夜学世話人

井上未造、篠原重三郎

篠原勇三郎、鍵田清三郎

佐々木浅吉氏

#### 議事

余1、開会の詞を述ふ

本夜学は幸に諸氏の御尽力により維持費の道は村役場の

補助を受けて維持するを得たり。然るに本夜学ニ対する負債の整理をする必要生じ、既ニ浅井氏は此れが負担ニ不堪。何とか諸氏の御尽力を煩したしと。

2、慈善教育講の決算を■述ぶ

早瀬氏 自己同講ニ対する意見を述ぶ

一同 暫時思考

余 補「習」助講ニ就きて諮問をなす

寺田 自己中間の講会の現状を述ぶ

現在ニ於て債権の回収の見込みつかず

補助講（北部の部）ニ対する諮問を如何す

松下 寺田氏同様の理由

一同 更ニ思考す

1、遂ニ浅井氏ニ対し本夜学負債の半額「を」の出金を乞ひ、他は各関係者及有志ニ於て何とかの方法を講ずること

2、現在教育講ニ対する総ての債権を夜学ニ「上渡」譲渡して時期を見て回収し、以て夜学の基本財産とすること

十一時散会す

八日 記事なし

九日 記事なし

十日 記事なし

十一日 記事なし

十二日 記事なし

十三日 記事なし  
 十四日 記事なし  
 十五日 記事なし  
 十六日 記事なし  
 十七日 記事なし  
 十八日 記事なし  
 十九日 記事なし  
 二十日 記事なし  
 二十一日 記事なし  
 二十二日 記事なし  
 二十三日 記事なし  
 二十四日 記事なし (田中小学校同窓会アリ)  
 二十五日 記事なし  
 二十六日 記事なし  
 二十七日 記事なし  
 二十八日 記事なし  
 二十九日 記事なし  
 三十日 記事なし

五月

一日 土曜日 記事  
 二日 日曜日 記事なし  
 三日 月曜日 本日、田中小学校増築の為、建築中

本学内四年生男女生を本夜学ニ受けて昼間授業すること、

「四日 火曜日」

なれり

本日より田中小学生徒にして西田中出身生徒のみ本夜学ニ入れたりとして本部内父兄に不腹の声ありとて種々風説を青年より言ひ来る

1、一昨年より昨年二かゝる夜学問題の如き、全く我が部民を排斥し、軽視せる田中校長の所為なりと

2、部民生徒のみ区画的扱ひなりと

3、再三のかゝる偏視の行為は断然ゆし難しなと色々の風説伝はれり

4、若し「兄」生徒父兄にして過激なる感情を起して事変起れば夜学関係者、青年■役員は部内生徒父兄に無視せられんと言ひ来る

【近頃、日支交渉危機ニ迫る。いつ開戦かも知るべからず】

【支那、我が要求を入れる。遂ニ平和となる】

四日 火曜日 本日、夜学世話人、青年会役員全部を集む。協議せり。

1、集会員より種々の資問を受く

2、余、之れニ対して

一、夜学を使用せし理

三日朝、第二時限小学校長余ニ向ひ、突然ながら貴殿の夜学を「貸」借用したし。見らるゝ如く、既に増築着、生徒の入れ場所なきに窮せり。依て貴夜学を「貸」借り受け、西田中出身四年生男女を入れたしと(此の時既ニ教室ニ生徒入場せるにかゝはらず土方手伝人夫は旧校舎の屋根瓦を

めぐり居れり)

二、余、如何にも過急の事なれども、既二人夫の着せる折柄なれは何「の」する余地もなし。兎に角、夜学はお貸し申さん。而し夜学二連れ行、生徒に就きては西田中出身生のみ連れ行かば問題起らん。依つて四年生男子全部(各字通じて)を連れ行申さん。すれは公平ならん。

三、それは彼の部落二よからんも、又、他部落の感情は悪からんと言へり。

余、同一村内にしてたとへ〇〇にしても相親和すべき理を説けば、他子強いて之れで不満の言を成さず、否超然として出づれば引きて将来村内の平和を保つを得んと説けり。

然るに余の建言を用ひずして西部落出身生のみ区分せり、遂二今日会議には区別的扱ひに不服故公平なる扱ひある■たしと言、書面を校長宛二提出せり

(之れ前夜学問題関係上斯くなりしならん)

五日 本日昼間生徒を元の如く又田中校二引き取ることとせり

余更に前主張を述べしも用ひざりき(小学にては生入る、教室なき二部教授を取れり)「昼」昼間「期」斯かる手数に出でても猶他部落生を彼の夜学二入れざれば如何排斥せる如き行為に見ゆるとて切言せしも校長は他部落の若し不服を抱かんと恐れたるも、の如し

六日 記事なし

七日 記事なし

【七日 本日、熊本県人なりとて四、五日前より本村内の或る家に居候して居る者、余の内に来る。何かの方法にて救済して下されと言

ひ来る。依つたる人のつてにて日出新聞二添書してつかはす。然■  
ニ思はしく行かずとて夕方又来る。依金五十銭与へて何か就職しないと言ひて出す、後日或る販売員二入れりと言ひ来る】

八日 記事なし

九日 記事なし

十日 記事なし

十一日 記事なし

十二日 記事なし

十三日 一、木曜日 本日、村内の有る一人夜学来り、本初め田中

校生徒を本夜校二入れ(昼間)たるは全く本部落民を区排斥的区画せるなりと言ひえたる二依つて余其実状を弁明す。

兎角十六日を期して更二面談せんと言ひて別る。

二、本日、青年会評議會を会を開く(春季總會二就きて

十四日 記事なし

十五日 葬祭に就きて休日

十六日 本日、本校二於て青年会春季總會を開く、及び衛生講話会を兼

ぬ

一、会員 七十名ばかり 集会

二、一般人 五十名ばかり

三、外部来会者

前府立医学校教授前島氏、府衛生課長泉氏、■田中校々医  
日置氏、警察部より巡査三名

1. 初め 開会の辞 上田副会長

2. 衛講話 前島医師

3. 衛生「課長」 泉「氏」課長

4. 衛生掃除ニ就きて警察部長…

5. 青年会会計報告 上田副会長

6. 茶「話」菓及福引

十一時閉会

十七日 本日、学校後しまひ及掃除

十八日 記事なし

十九日 記事なし

二十日 記事なし

二十一日 記事なし

二十二日 記事なし

二十三日 「記事なし」

「二十四日 記事なし」本日、柳原町浅井氏ニ行き夜学校地校舎に對する負債償還法ニ就きて面談す。「兎に角」二千元の負債を田中宇内千円とし貴殿ニ於て千円の分担せんと思ひ居り、其の儀と仮定して貴殿ニ相談を持ち込みたるなり、双方數言、兎に角其れとして右話を進めんと言ひて返る

二十四日 月曜日 記事なし

二十五日 火曜日 記事なし

二十六日 水曜日 記事なし

二十七日 木曜日 本日、田中小学校ニ郡視学「を」の来るを幸ひ、左

記相談す

一、西田中夜学にして当然存在せしめざるべからずとせば目

下二千元の負債償還の道を講ぜざるべからず  
二、而して二千元の内

一千元は西田中宇内二五百円、浅井氏二五百円は略確實と認めれば、他一千元は田中全村ニ渉る富豪家の寄付を仰がんとす（例へば、西園寺公初め鐘紡、清野其他有志）  
三、右意見を郡長ニ相談下され一顧の力を預かりたしと述ぶ  
四、視学は何れ郡長ニ相談の上にと言ひて別る

二十八日 本日、校内二種痘を施行せり

二十九日 記事なし

三十日 日曜日 記事なし

三十一日 月曜日 本日、郡長宅ニ出張す

夜学土地家屋ニ對する負債償還法方ニ就きて相談ニ行きたり  
余、親友夜学校の目的

西田中村の教育状況の一般

同夜学の教育成績

夜学と慈善教育講と関係

講法の大体の顛末

負債の性質、及び債権者との関係

「慈」前日夜学關係を集めて協議せし大要（五月協議会要項）を話す

郡長 学齡兒童は村の責任なれば村会ニかけて此れが所決を定めては可なら

余 法令通り論通り論ずれ、斯くあらんも實際として田中村は既に本夜学ニ就きて此れ迄度々村会ニかけ、多大の補

助金を受居る事「なれば」又「字」村治上字別は無きもの事二字感情もある事ならんと思ひ、私より又々村会二本夜学として提出案を出すことは致し難く故二村内有志の寄付を乞はんと思へり

郡長 寄付などは性質を明かにせざれば出来難し、兎に角一度の貴「安」安有二談じ、更ニ協議をなさんと言へり、故二いつでも出張すければ字有志を集めて意見をまとめられたしと雑談時余 別る

#### 六月

- 一日 記事なし
- 二日 記事なし
- 三日 記事なし
- 四日 記事なし
- 五日 記事なし
- 六日 本日、浅井宅二行き、去る三十一日郡長との交渉を語る
- 七日 月曜日 記事なし
- 八日 記事なし
- 九日 記事なし
- 十日 木曜日 本日、大掃除を成す
- 十一日 金曜日 本日、校内井館の台石「動」ゆるみたる結果、自然二倒れ屋根瓦殆ど破壊す、柱其他ぬき殆ど折れたり
- 十二日 土曜日 記事なし
- 十三日 日曜日 本日、倒壊井屋館を「方」片付ける

- 十四日 月曜日 記事なし
- 十五日 火曜日 記事なし
- 十六日 水曜日 記事なし
- 十七日 木曜日 記事なし
- 十八日 金曜日 記事なし
- 十九 土曜日 記事なし
- 二十日 日曜日 記事なし
- 二十一日 月曜日 記事なし
- 二十二日 火曜日 記事なし
- 二十三日 水曜日 「記事なし」
- 「二十四日 木曜日 記事なし 木曜日」

本日、吉沢学務員の家二至り、夜学負債に対する一件、及西田中教育状況を述べ、夜学負債の「村会」件村会二かくるの必要を認めらるるや否やの意見を聞き取る為め出張せり、同氏賛否何れになるとも兎に角其二対する諸準備をなし、村会二■掛けらる、当然を主張せり

- 二十四日 木曜日 記事なし
- 二十五日 金曜日 記事なし
- 二十六日 土曜日 記事なし
- 二十七日 日曜日 記事なし
- 二十八日 月曜日 記事なし
- 二十九日 記事なし
- 三十日 水曜日 本日、村会議員大西庄兵衛氏宅二行き、前学務員宅二行きて述べたる同様談じ、前記同様の同意を得たり



七月

一日「曜日」 木曜日 記事なし

二日 金曜日 記事なし

三日 1. 土曜日 本日、立石議員の宅ニ行き、前同様談じ、同様同意を得たり

2. 浅井氏、余の不在中、夜学負債ニ対する解決ニ相談ニ来たら

む

四日 ■曜日 本日、余浅井宅ニ行、夜学今日までの経路を語る

五日 月曜日 記事なし

六日 「水」 火曜日 記事なし

七日 「木」 水曜日

八日 「金」 木曜日

九日 「土」 金曜日

十日 土曜日

十一日 日曜日

十二日 月曜日 本日、村会議員立石氏宅ニ行き夜学現状を語り、同伴

ニ就き村会ニ議する要項を語れり

十三日 火曜日 記事なし

十四日 水曜日

十五日 木曜日 本日、西田中宇内の有志者二十名を集会すべく通知す

■

十六日 金曜日 記事なし

十七日 土曜日 本日午后二時より夜学負債「二件」整理一件ニ関する

集会をなす

集会人員左記

篠原重三郎、早瀬円蔵、松下清三郎、吉田「泰」周松、廣崎鉄吉、川口松次郎、和田直蔵、仲原平太郎、笹村新右エ門、鋳田清三郎、佐々木浅吉、篠原勇三郎、■諸氏  
外ニ愛宕郡長前田千賀良殿

順序

1. 説明 村内教育状態

2. 夜学現在の会計

3. 負債ニ就きて

4. 郡長訓示

教育の必要、本字内教育統計表ニ対して本夜学の成立如何は諸氏の努力ニあること、短氣を出さず円満ニ解決あらんことを望む

5. ■■「集会人員十名」

決議

本夜学負債整理ニ就きて

1. 浅井氏金一千円負担のこと

2. 金五百円本字内負担のこと

3. 金五百円村会ニ提議すること

6. 浅井氏二千円の交渉のこと

「本」午后七時開散

本日、午后九時半、浅井氏余の宅ニ来る

依つて同交渉をなす（約三時間交渉す）

漸くニして大体の承託を受く

「井」浅井氏は本字内の五百を一層確実な出金し得る様の  
決議ありしなしと言へり

十八日 日曜日 記事なし

十九日 月曜日 ヶ

二十日 火曜日 ヶ

二十一日 水曜日 本日、更ニ字内有志「を」に集会通知を發す 三十

四名分

二十二日 木曜日 集會者僅ニ二名、流會す

二十三日 金曜日 記事なし

二十四日 本日、秘密を以て余の宅ニ來る一人あり

其の主意

1、浅井氏ニして金一千円提出せらるなれば我が部落内有志中より金

一千円提出せん、但し未だ其協議決定致し居らざれば秘密ニ付せ

られたしと

2、余ハ右提言ニ対し浅井氏の出金は大丈夫ニて余責任を以て出金せ

しむべければ御提言の如く尽力ありたしと言ふ

二十五日 本日青年会評議員を開く(盆踊りニ関する件) 集會人員、評

議員、會計、余、及び前年まで盆の筆頭たりし土方親分連

1、本年より字内盆踊ハ本會青年会主催となりて執行する事

2、前年まで筆頭なりし親分立ちは本盆の後援者となりて尽力を受く

ること

3、風紀を改善して他ニ興味を深く踊らしむること(女子の男裝、男

子の女裝を禁ずること)

4、経費ニ関すること

収■出方法

1、字内一般寄付金

2、本會出金

3、売店より徴収

支出法

1、灯火料

2、音頭取謝礼金

3、其他雜費

5、盆踊 四割

八月十五日、十六日、十七日、二十「四」三日 二十四日

五日間回

6、舞踏当日各掛り割宛

二十六日

本日、夜學一件集會すべきを見合す

二十七日

本日、松下、川口、西村三氏余の不在中來宅、余午后十時帰宅松下氏宅

ニ行き右三氏と面會す 則ち同氏組織ニ「関」係ル慈善教補助講より金

一千円出金を申出ず余快諾其の勞を謝す、但し今独りの承諾を要すれば

直ちにと言ふ訳には行かずと、

二十八日

1、本日、余岡村氏宅ニ行き同氏等組織ニ係る講會よりの出金ニ就きて

協議せられたしと申出ず、又他三人にも同協議會開催を催す

右字内一千円出金協議■會日まで秘密ニ属■し其の協議は明日を約

せり

2、本日、青年会役員（少壮派）夜学一件ニ就き其の成行如何を憂へ一

面余意中■更ニ頼母子講を組織せしとして奔走せる者と疑ひ若し講会組織ニ及ばず其の弊害甚大為既ニ今日までの講会ニより弊害百出せりと先生の意中如何又現在夜学負債一件如何なる成行きなるや其の■真意を語られたしと言ひ来る、余曰ク唯今の十ヶ年の苦心水泡ニ帰せず又講会は余断じて組織せず又組織ニ与せず

【余秘密を守らざれば不徳なり真意を言はざれば疑念解けず一寸困却せり】

青年然らば負債償還は如何な方法ニてせらるべきや、それは未だ秘密ニ属す、

青年の意気猛烈なりき

【余、ひそかに青年ニ此の意気あるを喜び】

三十日

余、本日浅井氏、明石氏宅ニ行く

1、浅井氏ニは、西田中字内ニは一千円徴達出来得れば貴殿ニ於て一千円の金子徴達ニ着手ありたしとせき立つ

2、明石氏ニ行田氏債権者ニ関する夜学負債の調査をなす

一、債権者 明石民蔵氏

債務者 浅井清一氏（夜学）

貸借期日 大正二年十二月十五日

元金 二千百円

利子 一ヶ月十八円九十銭

大正二年十二月十五日 元金へ内金返済、入金四百円也

元金 残高一千七百円也

利子 一ヶ月十五円参拾銭

大正四年七月■まで利子金二十ヶ月分三百六円

内滞納二ヶ月分（大正四年六月七分分）

八月一日

本日、教育補助講関係者四名岡村氏ニ集会せり

二日

本日、西村氏、余の宅ニ来る前夜集会の顛末を言ひ来る

則チ補助講利益金一千円の内、吾等三人の責任ニ「関」係る五百円損失あるも吾等自弁を以て出金すければ岡村責任ニ「関」係る五百を請求せり、然るに岡村氏未だ承託なしと、

本日、余、岡村氏ニ行き夜学の■成立、不成立の結果を論じ金額の如何ニか、はらず円満なる協議の下ニ良解決を求めたり

岡村氏、今日まで経路を語る「も」責務者の一人斎藤治三郎氏と同家ニあふ

同氏一時債務の履行を「向」迫らるかと思ひ■心中色々の事を思へる情見ゆ、後更ニ斎藤氏宅ニ行き誤解なきよう弁明ニ行きたり

本日、更ニ青年役員篠原勇三郎氏ニ密使として（同氏は岡村氏縁者）岡村の真意をさぐりニ行具責任の免るべからざることを説く為め派遣す

（以下三行×印ニテ抹消）

「 三日

本日 記事なし

四日 記事なし

五日 「

三日

本日夕方、松下、川口、西村、三氏来ル、則チ岡村氏と意合ハザル為メ、村、郡長の互ニ意見を申立て判断を乞はんと警察ニテ云云の意見あるも其れは最後の手数とせんと言へり、余依て明日郡役ニ出頭を約す

四日

余、本日、村長宅ニ行、前記の事情を述べ、更ニ郡役ニ行きし（郡長出張中）、郡視学ニ面会、更ニ夜学ニ視学を同道して諸種の事情を語る（夜学の沿革、講法の結果、村内教育状態及其の統計等）、依て直ちに補助講関係者四名を召集す（急徴の事とて■他出中集らず）、夕方三名又余の宅ニ来る（結果を聞くべく）

本日又盆踊りに関する評議會を開く

五日

1. 本日、浅井せい氏来る、夜学資金徴達ニ就きて、同氏所有家屋売却ニ就きて

2. 夜学負債は大正二年十二月末ニ於て千七百円其の後利子三百余円、講終末整理今後二百余円を要すれば、浅井氏一千円出金を一千二百余円の出金と認められたしと主張せり、余之ニ対し其の性質を更ニ調査して其の性質上当然と認めば勿論貴殿の出金を一千二百余円と認めん

六日

本日、余郡役所ニ行き、夜学ニ出金すべき一人まで解決つかざる為、郡長の手を煩はしたしと語る（郡長不在、視学ニ語る）、更ニ郡長宅ニ行き本日迄の経過及今後取るべき意見を述べ、夜学経営ニ対し郡長の意見ニ多少合はざる点あり、依つて之れニ弁駁す（則ち郡長ハ事ならざれば

小学校ニて夜学を成せば事足ると余の弊と事実不可能なる事を返駁す）  
帰宅後視学より郡長と協議の結果を手紙ニて送らる（村長視学と出来るだけ熟議せよとの事）

本日、松下宅ニ行き、更ニ四人の集会を要求せり

七日

本日、岡村宅ニ行き、同氏の意見と他三人の意見の異なる点を聞きとる（岡村氏の言ふ条理立たず）

十五日後を期して諸種の集会せんと約す（明日帰国の予定）

八日

本日、余郷里ニ帰国す

【八月八日 帰国、八日 大坂一泊、九日 帰国、本日国ニ於て楠公夫人墓地再興の件ニ就きて色々聞及ブ、十日 土方伯爵楠公夫人墓ニ参拝セラル為めに郷民一同と伯ヲ迎フ、十一日 大坂ニ行キ松尾氏ニ面会、楠公夫人墓地再興ニ対する意見を述べ、又同氏の意見を聞き、更ニ打合す所あり、八月二十日 本日国元東条村長甘南備有志宛楠公夫人墓地再興意見書十ヶ条提出せり】

九日

余不在中、盆踊ニ対する指示来る、郡役所より

十日、十一日、十三日、国元在

十三日

本日、盆踊りニ関する評議會を開き、各掛りを定む

一、灯火掛

斎藤

一、註文々

々

一、音頭々

酒井

一、演舞場設備掛 俠客親分

一、演舞中争擾取締掛 全

一、会計掛り 廣崎

一、集金 佐々木、鍵田、篠原勇

一、風紀掛り 幹事一同

一、総務 「上田」(余) 上田

十四日

盆踊諸準備、出願

十五日

盆踊挙行、午后七時より十二時迄

演舞中よく秩序風紀を守れり、只一人争擾を来たせし者あり、直に沈静せり

十六日

盆踊挙行、規律整然盛大を極む

十七日

盆踊挙行、本日ハ争闘起り頭部負傷出血ニ及びたりしが直に沈静す

十八日

記事なし

十九日、二十日、二十一日

記事なし

二十二日

1. 二十三日地藏盆踊り出願、評議員会を開く

2. 本日、「二十三日」松下宅二行き、夜学一件を協議す、「記事なし」

慈善教育「講」補助講純益金調査す

講終末日 大正三年十一月四日

純益金 壹千四百拾貳円六拾九銭也

内五百拾九円九拾九銭也、岡村音次郎預り利子七年、六百貳拾貳

円七拾銭也、松下、西村、川口預り分湯屋貸付

会頭岡村、役員「頭」以下四人

二十三日

本日、地藏盆踊挙行、秩序整然盛大

二十四日

本日、夜学世話人会を開く

岡村氏対外三人の意見合はざる為め、夜学より此れが中済二出でん事を協議す(早瀬、寺田、吉田由、篠原勇、上田)、中済者として寺田、篠原勇、余三名委任さる

【余の中間 余ハ岡村氏対松下、川口、西村氏の中間ニ立「ちて」つ、

先ニ浅井氏対早瀬氏の中間、青年会对諸講の中間、細民对有資産者

の中間、本字對他字の中間、全国細民対一般国民の中間ニ立てり、

猶官界と民間「と」の中間ニも立てり】

二十五日

本日、余と寺田氏と四人の家二行き各意見を尋ぬ

此の時、岡村氏ハ警察二行き満講届け出しせりと其の所へ警察ニ於ても貸金の返る迄まで出金するに不及と言へり言へり、余不思議ニ思へり

二十六日

本日、斎藤治三郎氏(岡村氏より講金を借用せるもの)を余の宅ニ呼びしに來たらす(同氏の誤解を解かん為め)

二十七日

1. 本日、浅井氏、夜学一件を尋ねに来る

2. 補助講関係者集会を促がす

二十八日

本日、余警察二行き、岡村氏言ひし言の実否を正す、警察知らず答ふ、岡村氏の作言なることを知る

二十九日

「記事なし」青年会盆踊決算報告を湯屋二なす

三十日

1. 本日、岡村氏二行き同氏の考への誤れるを解きしは却て余を怨みがましと言へり（常識を■欠く人物なり）

2. 本日、三名会合の筈なりしが、其の不必要なるを以て川口氏二其の由を伝ふ

3. 本日、仲原氏を以て（岡村氏と同族の間柄）岡村氏を解くべく依頼す

4. 斎藤政吉氏を以て斎藤治三郎氏を解くべく依頼す

三十一日

記事なし

九月一日

本日、仲原氏の報告を聞く

岡村氏曰ク、二百円出金すければ五百弍拾円の取消しされたしと

（抑も岡村氏既ニ五百弍拾は自己預金ニて当然其の責任を負ふべきなり、■事実、三百五十円の家を抵当ニ取り、百七十円の信用貸しにし

ても六拾円の金は入りたるなり、弍百出金位なれば此の際岡村氏は多

大金子を私服するを得）

更ニ同氏を岡村氏宅ニ派遣、同様□参

二日

記事なし

三日

「本日」余、本日、警察二出書

則ち警察が警察として出ですして仲済として講会関係者を召換し、説諭されたしと

四日

本日、岡村、松下、川口、西村、余、五名警察二召換さる

聞取り、説諭、中介、説明等三時間ニ渡り、漸く岡村氏をして四百円出金か、又八百七十円の信用貸分と利子及抵当物件其の儘提供するか何れなりと言ひ、後者を承託して退散す、本問題解決す

五日

本日、浅井氏二出金解決せりと通「す」知す

六日

本日、余府庁二行き、府視学西原氏二面「面」会

七日

本日、余又府庁二行き、私立学校出願手続調査、法人定款等調査す

八日

「記事なし」榊本安次郎氏ヨリ鉛筆百五拾本寄付ありたり

九日

本日、夜学関係者、補助講関係を夜学ニ集む、浅井、篠原重、早瀬、松下、西村、川口、青年評議員…、然るに本日ニ至り又岡村氏出金■に異

議を唱へ出席もせず、人を以て参百円出金せんと言ひ来る、本日流会、更ニ岡村氏へ委員派遣

【九日 本日、余齋藤治三郎氏ニ会ひしに、同氏は余を誤解し一度お礼二行きますなど言ひ、■■■■キヨウカツがましき事を言ひ立てたり、余依つて約一時間説き聞かせたり、中々熱のさめざる由「状」なりき、察するニ岡村ヨリ同人を■■動して余■■ハ齋藤を苦める者「を」の如く言ひふらしたる如し】

十日

「十三日」

記事なし、本日、前夜学生和田福次郎来り（通信学校在中）、私学校を止めたりと言ふ、其の理由を尋ねたるに新平民たる事知れたる故校長より将来の為退学の方が可ならんと言へり、依つて止めたりと（校長ハ厚意を以て言へる由）

■■■■「今日前夜学生和田」言ひ来る、余色々聞取りたり

十一日

1. 本日、余前和田の一件ニ就き通信学校二行き同校長ニ面会、校長の思慮の将来を思ひたる事は謝した「り」れども、然も社会ノ旧慣■■打破上将来同部落民高上心の開発上■■、弊害あれば前話を取り消しありたしと言ひ承任を受けたり

2. 本日、松下宅ニ集会す、三人と余四人

岡村氏ニ最後の回答を求むる為（呼喚度し難し）

3. 本日、浅井氏より手紙来る

十二日

余、本日、浅井氏宅ニ行く（柳原）、余と入れ違ひ夜、余の宅ニて面談、夜学徴収金を迫りに来る

十三日

記事なし

十四日

記事なし

十五日

記事なし

十六日

記事なし

十七日

今日、松下、川口方ニ行き補助講寄付金ニ就きて「結」結果を聞き二行く

浅井氏又来る

十八日

記事なし

十九日、月曜日

記事なし

二十日、火曜日

記事なし

二十一日、水曜日

記事なし

二十二日、木曜日

記事なし

二十三日、記事なし

記事なし

【二十三日 本日は中秋名月の夜】

二十四日、記事なし

二十五日

記事なし

二十六日、日曜日

二十七日、火曜日

本日、岡村氏二行しに同氏は余ニ向ひ先生ハ他ニ厚くして自分ニ薄し、かゝる不公平にてはと理屈を並べ出ず、又前日西村氏より聞けば他三人の方は未だ出金の金子纏り居らずとすれば、先生は私内をべてんニかけ他は未だかゝる始末とは誠ニ不公平なり、此の件起りしより父は病氣ニなり皆先生のおかげなりと……

余、彼に説く

余は誰れに厚く誰れに薄きなど無し、村民全部一視平等なり、余は十年來特ニ誰に恩をきたる覚へもなく個人として厚薄の必要なし、全体ニ尽し全体ニ迫るの意志なり、個人ニ厚くするの必要を認めぬのである

他三人は明かに意志を発表し「正理なれ」居らるゝ故更ニ迫るの必要なし、只貴殿の主張明かならざる為め貴殿ニ迫る次第なり、又他三人の出金は積金して待ち居らるゝにはあらざれども何時でも出す順序ニなり居る■なり、又父の病氣云云、「之れは」然らば近頃■川口氏も病床ニあり、浅井氏も医者ニ掛り居れり、病氣は時の然らしむる所、又病氣は各自の不摂■生より来る者、但し御互ニかくまで心配せらるゝは誠ニ謝し居る次第なり、此の他数千言■、説明、説諭せしに遂ニ疑念解け、「遂に」

終には無学の者故愚痴を申しましてと言ひ理解し悦びて三百円出金する事を快託せり

【二十七日 二十八日 二十九日 三十日

四日 集会、補助講浅井氏各関係者、「流会」流会、五日 集会、

余の宅ニ於て（廣崎と談ず）、六日 藤岡氏、明石氏交渉、余各関係者、調定】

【どうも三百円以上は出金せぬ】

二十八日

記事なし

二十九日

記事なし

三十日

記事なし

十月

一日 記事なし

二日 記事なし

三日 「補」補助講浅井氏関係者を集会すべく通知す

四日 本日集会すべきを病氣の為め欠席者多き為流会す

五日 本日更ニ集会をなす、「六」七名集るべきを余と四名集会す（余の宅ニ於て）

決議

浅井氏より一千円、松下、川口、西村三名より六百円、岡村氏より三百円、合計「九百円」 卷千九百円ニて■今百円ニ対し討議



す、其の結果致し方なき故、債権者明石氏ニ対し減債を乞ふか又同氏ニ対し百円だけ寄付行為として百円「を」の減金を乞ふことにせ「し」り、其の交渉員として浅井氏と余と行くことにせり

六日 前日の交渉二行くべきを浅井氏の嫁入先なる藤岡氏を以て交渉員として出張を乞ふ（明石氏「の都合により」）ニ対する都合二より、遂二百円を寄付行為として二千円負債を千九百円となせり

七日 本日二千円の負債を返「却し」却せり

八日 本日、夜学全部を此れまで浅井個人の所有なりしを、左記七名の共有物ニ登記代へをなせり、浅井清一、岡村音次郎、松下清三郎、西村和蔵、川口松次郎、藤岡豊三郎、明石民蔵（今回出金者なり）

【十一月八日「六日 余」八日 本日は何たる吉日ぞ、十年来の夜学宿題解決せり、本日又兼て交渉中の会社員の世話も解決せり（矢田寅太郎の件）、本日又友人山本君妻たりし山田たか氏を説諭し「或る件」てダイヤ指輪の件解決せり、本日又同窓友人今西、徳田君来り（徳田君の知己又本郡視学）、徳田君と共に吉良視学の家二行き小学校の某件を解決せり、本日又御大典府下大運動会、協議会二出席、同伴決議す、右五件落着す】

九日 本日、■青年会集会すべく評議員会召集の通知をなす

十日 本日、人夫一人雇ひ入れ夜学校庭を掃除せしむ

（夜学を公共ニ提供すべく諸準備中）

十一日 記事なし

十二日 本日、三条部辺協同夜学校ニ出張、夜学設立認可手続方法を調査す

十三日 本日、府庁学務科ニ行き、私立学校設立認可手続き方を調査す、

又柳原町明石民蔵氏、藤岡豊三郎氏宅ニ行く  
十四日 青年会員鍵田多三郎死亡す

香華料壹円五拾銭を送る

十五日 本日、余「府庁」協同夜学校ニ出張

十六日 本日、同窓会役員会ニ出張

十七日 記■事なし

十八日 本日、■私立協同夜学校ニ出張

「十九日」 本日、余の不在中吉良郡視学、夜学視察ニ来校せり

十九日 記事なし

二十日 記事なし

二十一日 本日集会通知せしも、集会者皆無なりし故流会す

二十二日 記事なし

二十三日 記事なし

二十四日 記事なし

二十五日 記事なし

二十六日 記事なし

二十七日 本日、夜学出金者集会を開く

集会者 浅井せい

松下清三郎

川口松次郎

西村和蔵

藤岡豊三郎

上田静一

（以下四行×印ニテ削除）

「 議事

一、夜学存在ニ関する「件」件

イ、本夜学今日ニ至る出金種別

1、「金四百円也 第一慈善教育」

本夜学今日ニ至ル出金概算ノ件

一、金四百円也 第一慈善教育講利益会頭早瀬、副浅井

出金

一、金千七百六拾参円十九銭、第二、三、四、五、六 全利

益会頭浅井

出金

一、金九百円 慈善教補助講利益会頭岡村副会頭松下世話人

川口、西村、

出金

一、金百円 明石「民」

一、千三百九十九円 浅井「藤岡」

「合計今後四千五百六拾貳円貳拾壹」

合計四千五百六拾貳円拾九銭也

外ニ明治「三十九」四十年十一月ヨリ大正参年八月三十一

日迄ノ維持経営費及修繕本棚費ハ第二、三、四、五、六、慈

善教育講より支出す

「付たり」大正三年九月一日ヨリ以降上田静一氏之れ維持

し大正四年四月より村より毎月五円の補助ヲ受く

明治「四」参拾九年十一月ヨリ四十一年九月九日ニ至マデの

「諸経費」維持費は生徒分担及ビ諸寄付ニより上田静一氏之

れを維持す

議事扣へ

田中村親友夜学校協議会記事

大正四年十月二十七日日本夜学校役員会ヲ開ク

出席者左記

浅井せい、松下清三郎、西村和藏、川口松次郎、藤岡豊三

郎、上田静一

議事

一、親友夜学校設立ニ関スル件

本夜学校ハ左記人名ノ協同設立私立学校トナスモノトス

浅井清一

早瀬円造

岡村音次郎

松下清三郎

西村和藏

川口松次郎

「藤岡豊三郎」

明石民藏

二、親友夜学校代表者ニ関スル件

本校代表者ハ田中村長又ハ愛宕郡長ニ乞フモノトス

三、親友夜学校維持経営ノ資金ニ関スル件

本校維持経営ニ関スル資金ハ設立者ニ於テ支出シ村、郡府

ノ補助ヲ乞フモノトス

四、講会債権証書ニ関スル件

親友夜学校ニ関係アル諸講会ヨリ提出セル債権証書ハ設立

者ニ於テ処理スルモノトス

五、功績者ニ関スル件

明治参拾九年十一月以降、今日ニ至ルマデノ夜学関係者ニして特ニ功績アリト認ムル人ニ対シテハ其ノ功績ヲ長ク芳名録ニ記「し」入シ置クモノトス

大正四年十月二十七日

協議者

浅井せい

松下清三郎

西村和蔵

川口松次郎

藤岡豊三郎

上田静一

二十八日 記事なし

二十九日 記事なし

三十日 本日前記議事扣へ書「ニ」ニ依り田中村ニ面談郡長ニして夜学代表者の内託なき時は尊職ニ乞はんと内託を求めたるに村長ヨリ内託ヲ得タリ

三十一日 記事なし

十一月

一日 記事なし

二日 本日夜「役員」代表者を郡長ニ乞はんとして其内託を求めに行きたり

三日 記事なし

四日 本日柳原町明石氏宅ニ行前夜学費二千元ニ対シ百円の減金は寄付行為なるに夜学土地共有切代への際、明石氏も其の一人ニ入りたるは寄付行為ニあらざるを以て「有」所有権提出を談じ登記委任状を受くべき約束なせり

次ニ藤岡氏宅ニ行き同氏及浅井氏の履歴表提出を約せり

五日 「記事なし」

本日青年会評議員会を開く

一、入営兵餞別ニ関する件

二年兵 金三円

三月兵 金五円五十銭とす

二、本月十二日、郡青年運動会ニ関する件

十月出演者を集めて訓諭すること

六日 本日又柳原ニ出張

一、明石氏より土地切代へ委任状を受く

二、藤岡氏宅ニ行、私立学校認可申請書の出願ニ捺印及履歴書を迫る

七日 記事なし

【七日 本日、天皇陛下京都ニおなりニなる】

八日 記事なし

来会者

浅井、早瀬、松下、西村、川口、視学、余

視学 一、私立学校ニする設立者の決心を聞かん為出張せり（郡長代理を以て）

二、西村氏出金の理由を述べ私立を希望す

三、視学私立及現在状態として専ら補習ニ力を入れる、ことを主張す

私立として学齡児を多く入る、は却て村立小学校の就学を少くする傾向を来さざるか

「余」四、余、私立学校設立を主張す

本村として過去統計の示めす所学齡児童を全部「就」村立

小学校（昼間就学）ニ就学せしむるは不可能なること

夜学私立にすれば村内ニ於て必然学事ニ力を注がざるべからざる関係となること

確實なる其の筋の監督を受くるの理あり

五、交互協議十一時二及ふ 一先づ

「就学」私立として出願することに決す

【十一月九日 青年会員瀧川国松君死亡】

十日 本日は御即位式御所ニ於て休校す

十一日 本日、余郡役所二行き郡長ニ面談、夜学の設立ニ就きて

私立とするか否かに就きて「交」協議約二時間

【十一日 郡長ニ面談】

十二日（本郡小学青年会合同軍運動会、上加茂ニ於て）休校す

十三日 記事なし

十四日 日曜日

十五日 本日私立学出願の調印を求むべく廣崎を以て巡らせる

十六日（大あへぎ「朝二城」二条城ニ於て）休校

十七日 記事なし

出席生徒甚だ少し

（大典万歳踊りのため）

十八日 記事なし

十九日 記事なし

二十日 記事なし

二十一日 「記事なし」

「二十」本日青年会員全部■万歳踊りに行きたり

二十二日 記事なし

二十三日 記事なし

二十四日 記事なし

二十五日 記事なし

二十六日 「記事なし」（本日より京都市ニ於て全国教育大会開かる、余

も出張）

二十七日 土曜日 記事なし

二十八日 日曜日 本日夜学校ニ於て青年会員「中」の入退營の送迎会

を開く

二十九日 記事なし

三十日 記事なし

十二月

一日 記事なし

二日 記事なし

三日 記事なし

四日 本日、余郡役所二行き本校を私立学校として出願すべき願書書類

を持ち郡長、視学と意見の打合せ二行く

郡役所ハ余の私立学出願ニ対し、誤解せし傾きあり、則ち余は村  
■及小学校の範圍を脱して独立自由行動を取るべく意志より出願  
ニ及ぶかの如「何し」く思はる、故ニ余、私立学校出願ニ対する  
意見を述べ

一、教育上の効果ニ就きて

本夜学をして村及び小学校の付帯事業として継続せんか将来  
緩慢ニ流れ易く又此れを取り締り好成績を得「んには」るニ  
難からん

一学校として認可を得設立せんか国家の法令により之れを監  
督し其の筋の辞令を受け■て就職する者なれば如何にしても  
或る程度まで其の効果を修めざるべからざる責任生ず

二、私立学校としての村、小学校との關係

私立学校とは言へ村及小学校と密接の關係あれば村長を以て  
設立者総代し田中小学校長を以て本夜学校長とする考へなり  
茲ニ村及小学校と本夜学の關係を明かに結びつくる考へなり

三、不就学と本夜学

本夜学私立学校とせば其の筋に於ても貧困不就学を認めざる  
事ニなり、村としてはどうしても皆就学を講ぜざる結果とな  
る

四、「西中」西田中村内の有力者をして教育ニ尽さしめるの一策  
となる

等語れり

茲ニ郡役所も余の主張を「■」解せられ釈然たるもの如し

第二問題ニ移ル

設立者「総」代表者ニ関する件

余、本夜学今後の経営費は大部村役場より受くる事なれば（併  
し「事實は」寄付的行為とは言ふも、の事實ニ於て勝手とは言  
ひながら同じ村費を出しながら小学校ニ就学するものは本字内  
ニ於て「齡」学齡中11/40なれば一人平均教育負担は他学ニ比  
し非常の高度を示めず割なり）村長を以て設立代表者として村  
と本校と密接なる關係を結ばざるべから依て代表者を永久田中  
村長ニ乞はんとす

現在出願ニは勿論現村長ニ乞はんとす

「設立者代表者は適任」

「郡所」

郡役所ヨリ 校長は如何ニするか

余、校長ハ勿論田中小学校を以て兼任校長とするは当然なる  
現在校長ニては夜学校の民意として前の關係上不可ならん、又  
其の民意を制するとして現校長ハ前の關係上校長として出ずる  
事を得ざる「な」べし  
此れは一問題なり

郡役所は更ニ

役所として君ニ（余の事）校長を頼まんと思へ共村教育として  
村内ニ二名の校長は教育行政上「行」面白からざる事起るかを  
憂ふるなりと

余曰く

我々は一代なり学校教育は永久なり

依て永久的然かも個人の情実ニ走らず村教育を中心として経営

せざるべからず

茲ニ校長問題を残して帰る

五日 記事なし

六日 記事なし

七日 記事なし

八日 記事なし

九日 記事なし

十日 本日村会■議員集会の席上ニ於て私立親友夜学校設立を出願する事を宣言し同意を求む

十一日 本日府下青年大会を師範学校ニ開かる、余出席す

十二日 日曜日、本日府下青年大運動ニ出席す

我青年会選出杉本芳松君は府下ニ於て第二等（一等者ハ■本郡

野口村○）ニて一里四町の道は第一等十七分二十五秒、第二

等杉本郡及本村柳佐古君十七分二十六秒なりき、一秒の差実ニ

残念なりき）を受く、本日午後六時より祝賀会を開く、茶話会

余興名古屋万歳

□方面より祝賀として十数人來会

杉本芳松、佐古佐吉両君の万歳三唱す、九時閉会

十三日 記事なし

十四日 本日、夜学設立者（出会者）六名及村長、小学校長、余の九名

集会、村長を以て設立者代表者とし、私立夜学校設「請申」申

請すべきを「出願す」決議す

十五日 記事なし

十六日 本日、私立夜学校設立申請書を郡役所「二」まで提出す

「十七日」同日

本日、自彊会残部金約六十円余を夜学ニ受くべく自彊会役員各

部ニ回章をまわす

十七日 金曜日 記事なし

「記事なし」

十八日 記事なし

十九日 日曜日

二十日 月曜日 記事なし

二十一日 記事なし

二十二日 記事なし

二十三日 本日、夜学第二学期終業式ヲ行フ

「二十四日」本日、前日回章調印を廻せ「り」し自彊会残金約六十円、

本夜学ニ寄付の調印終る

「二十四日 記事なし」

本日、余府庁ニ行き西原視学ニ面会、私立夜学校設立ニ就き談ず

「二十四日 記」

本日、本日夜学職員二年末慰勞金を与へ簡單なる慰勞会を開く

二十四日 記事なし

二十五日 記事なし

二十六日 記事なし

二十七日 記事なし

二十八日 本日、私立夜学校設立ニ対する余個人として意見書郡長ニ提

出せり、其の要題左記

一、西田中部内ニ多数の不就学生を出すは田中村の重大問題

なる事

二、不就学細民児は昼間就学し不能理

三、右不就学児童救済法方

1、村立小学校夜間開校教授の可否

2、現存部内夜学を■村立小学校の分教場とすることの可否

可否

3、現夜学を私立学校として右児童の就学方法の最適法たること

ること

四、私立「村」学校設立と全田中村の発展

【二十八日 夜学修繕「を」見積りを大工倉森二なさしむ】

二十九日 「記事なし」 本日願書扣へ書、諸規則余の意見書（府庁提出すべきもの）等を代書人東松氏ニ清書せしむ

三十日 記事なし

三十一日 記事なし

大正四年 一ヶ年間の概要

一、職員移動 柴原教員退職 奥村教員就職 奥村退 井上教員就職

ス

二、生徒七十三名修業卒業せしむ

三、夜学諸講会の決算書出来上ル

四、本年四月より村費中より本校維持金毎月五円を受く

五、夜学土地建物ニ対する二千四百円の負債を償還す

六、私立学校出願す

大正五年

一月

一日 記事なし

【一月一日ヨリ五日まで余帰国す（楠公夫人久子の方墓地寺院再興の件ニ就きて）】

二日 記事なし

三日 記事なし

四日 記事なし

五日 記事なし

六日 記事なし

七日 記事なし

八日 本日、余府庁ニ行き私立学校設立の理由書を提出す

九日 日曜日 記事なし

十日 月曜日 記事なし

十一日 火曜日 本日より夜学を始む

十二日 記事なし

十三日 記事なし

十四日 記事なし

十五日 本日、青年会総会を開くも集会員少きため流会とす

十六日 日曜日 記事なし

十七日 月曜日 記事なし

十八日 火曜日 記事なし

十九日 水曜日 記事なし

十九日 木曜

十九日 木曜

二十日 金曜日

二十日 土曜日

二十一日 月曜日 本日、余郡役二行き夜学所置二付き郡視学二談す

本月末ニ夜学関係者、田中村議員、村長、小学校長、余等を

郡役所ニ召集最後の決議を成すべく約せり

二十二日 記事なし

二十三日 記事なし

二十四日 記事なし

二十五日 記事なし

二十六日 本日、机、椅子「戸」建具、井館、修繕、全部成り■タル

茲二机の「全」完全ナルモノ 六十五

腰掛けの完全ナルモノ 六十三

二十七日 記事なし

二十八日 記事なし

二十九日 土曜日、本日野口村長、収入役、兩名余の宅を訪問せらる、

此度、内・文部両大臣の訓令上青年会改善の点如何を尋ねら

る

依つて我が青年会の沿革大要を説明す

猶、部落改善ニ対する雑談をなせり

三十日 記事なし

「三十」本日夜学修繕全部成る

下廊下十間板張廊下シツクイ玄関南側軒下全部コンクリート

三十一日 本日、自強会残余金全部金六拾五円二十八銭を本校ニ受けと

る

本日修繕受負者息正弥三郎氏ニ金五十五円を支払ふ、及び常  
用大工■一日分諸用木代金參円を支払ふ

二月

一日 火曜日 記事なし

二日 水曜日 記事なし

三日 木曜日 記事なし

四日 金曜日 記事なし

五日 土曜日 記事なし

六日 日曜日 記事なし

七日 月曜日 記事なし

八日 火曜日 記事なし

九日 水曜日 本日帝国公道会大江天也氏ニ細民部落改善ニ対する問ひ

合せ書一通出せり

則ち細民部落改善ニは消極的方面ばかりニては到底其の目的を達

する不能故、此の度は積極的方面ニかゝらんとし部落青年を北海

道ニ活動せしめんと欲し官有地払下げを「大江天也氏を絶」帝国

公道会ニ問ひ合す

「十日 木曜日 記事なし」

「十一日 金曜日 記事なし」

「十二日」

十日 本日夜青年会長会議郡役所ニ開かる、余、中途退会、柳原ニ出張す

十一日 金曜日 記事なし

十二日 土曜日 記事なし



十三日 野口村二行く

十四日 月曜日、本日も野口村二行く、改善状況視察及び改善要項打合せため

十五日 火曜 記事なし

十六日 本日、夜学設立者「設」世話人召集状を発す

十七日 記事なし

十八日 本日、夜学設立者世話人会を■開く

出席者

浅井せせ、松下清三郎、西村和蔵、川口松次郎、藤岡豊三郎、

寺田清四郎、佐々木浅吉、廣崎政吉、上田静一

議 本夜学■を田中小学校の分教場とするか私立夜学校とする

かの可否

一、郡役所との交渉報告

二、郡役所「との」と更ニ交渉を重ねること

十九日 本日、設立者及び世話人郡役所二行く

一先づ郡役所の意志通りとして立ち帰る

本日、余野口村々長ニ「面会会し」面会し部落改善ニ対する

「北海」職業改善ニ就き意見を發表し、■北海道移民の適法たることを論ず、猶来る三月五日帝國公道会大江天也氏来京を期

し京都市付近部有志ニ協議する■ことを「談す」約す

二十日 記事なし

二十一日、二十二日、二十三日、二十四日、二十五日、二十六日、記事なし

二十七日 記事なし

二十八日 記事なし

二十九日 記事なし

三月

一日 本日、青年会員篠原小太郎入営す

本日、鍵田伊兵衛氏より額一枚、夜学ニ寄付せら■る

(以前、伊兵衛氏の子息■多三郎夜学生たりしが死亡せしを以て其の記念として寄付せり)

二日 記事なし

三日 記事なし

四日 青年会評議會を開く

五日 本日、柳原町ニ於て部民「大」大会

関西同志会開催出張す

本日、午後七時より大江天也師、林抱明氏両氏を聘して講演会を

開く

(部民開発ニ関する講演会)

付言、大江天也(旧名卓蔵)氏は明治ノ初年旧織族ニ同情を寄せ

時ノ民部省ニ建白し織多非人の称を廃して平民籍とせ「る」し人な「か」り、其の■後官界ニ政界ニ国事ニ奔走し数年前得道

して僧侶の姿となり、旧織多民「部」族の開発ニ務められつ、

あり

六日——二十日まで記事なし

二十一日 北海道移民ニ関し

二十二日 本日進級式挙行す

二十三日 本日より休み

四月

四日 本正大正五年度始業式挙行す

五日 「記事なし」

本日北海道より（大江天也氏派遣）都築達馬氏来ル（余不在中）

北海道移民ニ関する件ニ就きて

六日 記事なし

七日、八日、九日、十日、十一日、十二日、十三日、十四日、十五日、

十六日

十七日 月曜日 本日集会

集会人名

上田（余）、吉田由、鍵田清、西村、松下、吉良視学、渡辺小

学校長

夜学今後の方針ニ就きて協議す

十八日 本日、余郡役所ニ行き夜学将来ニ関する協議をなす

一、四月十八日より六月五日まで日誌を欠く

六月

六日 本日村民西村栄三郎（真カゲ流免許ある者）氏より夜学場内ニ柔

道場の建設を申し来る（青年体育の為め）

日誌記入を欠く

七月

七月二十五日 村内車夫一同より左記文面にて申来る、別紙の通り

（×ニテ抹消）

「謹啓毎度小供や青年が御厄介ニなり、猶其の上先生様ニ御心配をか  
けましては」

九月九日

本日郡役所ニ行き夜学「を」の■処置を早くつくる様交渉ニ行きたり  
則ち夜学をして小学校の二部教授としての認可くるか、又前主張の如  
くするかなり、法規の下ニ置かざれ「れ」ば不「定」安定なを以てな  
り

九月

四日 本日より夜学を開始す

五日 記事なし

六日 記事なし

七日 記事なし

八日 記事なし

九日 記事なし

十日 日曜日

十一日 記事なし

十二日 本日、北の寺ニ於て衛生講話アリタリ

十三日 本日、帝国公道会より北海道移民ノ旅費送達の件通信来る

十三日 記事なし

十四日 〃

十五日 〃

十六日 記事なし

十七日 記事なし

十八日 記事なし

十九日 「記事なし」

本日、公道会より北海道移民取扱イーディング商会との交渉の趣き通知し来る

二十日 「近日」本日、山城八郡青年会運動会選出青年を郡役所ニ通知す

二十一日 記事なし

二十二日 記事なし

二十三日 記事なし

二十四日 記事なし

二十五日 記事なし

二十六日 一、本日、電灯一個廊下ニ付設す  
便所電灯付代へをなす

二、本日火災保険契約す、大坂海上火災保険ニ入る、二千元

掛金三円四十錢也

二十七日 記事なし

二十八日 ャ

二十九日 本日、青年会設員会ヲ開き山城八郡京都市青年会運動会出演

ニ対する評議ス

決議の結果其の計費二円とす

三十日 記事なし

十月

一日 本日ハ雨天の爲め運動会出席を見合す

二日 本日青年会運動会の為左記出席す

幹部会出席 上田静一

運動選手 長田政次郎

全 酒井庄助

全 丹波時蔵

全 津村：

後援 齊藤政吉

松本芳松

外十名ばかり

運動部ニ於て長距離（二里）競争ニ於て本会員長田政次郎第一着ヲ取る

（長距離ハ各郡市中の選手八十名ばかりの内、本会選手長田政次郎は第一着、第二着は野口村杉本民之助なりき）

夜学より金壹円祝儀をなす、廣崎政吉氏より金五十錢祝儀出す

三日 記事なし

四日 「記事なし」

本日北海道札幌公道会■出張員より移民ニ関する通知来る

十日 本日、青年会評議会開催す

一、秋季總會ニ関し

秋季總會は十一月末ニ延期す

二、柔道部設置に關し

当分延期す

十一日ヨリ欠日誌

二十五日 夜学裏ニ柔道場を設置す、柔道教師として本田氏「を」申来る

柔道ニ関する訓示をなす

一、本夜学の柔道は左ノ「目的」事項ヲ目的とス

1、健全ナル身体を作ること

吾人は如何なる仕事ニも堪へ得る身体を作り上げるこ

と

2、意気の養生

確固不拔の精神を養ふ

二、時間の規定

夜学の放課後約一時間

但し土曜日、日曜日は午後七時より約二時間

二十六日 …

二十七日 …

二十八日 …

二十九日 …

三十日 本日、「余」余、北海道ニ向フ（凡二十日間予定）細民移住ニ

関し道庁トノ交渉及キング商会トノ交渉、其の視察の爲め（向

フ■二十日ハ別二日誌アリ）

十一月

十八日 本日、北海道より帰る

十九日、二十日、「二十一日」

二十一日 本日ヨリ大坂、河内ニ出張す、北海道移住者の事ニ関し、

「二十五日、帰る」

「二十」 本日、京都府庁より余の小学校訓導退職の辞令来る

二十五日 本日、大坂河内ヨリ帰る

本日、午后学校教員、村役場員、村会議員有志の送別会を受

二十六日

二十七日 本日入退兵の送別会を夜学ニ開く

二十八日、二十九日、三十日

十二月

一日、二日、三日、四日、五日、六日、七日、「八日、九日」

「十」八日 本日、柔道部は乱雑ニ成りし為、生徒ニ訓誨し、柔道教師

本田ニ注意す

「十一日」 本日、岩坪金箔工場長と左の件を約す

1、本村学齡児童にして貴工場ニ勞役せしむる場合は本夜

学ニ於テ義務教育を終へしむること

2、貴工場は本夜学へ毎月金拾円を教育費として提供する

こと

九日 本日、余、岩坪工場を視察ニ行く、村内学齡児童の作業を見る

十一日 工場長夜学ニ登校を約す

十日 日曜日

十一日 本日、夜学役員会を開く

集會者

浅井、篠原、西村、松下、川口、早瀬、篠原勇、鍵田、廣崎、辻、上田

協議事項

會計主任籤引 篠原重三郎氏

小使ハ 本田 氏 手宛として屋賃たゞ及金壱円

柔道部は当分成績を見て継続すること

十二日 本日、岩坪工場二同工場内学齡児童「へ工」織工の就学証明書を与ふ

十三日

48 35 13

7 28

5 35 15

盆踊

回数 五回 八月 十五、六、七日 22、23日

費用

|    |      |        |    |     |
|----|------|--------|----|-----|
| 一回 | 灯火料  | 1円     | 収入 | 寄付金 |
|    | 音頭取り | 「5円」1円 |    | 店張所 |
| 雑費 | 1円   |        |    |     |

(挾込葉書)

「京都市左京区下鴨西高木町三一」

上田静一方

妙殿

余市大川町

二十二日

静」

(墨塗上鉛筆書)

「フトンウラ地(青色)送り下さい、シンシも成可く送ってほしい、

コンド山岸医の前へ移る、貧弱ナ家、外に空家なし、ソコの人と入れ代り二十三日ヤドガへ、二十五日大そうじ」

(赤ペン書)

「◎此の羽書、私の母と言ふ綴りの中へはさめておけ、母の綴りは単子上置ききの棚ニある」

(墨ペン書)

「昭和十六年五月二十二日、昨夜母の夢を見た。汗がしつぱり出てゐた。母は自分と共に北海道へ来て共ニ暮して居た。自分は五十年來宿望遂ニ母と共に同じ家の内ニ生活をして居るのを喜んで居たが、母は突然「故郷に帰ると言ひ帰郷の準備をせらる。余折角母と同居する事が出来たと喜んで居るのに母は又私を置いて遠く去られるか、私は堪へきれない、どうか出て行かないやうにと泣く／＼母の袖にすがり居れり。母は無言。色白くつや／＼とした四十才位の姿なりき。母は何処へ。私は二十才前後の氣分のやうであつた。」